

**ラオス人民民主主義共和国  
貧困プロフィール調査（アジア）**

**最終報告書**

**平成 22 年 8 月  
（2010 年）**

**独立行政法人  
国際協力機構（JICA）**

**委託先  
OPMAC 株式会社**

## 貧困指標

Region (*)	Country	Basic data					
		Year	Population, total (millions)	Population growth (annual %)	GDP, PPP (constant 2007 international \$) (billions)	GDP per capita, PPP (constant 2007 international \$)	GDP growth (annual %)
Ap	Lao PDR	2007	6.1	2.1	12.7	2,165	4.2

(出所) United Nations Development Programme, "Human Development Report 2009" (2009)

(注) \* AF: Africa, Ap: Asia and Pacific, CLA: Central and Latin America, ME: Middle-east and Europe

Poverty						Inequality		
Poverty incidence (%)			Poverty Gap Index at \$1.25	Poverty Gap Index (National)	Source	Survey year	Gini index	Year
National	Rural	Urban						
33.5	37.6	19.7	14.9	8.0	Lao Expenditure and Consumption Survey III	2002/03	32.6%	2002/03

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trends 1992/93-2002/03" (2004)

(注) \* 国際貧困ライン (1.25 ドル) による貧困ギャップは、2004年のデータによる。(World Bank, "World Development Indicator 2010" (2010))

Remarks (Areas, populations & social groups considered to be vulnerable and Gini index disadvantageous)
特になし

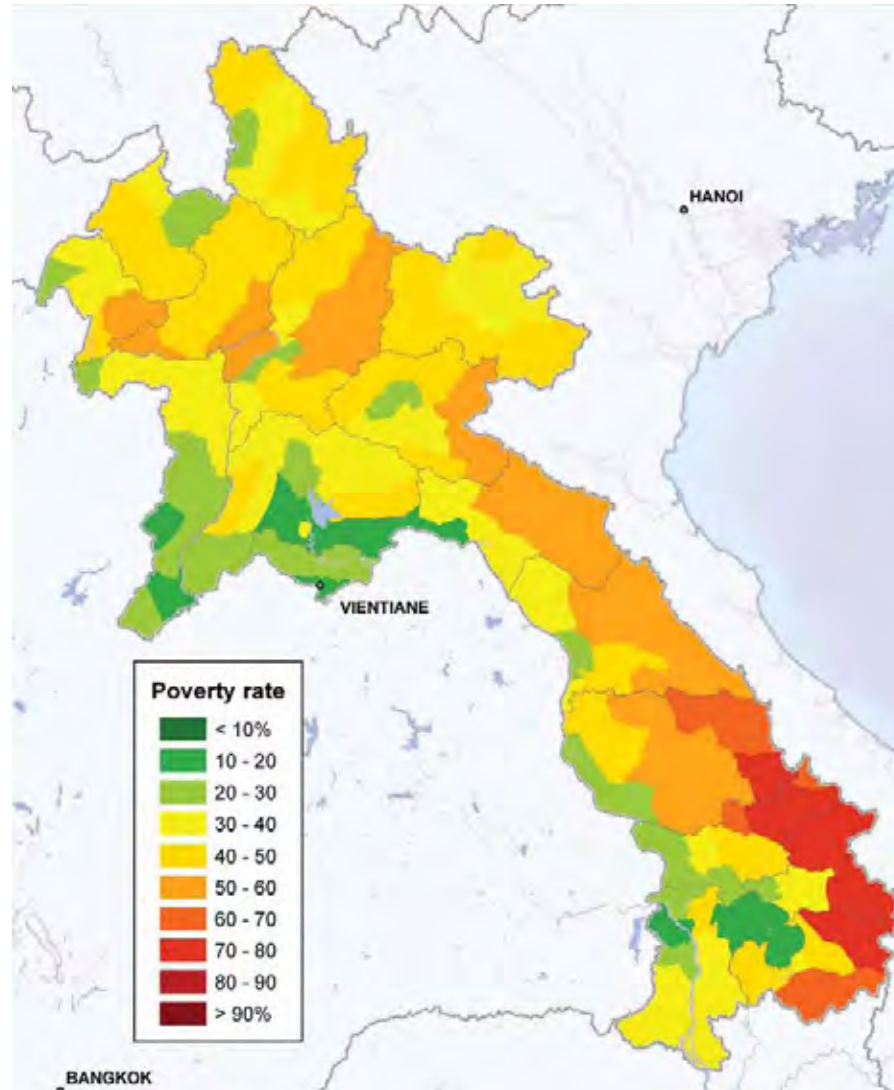
全国地図



## 社会指標マップ

貧困者比率%（郡別）2002/03年

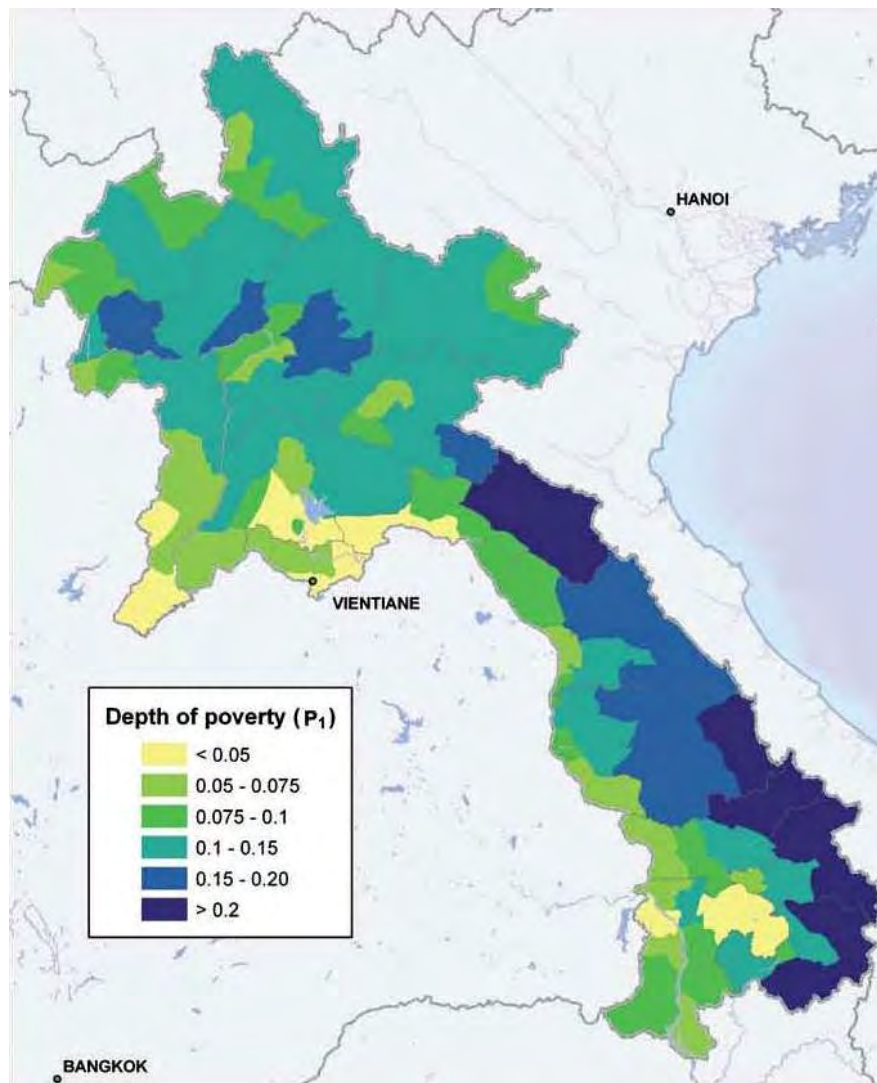
Poverty Headcount Ratio (%) by District (2002/03)



Source: Swiss National Centre of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, "The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR", Figure 5. Map of incidence of poverty of each district

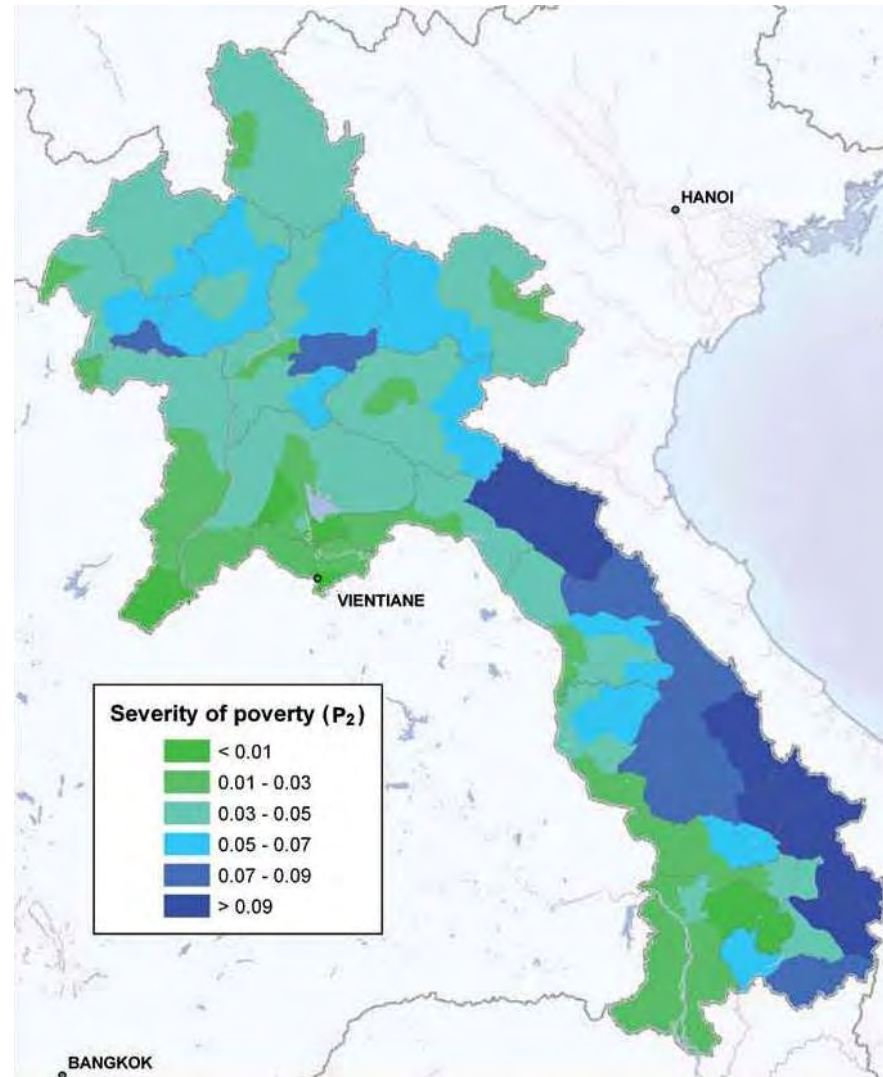
貧困ギャップ比率（貧困の深度）%（郡別）2002/03年

Poverty Gap Ratio (Poverty Depth) (%) by District (2002/03)



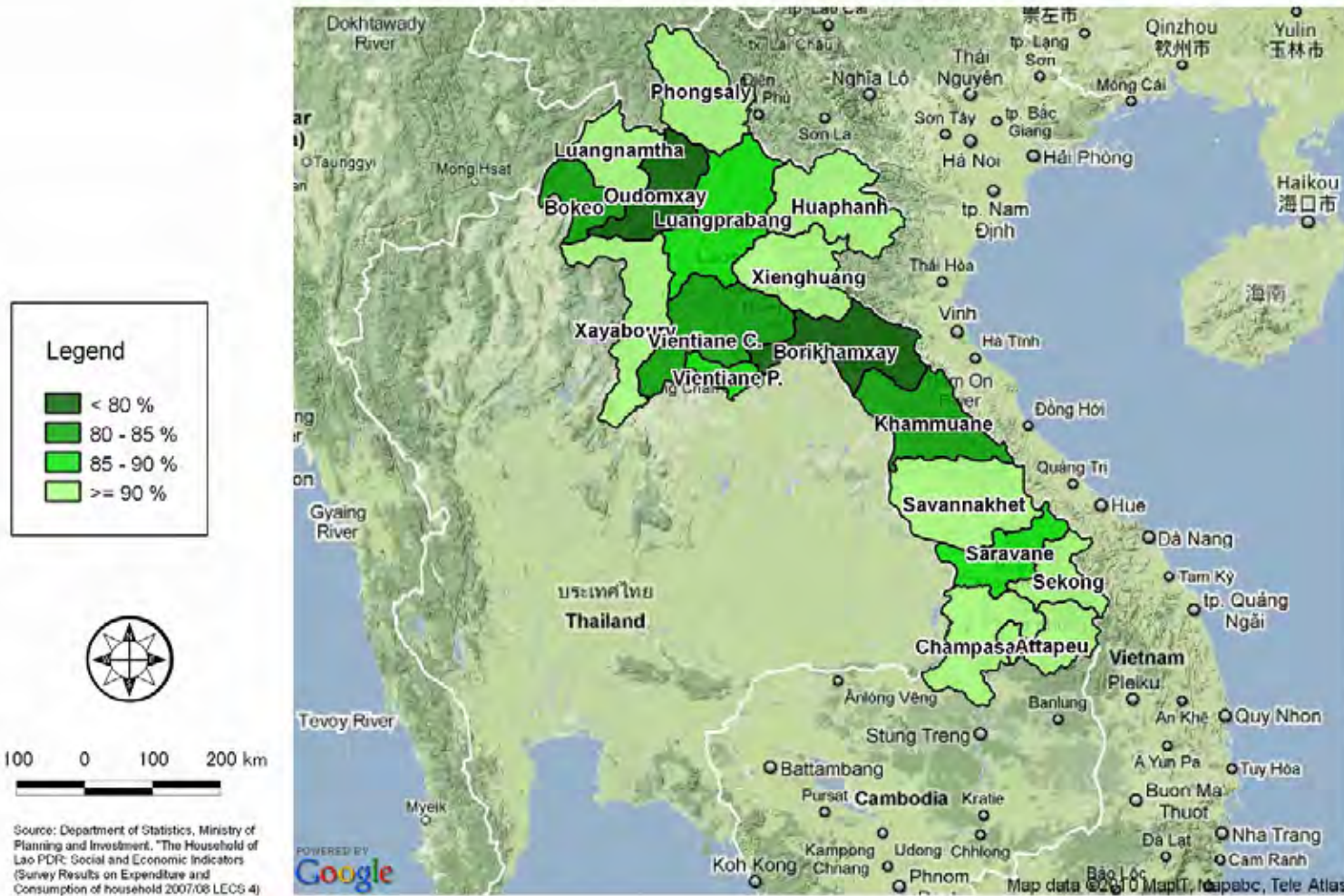
Source: Swiss National Centre of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, "The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR", Figure 13. Maps of the depth of poverty and severity of poverty for each district

二乗貧困ギャップ比率（貧困の重度）%（郡別）2002/03年  
Squared Poverty Gap Ratio (Poverty Severity) % by District (2002/03)



Source: Swiss National Centre of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, "The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR", Figure 13. Maps of the depth of poverty and severity of poverty for each district

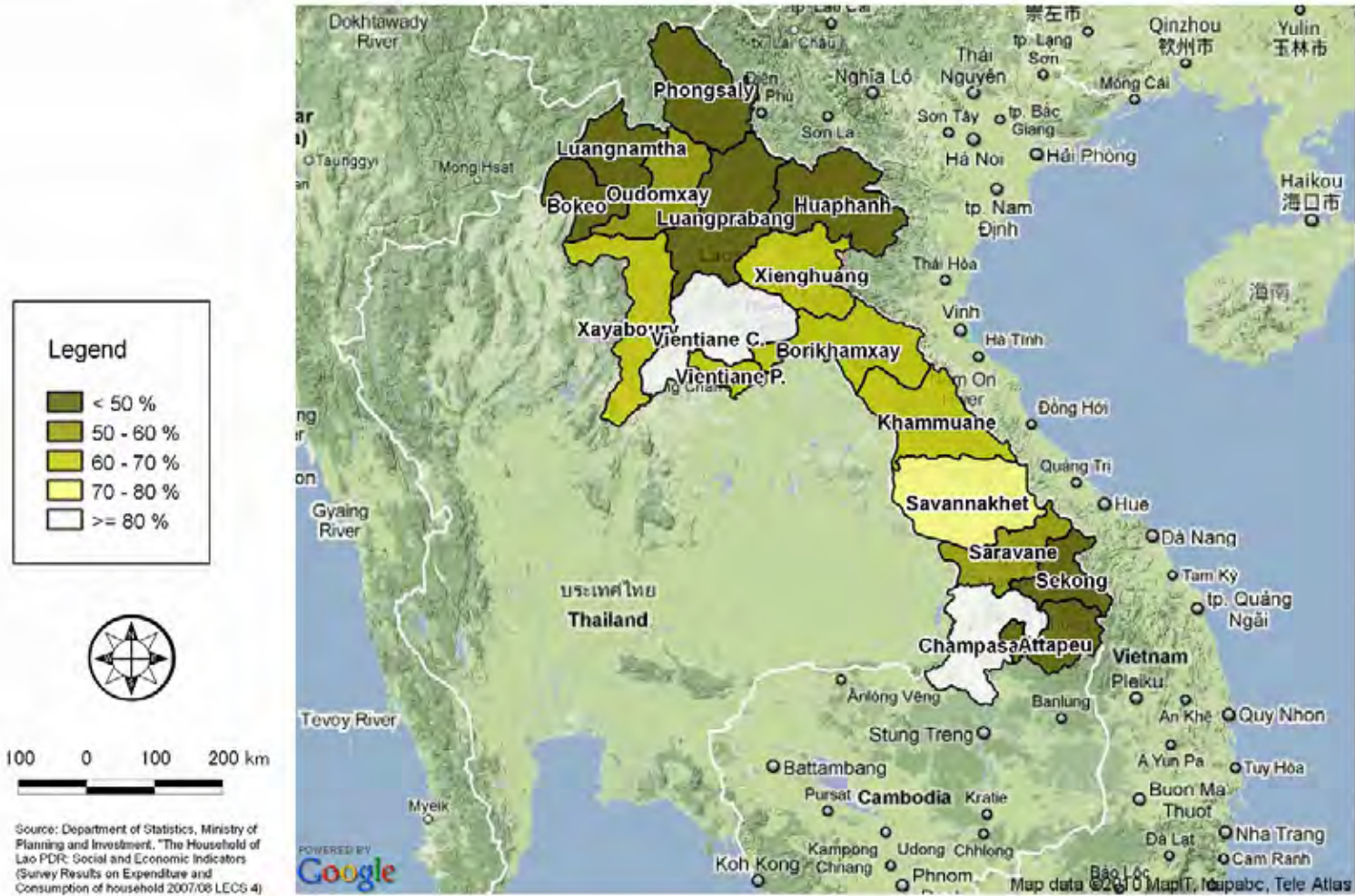
村落内に小学校がある村の割合%(県別)2007/08年  
 % of Villages having Primary School by Province, 2007/08





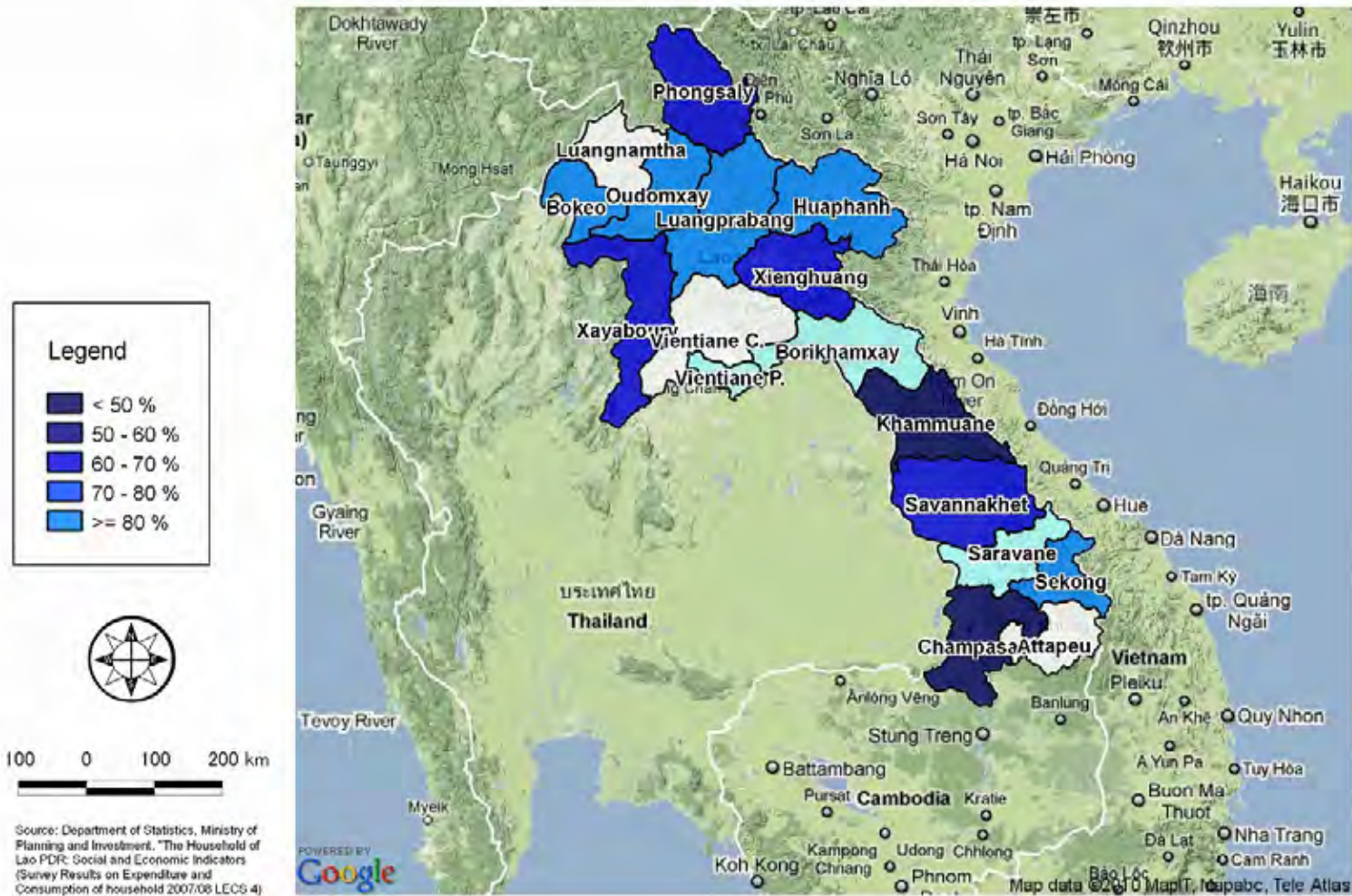
最寄の保健センターへの距離が10キロ以内の人口の割合% (県別) 2007/08年

% of Population to the Nearest Health Center within 10km by Province, 2007/08



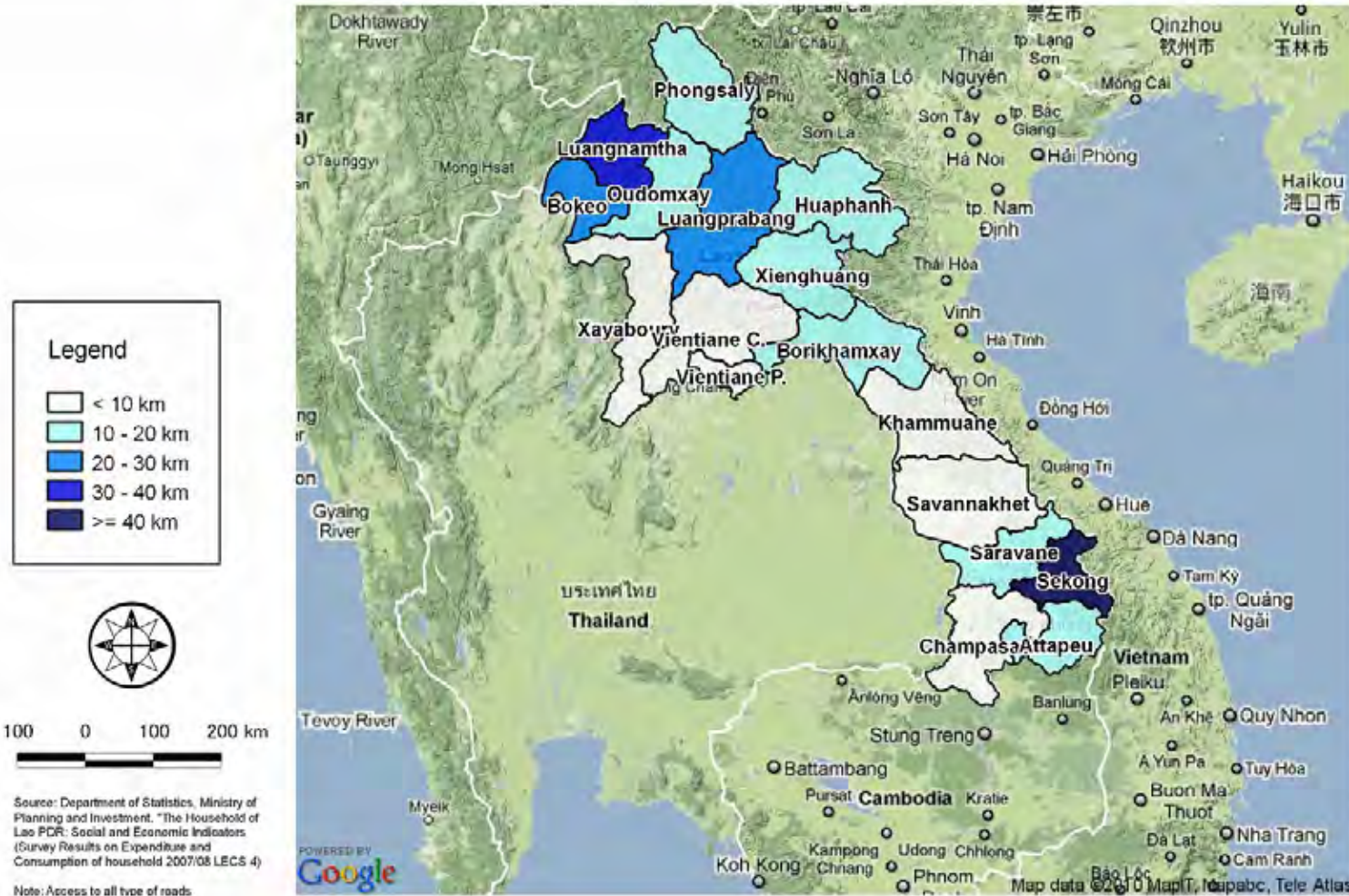
安全な水が村落内にある人口の割合%(県別)2007/08年

% of Population having Safe Water in the Village by Province, 2007/08



村落からの最寄の道路への平均距離km(県別) 2007/08年

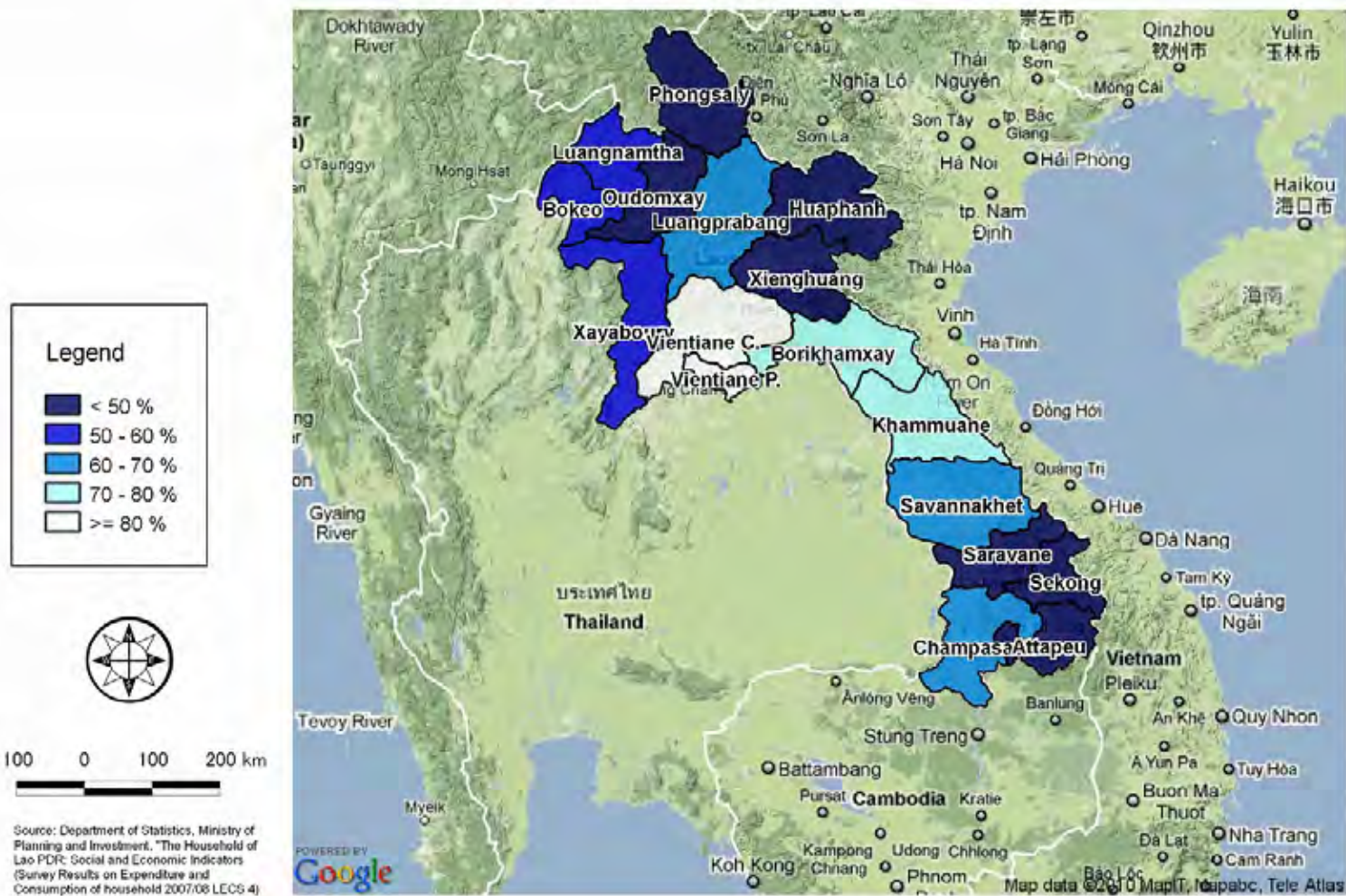
Average Distance to the Nearest Road (km) by Province, 2007/08





村落電化率%(県別)2007/08年

% of Villages with Electricity by Province, 2007/08



# 目 次

貧困指標  
全国地図  
社会指標マップ  
目次  
略語一覧

第 1 章 所得貧困による分析.....	1
1.1 所得貧困の測定.....	1
1.1.1 貧困分析に使用するデータ.....	1
1.1.2 貧困ライン.....	1
1.2 貧困ラインに基づく貧困分析.....	2
1.2.1 国レベルでの貧困状況.....	2
1.2.2 都市・農村部における貧困状況.....	3
1.2.3 地理的区分および立地による貧困状況.....	5
1.2.4 農業・生態区分および地形による貧困状況.....	11
1.2.5 民族による貧困状況.....	14
1.3 不平等指数と経年変化.....	15
1.3.1 国レベルおよび都市・農村部における不平等状況.....	15
1.3.2 地理的区分による不平等状況.....	16
1.3.3 農業・生態区分および地形による不平等状況.....	17
1.3.4 民族による不平等状況.....	18
第 2 章 所得貧困以外の方法による分析.....	19
2.1 当該国政府による指定貧困地域・集団.....	19
2.2 脆弱性分析.....	23
2.2.1 包括的食料保障および脆弱性分析.....	23
2.2.2 危険分析.....	27
第 3 章 貧困に影響を与えている要因.....	31
3.1 国内要因.....	31
3.1.1 国家開発と公共支出.....	31
3.1.2 産業構造と雇用.....	32
3.1.3 資源.....	35
3.1.4 民族.....	38
3.2 地政学的要因.....	39
3.2.1 国境と雇用機会.....	39
3.2.2 ケシ栽培.....	40

3.3	グローバル化における要因.....	42
3.3.1	海外送金 .....	42
3.3.2	大メコン圏における地域経済の成長.....	43
第4章	社会保障メカニズム.....	45
4.1	公的保障 .....	45
4.1.1	社会保障制度.....	45
4.1.2	自営業者およびインフォーマルセクター向け医療保険制度 .....	46
4.2	準公的保障 .....	47
4.2.1	公的セクターおよび銀行セクターによるマイクロファイナンス事業 .....	47
4.2.2	非銀行セクターによるマイクロファイナンス事業.....	48
4.2.3	マイクロ保険.....	51
4.3	インフォーマルな保障.....	51
4.3.1	インフォーマルな健康保険.....	51
4.3.2	インフォーマル金融.....	51
第5章	貧困削減のモニタリング.....	53
5.1	MDGs の達成状況.....	53
5.1.1	MDG 1：貧困および飢餓の撲滅 .....	53
5.1.2	MDG 2：普遍的初等教育の達成 .....	53
5.1.3	MDG 3：ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上.....	54
5.1.4	MDG 4：乳幼児死亡率の削減 .....	54
5.1.5	MDG 5：妊産婦の健康の改善 .....	55
5.1.6	MDG 6：HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止 .....	55
5.1.7	MDG 7：環境の持続可能性の確保 .....	56
5.1.8	MDG 8：開発のためのグローバル・パートナーシップの推進.....	56
5.2	貧困モニタリング等のモニタリング方法.....	60
5.2.1	MDG モニタリング .....	60
5.2.2	貧困モニタリング.....	60
5.2.3	Lao Info.....	61

## 別添

別添1：貧困・不平等指標の解説

別添2：貧困ラインの水準

別添3：貧困72郡リスト

別添4：マイクロファイナンスの事業状況（2006年）

## 添付資料

- (1) 主要な政策文書一覧と入手先
- (2) 主要な統計調査一覧
- (3) 主要なマイクロファイナンス機関一覧
- (4) 主要な NGO・市民社会組織一覧
- (5) 主要な現地調査研究機関とその活動
- (6) 参考文献

## 図表目次

### 【図】

図 1-1：県別貧困者比率 .....	7
図 1-2：郡別貧困者比率 .....	7
図 1-3：郡別貧困ギャップおよび重度 .....	9
図 1-4：農業・生態区分 .....	11
図 1-5：ローレンツ曲線 .....	15
図 1-6：不平等マップ（郡レベル） .....	16
図 2-1：72 貧困郡の分布 .....	21
図 2-2：ラオスの農村における食料保障の状況（県別） .....	23
図 2-3：不発弾分布図 .....	27
図 2-4：旱魃による世帯の食料保障リスク .....	29
図 2-5：ラオスにおける旱魃発生地 .....	29
図 3-1：県別公共投資（2002/03 年） .....	31
図 3-2：国内人口移動 .....	33
図 3-3：国内人口移動（郡レベル） .....	33
図 3-4：仕事がない村の割合（%）（2002/03～2007/08 年） .....	34
図 3-5：農業を行っている世帯の分布 .....	36
図 3-6：世帯当たりの農業地の平均面積 .....	36
図 3-7：森林へのアクセスを制限されている世帯の脆弱性 .....	37
図 3-8：村落における民族・語族構成 .....	38
図 3-9：ラオスの人身売買ルート .....	40
図 3-10：ラオス北部における大麻中毒の分布（2008 年） .....	41
図 4-1：セクター別マイクロファイナンス .....	51

### 【表】

表 1-1：貧困者比率および貧困人口 .....	2
表 1-2：貧困ギャップおよび貧困重度 .....	3
表 1-3：都市・農村部の貧困者比率 .....	4
表 1-4：都市・農村部の貧困人口 .....	4
表 1-5：都市・農村部の貧困ギャップおよび貧困重度 .....	5



表 1-6：地域別・県別貧困者比率 .....	6
表 1-7：地域別貧困人口 .....	7
表 1-8：地域別・県別貧困ギャップおよび重度 .....	8
表 1-9：立地による貧困者比率 .....	9
表 1-10：立地による貧困人口分布 .....	10
表 1-11：立地による貧困ギャップおよび重度.....	11
表 1-12：地形による貧困者比率 .....	13
表 1-13：地形による貧困人口 .....	13
表 1-14：地形による貧困ギャップおよび重度 .....	14
表 1-15：民族による貧困者比率（2002/03） .....	14
表 1-16：全国、都市・農村部のジニ指数 .....	15
表 1-17：地域別ジニ指数 .....	16
表 1-18：立地によるジニ指数 .....	17
表 1-19：農業・生態区分によるジニ指数 .....	17
表 1-20：地形によるジニ指数 .....	18
表 1-21：民族によるジニ指数 .....	18
表 2-1：NGPES における貧困の基準.....	19
表 2-2：NGPES 貧困の定義による貧困村および貧困世帯の数および割合（2003 年） .....	20
表 2-3：NGPES の貧困の定義による貧困郡の分類（2003 年） .....	21
表 2-4：優先度による貧困者比率 .....	22
表 2-5：優先度による貧困ギャップおよび貧困重度.....	22
表 2-6：優先度によるジニ指数 .....	23
表 2-7：ラオスの農村における世帯の食料保障の状況.....	24
表 2-8：農業・生態区分による子どもの栄養不良の発生状況（信頼区間 95%） .....	25
表 2-9：土地の脆弱性による子どもの栄養不良の発生状況（傾斜度 16 度以上） .....	26
表 2-10：不発弾処理（1996-2008 年） .....	28
表 3-1：貧困とセクターの成長率（1992/93-2002/03 年） .....	32
表 3-2：道路へのアクセスと交通状況（県別） .....	35
表 3-3：県別ケシ栽培撲滅状況 .....	41
表 3-4：海外送金を受けている世帯の割合 .....	42
表 4-1：社会的弱者に対する主な福祉策 .....	47
表 4-2：MFI 認可に関する法令 .....	49
表 5-1：ラオスにおける MDGs の進捗状況.....	58

## 略語一覧

ADB	:	Asian Development Bank	アジア開発銀行
APB	:	Agriculture Promotion Bank	農業振興銀行
BHN	:	Basic Human Needs	ベーシック・ヒューマン・ニーズ
BOL	:	Bank of the Lao PDR	ラオス銀行
CBHI	:	Community Based Health Insurance	地域健康保険
CFSVA	:	Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis	包括的食料保障および脆弱性分析
DOS	:	Department of Statistics	統計局
DOTS	:	Directly Observed Treatment Short Course	直接監視下短期療法
FAO	:	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国際連合食糧農業機関
GMS	:	Greater Mekong Sub-Region	拡大メコン地域
HIV/AIDS	:	Human Immunodeficiency Virus / Acquired Immune Deficiency Syndrome	ヒト免疫不全ウイルス・後天性免疫不全症候群
IFPRI	:	International Food Policy Research Institute	国際食糧政策研究機関
LAOPA	:	Lao PDR Poverty Assessment Project	ラオス貧困アセスメントプロジェクト
LECS	:	Lao Expenditure and Consumption Survey	ラオス支出・消費調査
LWU	:	Lao Women's Union	ラオス女性同盟
MFI	:	Microfinance Institution	マイクロファイナンス機関
MDGs	:	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MMR	:	Maternal Mortality Rate	妊産婦死亡率
MPI	:	Ministry of Planning and Investment	計画・投資省
NBCA	:	National Biodiversity Conservation Areas	国家生物多様性保全地域
NGO	:	Non-Governmental Organization	非政府組織
NGPES	:	National Growth and Poverty Eradication Strategy	国家成長・貧困撲滅戦略
NLC-RDPR	:	National Leading Committee for Rural Development and Poverty Reduction	村落開発・貧困削減委員会
NSEDP	:	National Socio-Economic Development Plan	国家社会経済開発計画
NSC	:	National Statistics Center	国家統計センター
PPA	:	Participatory Poverty Assessment	参加型貧困アセスメント
RMFC	:	Rural and Micro Finance Committee	農村マイクロファイナンス委員会
SASS	:	State Authority of Social Security	国家社会保障庁
SCU	:	Saving and Credit Union	貯蓄信用組合
SSO	:	Social Security Organization	社会保障機構

SIDA	:	Swedish International Development Agency	スウェーデン国際開発庁
SOE	:	State Owned Enterprise	国有企業
UNDP	:	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNFCCC	:	United Nations Framework Convention on Climate Change	気候変動に関する国際連合枠組条約
UNFPA	:	United Nations Population Fund	国連人口基金
UNIAP	:	United Nations Inter-Agency Project on Human Trafficking	国連人身売買防止プロジェクト
UNICEF	:	United Nations Children's Fund	国連児童基金
UNODC	:	United Nations Office on Drugs and Crime	国連薬物・犯罪事務所
UXO	:	Unexploded Ordnance	不発弾
UXO Lao	:	Lao National Unexploded Ordnance Programme	ラオス国家不発弾プログラム
VRF	:	Village Revolving Fund	村落回転基金
VSBS	:	Village Statistic Book	村落統計書
VSCG	:	Village Savings and Credit Group	村落貯蓄貸付グループ
WB	:	World Bank	世界銀行
WFP	:	United Nations World Food Programme	国際連合世界食糧計画
WHO	:	World Health Organization	世界保健機関

## 第1章 所得貧困による分析

### 1.1 所得貧困の測定

#### 1.1.1 貧困分析に使用するデータ

ラオスの貧困分析は、ラオスの世帯レベルでの社会経済状況についてサンプル調査により収集する、「ラオス支出消費調査」(LECS : Lao Expenditure and Consumption Survey) のデータに基づいて行われている。LECS は、計画投資省 (MPI : Ministry of Planning and Investment) の統計局 (DOS : Department of Statistics) <sup>1</sup>により実施されており、1992/93年に初めて実施されて以降、これまでに5年ごとに4回の調査が実施されている (LECS 1 (1992/93)、LECS 2 (1997/98)、LECS 3 (2002/03) および LECS 4 (2007/08))。

また、これに加えて、10年ごとに実施されている国勢調査 (Population and Housing Census) も貧困分析を行うにあたって参照すべき重要なデータである。最新の国勢調査は2005年に実施されたものである。

なお、LECS 4の結果は2009年5月に公表されているが、LECS 4のデータに基づく、貧困者比率等の貧困指標などを含む詳細な貧困分析は、これまでに行われていない。したがって、本調査では、LECS 1 から LECS 3 および 2005 年国勢調査のデータに基づく既存の貧困分析を参照し、取りまとめる。

#### 1.1.2 貧困ライン

一般に、所得貧困の測定は、世帯レベルの所得あるいは消費と貧困ラインを比較して行われる。貧困ラインは、ベーシック・ヒューマン・ニーズ (BHN : Basic Human Needs) を満たすために最低限必要な所得あるいは支出によって決定される<sup>2</sup>。

ラオスでは、世界銀行 (WB : World Bank)、スウェーデン国際開発庁 (SIDA : Swedish International Development Agency) などのドナーによる分析や議論の結果に基づいて、「食料貧困ライン」と「絶対貧困ライン」<sup>3</sup>の2つの貧困ラインが設定され、2020年までに貧困を撲滅することを国家の重要な開発アジェンダとする、「国家成長・貧困撲滅戦略」(NGPES : National Growth and Poverty Eradication Strategy) において公式に認められた。

食料貧困ラインは、生存に最低限必要な栄養摂取を満たす食料バスケットを設定し、それを貨幣換算して、必要な支出額を算出したものである<sup>4</sup>。これに対し、絶対貧困ラインは、食料支出に加えて、保健や教育などの基礎的ニーズを充足する非食料支出を加えて算出し

<sup>1</sup> 統計局の前身は、国家統計センター (NSC : National Statistical Center)。

<sup>2</sup> See Appendix 1 for a detailed definition of poverty line

<sup>3</sup> NGPES においては、食料および非食料支出による貧困ラインを「貧困ライン」(“poverty line”) と称しているが、本報告書では、「絶対貧困ライン」の呼称を使用する。

<sup>4</sup> 世界保健機関 (WHO : World Health Organization) と国際連合食糧農業機関 (FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations) による途上国の標準最低エネルギー所要量は、2,000~2,400kcal である。標準エネルギー所要量は、国、年齢、民族によって調整される。

ている。貧困分析では、食料バスケットの価格の経年変化や地域格差による調整を行い<sup>5</sup>、複数の貧困ラインを設定して、時系列での貧困分析や地域別の貧困状況の把握に用いられる。

絶対貧困ライン＝食料貧困ライン（必要最低食料支出額）＋必要最低非食料支出額

ラオスの2002/03年の国レベルの貧困ラインは、1人1ヶ月当たり92,959キップ(8.79ドル)<sup>6</sup>である。公式貧困ラインのベースとなった貧困ラインの水準は、別添2の通りである。

## 1.2 貧困ラインに基づく貧困分析

### 1.2.1 国レベルでの貧困状況

ラオスでは、1992/93年から2002/03年の10年間で貧困削減が進んだ。食料貧困ライン未満、すなわち、最低限必要な食料支出をまかなうことができない、食料貧困者比率は、1992/93年37.6%から2002/03年22.0%に低下した。また、非食料支出も加えた絶対貧困ライン未満の貧困者の割合を示す、絶対貧困者比率（以下、「貧困者比率」とする）<sup>7</sup>も46.0%から33.5%に減少した。貧困ライン以下で生活している貧困人口は、1992/93年時点では200万人以上であったが、2002/03年時点では185万人であり、10年間で10%減少した。

表 1-1：貧困者比率および貧困人口

貧困指標	1992/93年	1997/98年	2002/03年
食料貧困者比率 (%)	37.6	32.6	22.0
絶対貧困者比率 (%)	46.0	39.1	33.5
絶対貧困人口	2,054,020	1,987,060	1,849,444
ラオスの人口	4,468,830	5,087,012	5,519,368

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.33, Table 2, p.35, Table 5 and p.41, Table 11

貧困ギャップ（深度）および貧困重度についても改善が見られる。

貧困ギャップ比率は、貧困者の支出水準がどの程度貧困ラインから乖離しているかを測定する指標であるが、ラオスでは、10年間で11.2%から8.0%に低下した。これは、貧困層の最低支出必要額に対する不足分が減少していることを意味している。

<sup>5</sup> 世界銀行は、その報告書において、消費バスケットは、LECS 2 と LECS 3 との間の消費パターンの変化を反映すべきと指摘している。LECS 4 の消費パターンは LECS 2 実施時点よりさらに変化しており、LECS 4 データを踏まえて行う貧困分析の実施に際し、新たな消費バスケットに基づいて貧困ラインを再構築することが必要とされる。

<sup>6</sup> 参考為替レート（期中平均）：1ドル＝10,569.04キップ（2003年）（International Monetary Fund, “International Financial Statistics Yearbook 2009”）

<sup>7</sup> 本報告書では、特に言及のない限り、「貧困者比率」または「貧困人口」は「絶対貧困ライン」により計測された「絶対貧困者比率」または「絶対貧困人口」を指す。

また、二乗貧困ギャップ比率により測定される貧困の重度（以下、「貧困重度」）は、貧困層における階層間の支出の分布状況を示すものである。1992/93年から1997/98年にかけては、貧困者比率が46.0%から39.1%に低下したものの、貧困重度は3.9%と変化が見られなかった。これは、貧困削減が貧困層間の不平等の改善をもたらさなかった、すなわち、最貧困層の生活の向上には貢献しなかったことを意味する。しかしながら、1997/98年から2002/03年においては、貧困重度は3.9%から2.8%に低下しており、貧困削減が最貧困層に裨益したものと考えられる。

表 1-2：貧困ギャップおよび貧困重度

	(%)		
指標	1992/93年	1997/98年	2002/03年
貧困ギャップ	11.2	10.3	8.0
貧困重度	3.9	3.9	2.8

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.36, Table 6 and p.38, Table 8

### 1.2.2 都市・農村部における貧困状況

ラオスの都市部<sup>8</sup>および農村部の双方において、その度合いは異なるものの、貧困削減が進展している。

食料貧困については、都市部においては貧困者比率が1992/93年26.2%から2002/03年20.2%に低下したにとどまったが、農村部では同期間に41.0%から22.5%に著しく低下した。その結果、食料貧困者比率の都市・農村格差は減少した。しかしながら、1年を通じて通行が可能な全天候道路の有無による、農村部間の格差は依然として顕著である。2002/03年時点において、全天候道路の無い農村部の食料貧困人口の割合は1992/93年47.2%から2002/03年28.4%と大きく減少したものの、全天候型道路のある農村部の2002/03年の食料貧困者比率は18.2%であり、10ポイント以上の開きがある。

絶対貧困についても、都市部および農村部の双方で改善が見られる。都市の貧困者比率は、1992/93年26.5%から2002/03年20%未満に減少した。農村部全体における貧困削減は都市部よりも著しく、同期間に貧困者比率は51.8%から37.6%に低下した。特に、全天候型道路の無い農村部では、貧困人口の割合は、60.4%から36.2%とおおよそ半分以下となった。

<sup>8</sup> ラオスにおいては、以下の5つの条件のうち、3つ以上が当てはまる村落を「都市村落」と定義しており、都市部に含めている。(1) 県あるいは郡の市に近接している、あるいは100世帯以上または人口が600人以上である、(2) 全天候道路（1年を通じて通行が可能）がある、(3) 少なくとも村落内の世帯の70%以上が水道水を使用している、(4) 少なくとも村落内の世帯の70%以上が電化されている、(5) 村落内に毎日開催される市場がある。(NSC 2004b) (Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3”, (2004), p.8)

表 1-3：都市・農村部の貧困者比率

(%)

地域	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困
都市部	26.6	26.5	22.4	22.1	20.2	19.7
農村部	41.0	51.8	34.7	42.5	22.5	37.6
全天候道路あり	34.4	42.8	27.4	31.7	18.2	31.3
全天候道路なし	47.2	60.4	40.2	50.8	28.4	36.2

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/03" (2004), p.33, Table 2 and p.41, Table 11

貧困層の大多数が農村に居住しているという傾向に変化はないが、貧困人口の推移については、都市・農村部において相違が見られる。都市部においては、1992/93 年から 1997/98 年にかけて貧困人口が減少し、その後 2002/03 年にかけて増加した。他方、農村部においては、1992/93 年から 1997/98 年にかけて若干増加がみられ、2002/03 年にかけて減少した。農村のアクセスによる貧困状況を見ると、全天候道路へのアクセスのある農村では、貧困人口が 72.8 万人から 75.8 万人と若干増加したが、アクセスの無い農村では、100 万人から 84 万人に減少した。これは、農村道路を含む農村インフラ開発により、全天候道路へのアクセスのない農村の数が減少していることに一部起因していると考えられる。

表 1-4：都市・農村部の貧困人口

地域	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	貧困人口	人口分布 (%)	貧困人口	人口分布 (%)	貧困人口	人口分布 (%)
都市部	279,096	23.6	187,808	16.7	249,948	23.0
農村部	1,768,213	76.4	1,799,263	83.3	1,599,452	77.0
全天候道路あり	728,993	38.1	580,507	36.0	758,841	43.9
全天候道路なし	1,033,001	38.3	1,223,070	47.3	844,044	33.1

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/03" (2004), p.32, Table 1 and p.35, Table 5

貧困ギャップおよび貧困重度は、都市部および農村部で低下しているが、依然として都市部・農村部の格差は大きい。2002/03 年には、都市部における貧困ギャップおよび貧困重度は、それぞれ 4.1%、1.3%であるが、農村部の貧困ギャップおよび貧困重度はそれよりも高い値を示している。農村部では、貧困ラインからの乖離を示す貧困ギャップは 9.2%であり、また、貧困者間の不平等を示す貧困重度は 3.2%である。また、全天候型道路の無い農村部における貧困ギャップおよび貧困重度はそれぞれ 12%、4.4%と非常に高くなっている。このことから、全天候型道路の無い農村部では、貧困層は全体として貧困ラインから著しく乖離した支出水準にあり、また、最貧困層と貧困ラインに近い貧困層との格差も大きいことが伺える。

表 1-5：都市・農村部の貧困ギャップおよび貧困重度

(%)

地域	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	貧困 ギャップ	貧困 重度	貧困 ギャップ	貧困 重度	貧困 ギャップ	貧困 重度
都市部	5.5	1.6	4.9	1.7	4.1	1.3
農村部	12.9	4.6	11.4	4.4	9.2	3.2
全天候道路あり	9.9	3.5	7.3	2.5	7.1	2.3
全天候道路なし	15.8	5.8	14.5	5.8	12.0	4.4

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.36, Table 6 and p.41, Table 11

### 1.2.3 地理的区分および立地による貧困状況

#### (1) 地理的区分および県レベル

ラオスは、地理的に北部、中部、南部の 3 つに区分されるが、地理的区分による貧困状況を見ると、これらの 3 地域で大きな差異は認められない。2002/03 年時点では、貧困者比率は、北部 37.9%、中部 35.4%と全国レベルより高い値であるが、南部は 32.6%と全国レベルより若干低い値である。しかしながら、貧困状況を県別に見ると、地域内で著しい格差が見られる。

首都ビエンチャンは、貧困者比率は国内で最も低い水準である。また、貧困者比率は、1992/93 年 33.6%から 2002/03 年 16.7%に低下した。ただし、2002/03 年の貧困者比率は 1997/98 年に比して若干高くなっている。

北部では、1992/93 年から 2002/03 年の間に、Xaygnaboury を除いて、全ての県で貧困者比率が一貫して減少した。Xaygnaboury では、貧困者比率は 1992/93 年 22.4%から 1997/98 年 17.7%に低下したものの、2002/03 年には 25%と増加し、1992/93 年の水準を上回っている。Phongsaly および Houa Phanh では、1992/93 年 70%以上であった貧困者比率が大きく低下したものの、2002/03 年においても依然として 50%を超える高い水準である。他方、同期間に、Bokeo および Louang Namtha は、40%以上あった貧困者比率が 21~22%程度にまで低下し、貧困削減が大きく進展した。

中部でも、Borikhamxay を除いて、全ての県で貧困削減が進んだ。Borikhamxay は、1992/93 年時点では、貧困者比率が最も低い 16.6%であったが、2002/03 年には 28.7%に増加している。他方、Xieng Khoang および Savannakhet は、貧困者比率が 63%、53%から 40%台に低下したものの、依然として人口の 40%以上が貧困に苦しんでいる。

南部においては、1992/93 年時点では、すべての県の貧困者比率が 40%を上回っていた。その後、Champasak では、貧困者比率が大きく低下し、2002/03 年時点では 18.4%であった。他方、Saravanh では、1992/93 年から 1997/98 年にかけては貧困者比率が低下したものの、2002/03 年には 54.3%に上昇した。Xékong および Attapeu は、1992/93 年の 60%台から低下



したものの、2002/03年時点で人口の40%以上が貧困状態にある。

表 1-6：地域別・県別貧困者比率

(%)

地域	1992/93年	1997/98年	2002/03年
ビエンチャン首都	33.6	13.5	16.7
<b>北部</b>	<b>51.6</b>	<b>47.3</b>	<b>37.9</b>
Phongsaly	72.0	57.9	50.8
Louang Namtha	40.5	51.1	22.8
Oudomxay	45.8	66.1	45.1
Bokeo	42.4	38.9	21.1
Louang Prabang	58.5	40.8	39.5
Houa Phan	71.3	71.3	51.5
Xaygnaboury	22.4	17.7	25.0
<b>中部</b>	<b>45.0</b>	<b>39.4</b>	<b>35.4</b>
Xieng Khoang	63.0	42.9	41.6
Vientiane	30.7	27.8	19.0
Borikhamxay	16.6	27.9	28.7
Khammuane	47.1	44.5	33.7
Savannakhet	53.1	41.9	43.1
Xaysomboun	-	62.8	30.6
<b>南部</b>	<b>45.7</b>	<b>39.8</b>	<b>32.6</b>
Saravanh	43.6	39.2	54.3
Xékong	67.0	49.7	41.8
Champasak	41.4	37.4	18.4
Attapeu	60.5	48.0	44.0
<b>全国</b>	<b>46.0</b>	<b>39.1</b>	<b>33.5</b>

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/03" (2004), p.34, Table 3

貧困人口は北部に集中しており、2002/03年時点で、貧困層の86%が北部に居住している<sup>9</sup>。北部の貧困人口は、1992/93年から2002/03年にかけて、2倍以上に増加している。南部においても、1992/93年から1997/98年にかけて貧困人口が減少したものの、1992/93年から2002/03年でみると、貧困人口は2倍に拡大している。また、1992/93年から2002/03年の10年間で国全体では貧困人口は減少傾向にあるが、首都ビエンチャンでは一貫して増加傾向にあり、同期間に貧困人口は14%拡大した。

<sup>9</sup> Huaphanh、Phongsaly および Oudomxay (北部)、Xiengkhuang および Savannakhet (中部)、Attapeu および Saravane (南部) の貧困者比率の高い7県の人口比率は40%未満であるが、これら7県の貧困人口の割合は全体の50%以上を占めている。

表 1-7：地域別貧困人口

地域	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	貧困人口	総人口に占める地域人口の比率 (%)	貧困人口	総人口に占める地域人口の比率 (%)	貧困人口	総人口に占める地域人口の比率 (%)
ビエンチャン首都	175,831	11.7	187,808	11.3	249,948	11.5
北部	734,914	31.9	1,799,263	31.7	1,599,452	32.6
中部	742,435	36.9	580,507	37.2	758,841	36.1
南部	398,405	19.5	1,223,070	19.9	844,044	19.9
全国	2,054,020	100.0	1,987,060	100.0	1,849,444	100.0

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.32, Table 1 and p.35, Table 5

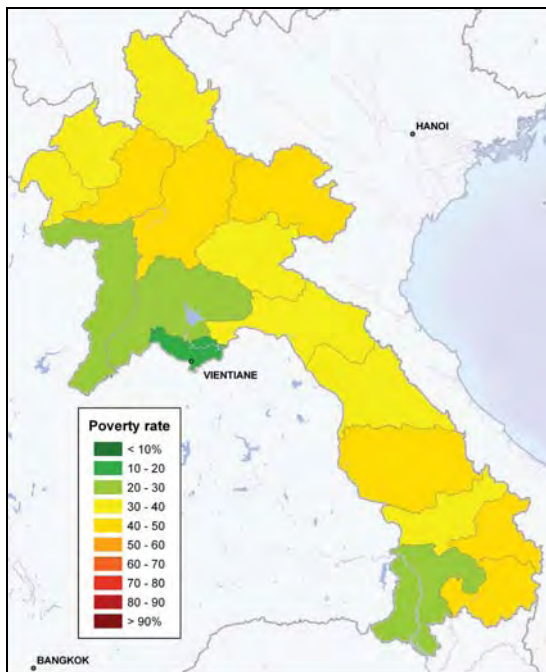


図 1-1：県別貧困者比率

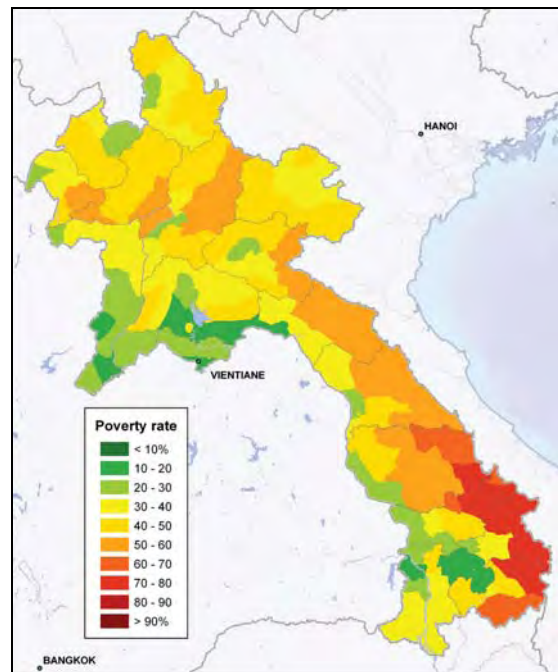


図 1-2：郡別貧困者比率

貧困ギャップおよび重度は、地域ごとに異なる傾向を示している。首都ビエンチャンでは、貧困ギャップは、1992/93 年 7.0%から 2002/03 年 3.4%に低下したものの、貧困重度は 1%程度の低い水準でありあまり変化はない。これは、貧困層間の不平等は限定的であり、かつ、貧困層の生活水準の貧困ラインからの乖離も減少していることを示している。

北部では、Louang Namtha、Odomxay、Louang Prabang および Houa Phan の 4 つの県では、貧困ギャップ比率は 1992/93 年に比して改善はしているものの、2002/03 年時点においても

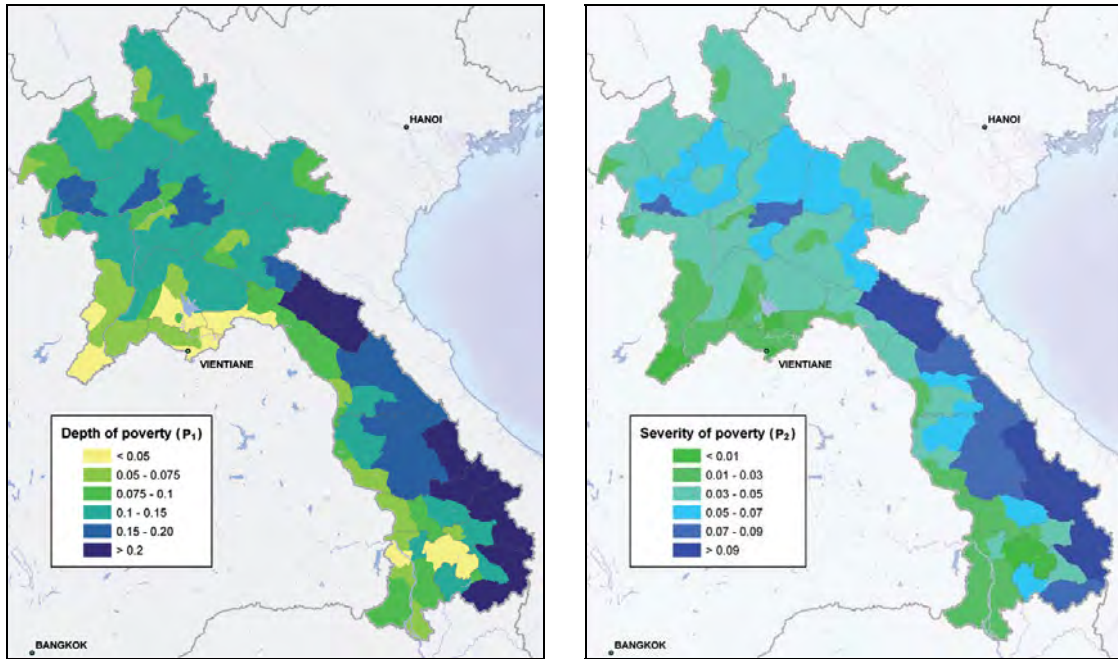
10%以上と高い水準である。これらの県では、貧困重度も非常に高い水準である。中部では、ビエンチャン県は、貧困者比率が減少しているにも関わらず、貧困ギャップおよび貧困重度が悪化している。貧困ギャップ比率は、1992/93年から2002/03年で6.5%から12.3%に上昇した。こうした状況から、ビエンチャン県では、貧困ラインに近い貧困層は貧困状況から抜け出せたものの、より貧困な層はさらに厳しい状況にさらされているものと見られる。また、Xaysomnounは、2002/03年の貧困者比率は30%台であるが、やはり貧困ギャップおよび貧困重度は高い値を示している。南部では、Champasakを除く3県の貧困ギャップおよび貧困重度が高い。XékongおよびAttapeuでは、1992/93年の10年間でこれら指標の改善が見られるものの、Saravanhでは悪化している。

表 1-8：地域別・県別貧困ギャップおよび重度

(%)

地域	1992/93年		1997/98年		2002/03年	
	貧困 ギャップ	貧困 重度	貧困 ギャップ	貧困 重度	貧困 ギャップ	貧困 重度
ビエンチャン首都	7.0	2.1	2.8	0.8	3.4	1.0
<b>北部</b>	<b>13.4</b>	<b>4.8</b>	<b>13.9</b>	<b>5.8</b>	<b>9.4</b>	<b>3.3</b>
Phongsaly	16.3	4.7	17.0	7.1	11.8	4.0
Louang Namtha	10.3	3.5	14.4	5.4	4.1	1.1
Oudomxay	9.7	2.8	24.7	12.1	10.8	3.6
Bokeo	7.0	1.7	9.5	3.5	5.3	1.9
Louang Prabang	15.5	5.6	9.8	3.6	10.4	3.7
Houa Phanh	24.6	11.2	23.4	10.1	13.9	5.2
Xaygnaboury	4.8	1.5	3.1	0.8	5.8	1.9
<b>中部</b>	<b>10.3</b>	<b>3.4</b>	<b>9.7</b>	<b>3.4</b>	<b>7.1</b>	<b>2.6</b>
Xieng Khoang	18.0	6.9	11.9	4.6	8.4	3.0
Vientiane	6.5	2.0	5.7	1.8	12.3	5.5
Borikhamxay	2.3	0.5	7.4	2.8	3.4	0.9
Khammuane	11.5	4.3	11.3	3.9	5.5	1.5
Savannakhet	11.2	3.4	9.8	3.2	7.7	2.6
Xaysomboun	n.a	n.a	19.9	8.5	10.5	3.6
<b>南部</b>	<b>11.9</b>	<b>4.5</b>	<b>10.0</b>	<b>3.7</b>	<b>7.6</b>	<b>2.5</b>
Saravanh	8.7	2.5	10.0	3.6	13.1	4.3
Xékong	23.5	10.4	15.0	6.5	11.8	4.7
Champasak	10.2	3.8	9.0	3.3	3.6	1.1
Attapeu	22.4	10.2	12.1	4.3	11.6	4.1
<b>全国</b>	<b>11.2</b>	<b>3.9</b>	<b>10.3</b>	<b>3.9</b>	<b>8.0</b>	<b>2.8</b>

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3" (2004), p.37, Table 7 and p.41, Table 11



(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, “The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR”, p.26, Figure 13

図 1-3：郡別貧困ギャップおよび重度

(2) 立地

国境を接しない郡が含まれる「内地」と「タイ国境」地域は、比較的貧困者比率が低く、1992/93年から2002/03年にかけて、中程度の貧困削減が見られた。他方、最も顕著な貧困削減が見られたのが、「中国・ミャンマー国境」地域であり、貧困者比率は、49%から28%に低下した。「カンボジア国境」地域においても、貧困削減は進んだが、2002/03年時点でも貧困者比率は39.8%と高い水準であった。「ベトナム国境」地域においては、貧困者比率は悪化しており、また、2002/03年61.6%と立地区分で見ても最も高い値となっている。また、他の地域では食料貧困者比率は20%未満に低下しているにもかかわらず、「ベトナム国境」および「カンボジア国境」では、依然として30%以上が食料貧困にあえいでいる。なお、「内地」における食料貧困人口の割合は21.6%である。

表 1-9：立地による貧困者比率

(%)

区分	1992/93年		1997/98年		2002/03年	
	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困
内地*	35.3	47.2	31.5	37.5	21.6	32.3
タイ国境	32.3	33.4	25.1	29.4	15.6	22.5
都市部	31.0	26.8	24.2	22.8	17.3	18.1
農村部	32.8	35.8	25.3	30.8	14.9	24.2
ベトナム国境	48.7	58.4	52.9	66.3	35.3	61.6
北部	51.3	71.6	58.6	72.5	38.1	59.0
南部・中部	45.8	44.3	47.7	60.3	32.1	63.5

区分	1992/93年		1997/98年		2002/03年	
	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困
中国・ミャンマー国境	37.4	49.1	30.1	46.4	10.0	28.1
カンボジア国境	75.2	68.1	36.9	38.5	33.3	39.8

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3" (2004), p.33, Table 2 and p.41, Table 11

(注) 「内地」とは国境を接していない地域

ラオス国民の大多数が「内地」に人口に居住しており、90万人以上と貧困人口も集中しているが、「内地」の貧困者比率は中程度である。他方、「ベトナム国境」地域の人口比率は13.2%と低いにも関わらず、貧困人口は44万人と人口比率に比してかなりの規模に上っている。

表 1-10：立地による貧困人口分布

地域	1992/93年		1997/98年		2002/03年	
	貧困人口	総人口に占める地域人口比率 (%)	貧困人口	総人口に占める地域人口比率 (%)	貧困人口	総人口に占める地域人口比率 (%)
内地	1,185,034	56.1	1,017,761	53.3	929,173	52.1
タイ国境	372,846	25.0	403,739	27.0	349,313	28.1
都市部	80,997	27.1	56,839	18.1	77,267	27.6
農村部	291,033	72.9	346,767	81.9	272,050	72.4
ベトナム国境	309,096	11.8	401,807	11.9	444,798	13.2
北部	196,395	51.9	215,020	49.0	227,707	53.0
南部・中部	112,747	48.1	186,610	51.1	217,092	47.0
中国・ミャンマー国境	81,046	3.7	72,177	3.1	47,541	3.1
カンボジア国境	102,597	3.4	92,168	4.7	78,600	3.6

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3" (2004), p.32, Table 1 and p.35, Table 5

「タイ国境」および「中国・ミャンマー国境」地域においては貧困ギャップおよび重度は低い水準であるが、「ベトナム国境」地域においては貧困ギャップおよび重度も高くなっている。ほとんどの立地区分において、1992/93年から2002/03年において貧困ギャップおよび重度は改善しているが、「南部・中部ベトナム国境」地域ではこれらの指標の悪化が見られる。

表 1-11：立地による貧困ギャップおよび重度

(%)

区分	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	ギャップ	重度	ギャップ	重度	ギャップ	重度
内地	11.0	3.7	9.8	3.7	7.5	2.5
タイ国境	6.8	2.1	6.2	1.9	4.8	1.5
都市部	6.0	1.7	4.5	1.3	3.5	1.1
農村部	7.1	2.2	6.6	2.1	5.3	1.7
ベトナム国境	19.1	8.2	21.3	9.0	17.1	6.6
北部	24.8	11.2	24.7	10.9	16.4	6.1
南部-中部	13.0	4.9	18.1	7.3	17.9	7.1
中国・ミャンマー国境	11.4	3.5	12.9	5.1	5.3	1.5
カンボジア国境	18.1	6.9	9.7	3.8	9.3	3.0

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3" (2004), p.36, Table 6 and p.41, Table 11

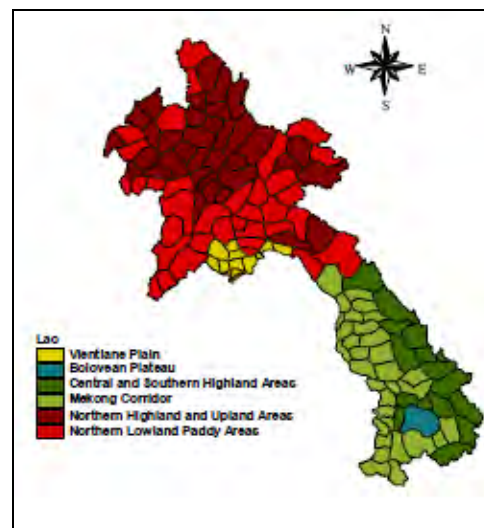
#### 1.2.4 農業・生態区分および地形による貧困状況

農業・生態区分で見ると、Bolven 高原およびビエンチャン平野の貧困者比率は、それぞれ 15%、16%と低い水準である。Bolven 高原は、南部の Saraven、Xekong および Attapu 県にまたがり、コーヒー、茶、カルダモンといった換金作物の栽培や牧畜が盛んである。また、観光も地域経済にとって重要な産業となっている。

表 112：農業・生態区分による貧困者比率

農業・生態区分	人口	貧困者比率 (%)
ビエンチャン平野	832,989	16
メコン回廊	1,870,584	33
北部低地	1,123,031	28
北部丘陵地	690,169	46
北部高地	537,700	42
南部-中部低地	257,616	60
南部-中部丘陵地	28,670	65
南部-中部高地	23,731	75
Boloven 高原	126,302	15

(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, "The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR", p.38, Table 8



(出所) World Bank, "Lao PDR: Rural and Agriculture Sector Issues Paper" (2006), p.4, Box 1

図 1-4：農業・生態区分

北部低地およびメコン回廊の貧困者比率は、それぞれ 28%、33%である。メコン回廊は、メコン河の河岸および氾濫地域とメコン河支流の流域を含む、低地を指す。この地域の農村

では、低地米を中心に、様々な作物生産を大規模農地で行っている。換金作物による現金収入は、農村世帯を貧困状況から抜け出すための重要な生計手段となっている。北部低地は、Luang Prabang、Phongsaly、Oudomxay および Xayabury にまたがる。地形は、北部高地と同様、山がちであるが、北部丘陵地および高地に比して、貧困者比率はかなり低くなっている。

北部丘陵地および高地は、北西部の Phongsaly、Luang Namtha および Bokeo の山岳部と Huaphanh、Xieng Khuan および Bolikhamxay の東部で形成されている。貧困人口の割合は40%以上である。牧畜の潜在力や農地向きの良い土壌があるものの、同地域の農村住民の多くは、生産性の低い自給自足的な農業に従事しているため、厳しい貧困に直面している。

南部-中部低地および丘陵地では、人口の60%以上が貧困ライン以下の生活水準である。南部-中部の状況は最も深刻であり、貧困者比率は75%にのぼり、農業・生態区分による地域では最も高い値である。南部-中部高地は、Khammouane、Savannakhet、Savarane、Xekong および Attapeu にまたがり、メコン河にそった支流の上流の溪谷部や高地を指す。この地域の土壌は酸性であり、生産性の高い農業には不向きである。また、この地域は不発弾 (UXO : Unexploded Ordnance) のリスクが高い地域でもあり、大部分が耕作を行うことが困難な状況にある。

## (2) 地形

郡レベルの傾斜度別に見ると、「平坦地」の郡の貧困者比率は、「やや傾斜地」および「傾斜地」よりも低くなっている。また、平坦地における貧困者比率は1992/93年から2002/03年の間で42.2%から27.4%に低下しているが、「やや傾斜地」では、40%前後で大きな変化は見られない。「傾斜地」では、1992/93年の56.2%から低下しているものの、2002/03年時点においても40%以上が貧困ライン以下にとどまっている。

食料貧困については、いずれの傾斜度の郡においても、30%を上回る水準から20%程度に減少した。「やや傾斜地」においては、貧困者比率に大きな変動はなかったものの、食料貧困者比率は19%に低下している。

村落の高度による貧困者比率は、時系列データが存在せず、時系列による変化の把握はできないが、2002/03年時点で見ると、貧困者比率は、より高度の高い位置にある村落のほうが、より高度の低い位置にある村落よりも貧困率が高くなっている。「低地」では28.2%、丘陵地では36.5%であり、高地で最も高く、43.9%である。「低地」では、食料貧困者比率も19.1%と低い、「丘陵地」および「高地」ではほぼ26%と同じ水準である。

表 1-12：地形による貧困者比率

(%)

区分	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困
傾斜（郡レベル）*						
平坦地	38.7	42.2	28.5	30.3	20.2	27.4
やや傾斜地	30.8	38.4	29.5	40.5	19.0	37.1
傾斜地	38.5	56.2	39.4	50.9	25.7	40.4
高度（村落）**						
低地	n.a	n.a	n.a	n.a	19.1	28.2
丘陵地	n.a	n.a	n.a	n.a	25.6	36.5
高地	n.a	n.a	n.a	n.a	26.4	43.9

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3" (2004), p.33, Table 2 and p.41, Table 11

(注) \* “平坦地”：面積の4分の3以上が傾斜度16度未満の郡

“傾斜地”：面積のほとんどが傾斜度16度以上の郡

“やや傾斜地”：「平坦地」あるいは「傾斜地」以外の郡

\*\* “低地”：氾濫原を含む海拔200メートル未満の土地

“丘陵地”：海拔200～1000メートル

“高地”：海拔1000メートル以上

貧困人口で見ると、最も人口が集中している「平坦地」においては、貧困人口が1992/93年96.1万人から2002/03年75万人と継続的に減少している一方で、他の地域では1997/98年にかけて貧困人口が増加した。「傾斜地」全体の人口は、「平坦地」に比して少ないにもかかわらず、「傾斜地」の貧困人口は85万人以上と、傾斜度による貧困人口の分布では最も多くなっている。

村落の高度で見ると、「低地」の貧困人口が最も多く、およそ90万人であるが、これはラもともと人口が「低地」に集中しているためである。しかし、国全体の人口の25%を占めるに過ぎない「高地」の貧困人口は、およそ60万人に上る。このことから、「高地」において貧困人口が集中しているといえる。

表 1-13：地形による貧困人口

区分	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	貧困人口	総人口に占める 地域人口比率 (%)	貧困人口	総人口に占める 地域人口比率 (%)	貧困人口	総人口に占める 地域人口比率 (%)
傾斜（郡レベル）*						
平坦地	961,709	51.0	770,775	50.0	750,619	49.6
やや傾斜地	221,404	12.9	275,195	13.4	243,975	11.9
傾斜地	908,113	36.1	947,998	36.6	857,513	38.5
高度（村落）**						
低地	n.a	n.a	n.a	n.a	895,057	57.5
丘陵地	n.a	n.a	n.a	n.a	352,109	17.5
高地	n.a	n.a	n.a	n.a	605,398	25.0

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3" (2004), p.32, Table 1 and p.35, Table 5



1992/93年から2002/03年の間に、貧困ギャップおよび貧困重度は、傾斜度によるすべての地域で改善している。ただし、地域間の格差については、貧困者比率と同様の傾向を見せている。「平坦地」の貧困ギャップおよび重度は、他の地域よりも低く、それぞれ6.2%、2.0%である。他方、「やや傾斜地」および「傾斜地」に貧困層は、「平坦地」に比して、貧困ギャップの度合いが大きい。また、貧困者間の不平等についても、「平坦地」よりも厳しい状況にある。

村落の高度による貧困ギャップおよび貧困重度も、傾斜度による測定値と同様の傾向を示している。高度の高い位置にある村落は、より低い位置にある村落よりも、貧困ギャップおよび重度は高い値である。

表 1-14：地形による貧困ギャップおよび重度

(%)

区分	1992/93年		1997/98年		2002/03年	
	ギャップ	重度	ギャップ	重度	ギャップ	重度
傾斜 (郡レベル)						
平坦地	9.1	2.9	6.9	2.3	6.2	2.0
やや傾斜地	9.8	3.7	10.6	3.8	8.7	2.9
傾斜地	15.5	5.8	15.0	6.2	10.3	3.8
高度 (村落)						
低地	n.a	n.a	n.a	n.a	6.2	2.0
丘陵地	n.a	n.a	n.a	n.a	9.7	3.7
高地	n.a	n.a	n.a	n.a	11.1	3.9

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/03" (2004), p.36, Table 6 and p.38, Table 8

### 1.2.5 民族による貧困状況

国際的な手法によると、ラオスの民族・言語族の分類は、Lao-Tai (Tai-Kadai)、Mon-Khmer (Austro-asiatic)、Hmong-Mien (Hmong-Yao、Miao-Yao)、Sino-Tibetan (ほとんどがTibeto-Burman)、の大きく4つに分かれる<sup>10</sup>。

ラオスにおける多数民族であるLao-Taiの貧困者比率は26%と低く、国全体の貧困者比率よりも低い水準である。ただし、Lao-Tai全体の人口は330万人と、ラオス最大の民族であるため、貧困人口も87.1万人と最大となっている。

表 1-15：民族による貧困者比率 (2002/03)

民族	人口	貧困者比率 (%)
Lao-Tai	3,352,856	26
Mon-Khmer	1,280,016	51
Tibeto-Burman & Hmong-Mien	626,273	44
Others	231,647	40
<b>全国</b>	<b>5,490,792</b>	<b>34</b>

(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, "The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR", p.38, Table 8

<sup>10</sup> ()は言語学上の同族を指す。

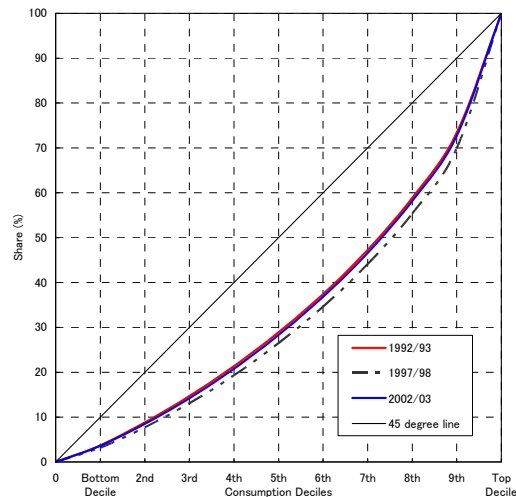
他方、Mon-Khmer および Tibeto-Burman と Hmong-Mien といった民族の貧困者比率は高く、Mon-Khmer で 50%、Tibeto-Burman と Hmong-Mien で 44%が貧困層である。Mon-Khmer では 60 万人以上、Tibeto-Burman と Hmong-Mien では 27.5 万人が貧困であると推定される。また、その他の少数民族では、およそ 9.2 万人が貧困にあえいでいる。

### 1.3 不平等指数と経年変化

#### 1.3.1 国レベルおよび都市・農村部における不平等状況

ラオス全体の不平等の状況を示すローレンツ曲線（図 1-5）は、1997/98 年に若干悪化しており、1992/93 年から 2002/03 年では大幅な改善は見られない。

ローレンツ曲線から算出されるジニ指数を見ても<sup>11</sup>、30～35%の範囲で推移している<sup>12</sup>。支出 10 分位による支出シェアを見ると、貧困層に相当する第 1 分位から第 4 分位のシェアは、他の支出グループのシェアがほとんど変動していない中、1992/93 年から 2002/03 年にかけて若干減少している。他方、最上位である第 10 分位のシェアは、1997/98 年の 30%からは減少しているものの、1992/93 年から 2002/03 年を比較すると 26.5%から 27.4%と若干増加している。



(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.34, Table 4

図 1-5：ローレンツ曲線

したがって、同期間の不平等の変化はわずかではあり、貧困削減により、全体の支出水準は底上げされたといえるものの、国全体で見て不平等の改善につながるものではなかったと考えられる。

都市部・農村部でみると、都市部における不平等は、農村部よりも大きい。2002/03 年のジニ指数を見ると、都市部では 34.8%と国全体よりも高く、農村部では 30.1%と国全体よりも低い水準である。農村部で見

表 1-16：全国、都市・農村部のジニ指数 (%)

地域	1992/93年	1997/98年	2002/03年
ラオス全体	30.5	34.9	32.6
都市部	30.9	39.7	34.8
農村部	29.0	32.1	30.3
全天候型道路あり	29.3	32.1	30.3
全天候型道路なし	27.5	30.9	29.4

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.40, Table 10

<sup>11</sup> ジニ指数はジニ係数を百分率（パーセンテージ）表示したもの（別添 1 参照）。

<sup>12</sup> 一般に、ジニ指数が 50%以上の場合、人口における所得分配の是正が必要となる社会的不安を引き起こすリスクが高い深刻な不平等の状況にあるといわれる。

ると、全天候型道路がない地域の不平等指標は、道路のある地域よりも低くなっている。ラオスの農村にとっては、全天候型道路へのアクセスは所得機会の創出にとって重要な要因であるが、農村人口にとっては所得分配の不平等を生み出す要因ともなっている。言い換えると、道路へのアクセスの無い農村では、人々は等しく機会を制限されている。

### 1.3.2 地理的区分による不平等状況

地域別で見ると、貧困者比率とは異なり、首都ビエンチャンでのジニ指数が最も高くなっている。ビエンチャンにおける不平等は、1992/93年 29.7%から 2002/03年 36%に悪化した。北部のジニ指数は 2002/03年時点で最も低い値であるが、10年間で 26.9%から 30.7%に悪化している。中部においては、同期間中 31~32%で推移した。他方、南部においては、不平等は 1992/93年から 2002/03年にかけて 32.3%から 31.4%と若干の低下が見られる。

表 1-17：地域別ジニ指数

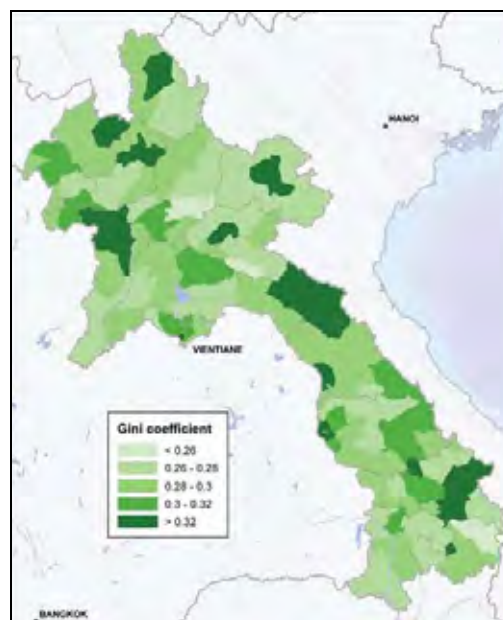
地域	1992/93年	1997/98年	2002/03年
ビエンチャン首都	29.7	36.9	36.0
北部	26.9	34.5	30.7
中部	31.5	32.5	31.0
南部	32.3	32.4	31.4

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.40, Table 10

立地で見ると、ジニ指数の変化は地域ごとに異なっている。「内地」においては、1992/93年 30.2%から 1997/98年 34.6%に悪化し、その後 2002/03年にかけてはあまり改善が見られなかった。「タイ国境」の都市部においては、1997/98年に 40%以上に悪化し、その後、2002/03年には 1992/93年と同じ水準の 31.7%に低下した。これらの地域は、比較的貧困者比率が低い、住民の間の不平等は他の地域に比して大きくなっている。

「中国国境」地域でも、「タイ国境」地域と同様の変化が見られ、1992/93年 21.1%から 1997/98年 31.1%に上昇し、2002/03年に 25.9%まで改善した。同地域は、貧困および不平等ともに、相対的に低い水準である。

「ベトナム国境」地域のうち、「南部・中部」ではジニ指数は低下傾向にあり、10年間で 36.4%から 25.8%に改善した。他方、北部地域では、26%



(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, “The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR”, p.26, Figure 13

図 1-6：不平等マップ（郡レベル）

前後の比較的低い水準でありあまり大きな変化は見られない。しかしながら、これらの地域はいずれも不平等の程度は低いものの、貧困者比率が非常に高く、「平等な貧困」状態にあるといえる。

「カンボジア国境」地域においても、「ベトナム国境」地域と同様の傾向が見られる。「カンボジア国境」地域の不平等度は相対的に低い水準であるが、貧困者比率は高い。ただし、「ベトナム国境」地域と異なり、ジニ指数は 1992/93 年 26.8%から 2002/03 年 28.0%と若干悪化している。

表 1-18 : 立地によるジニ指数

地域	1992/93 年	1997/98 年	2002/03 年
内地	30.2	34.6	33.5
タイ国境	28.9	35.2	30.9
都市部	31.2	41.8	31.7
農村部	27.4	32.7	30.1
ベトナム国境	34.2	28.9	25.8
北部	25.5	26.7	25.8
南部・中部	36.4	30.0	25.8
中国・ミャンマー国境	21.1	31.1	25.9
カンボジア国境	26.8	29.3	28.0

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/03” (2004), p.40, Table 10

### 1.3.3 農業・生態区分および地形による不平等状況

#### (1) 農業・生態区分

農業・生態区分では、不平等の度合いにあまり大きな差は見られない。

最も貧困者比率の低い Boloven 高原は、ジニ指数も最も低く、27%であった。これは、同地域では貧困および不平等にさらされている住民が少ないことを示している。他方、南部-中部地域では、貧困者比率は 60%と高いものの、不平等度は 30%前後と低い。

貧困者比率の低い、ビエンチャン平野、メコン回廊、北部低地では、ジニ指数は 31%と他の地域よりも若干高い値である。貧困者比率が 40%以上である、北部丘陵地および高地は、ジニ指数もそれぞれ 31%、32%と高い値である。

表 1-19 : 農業・生態区分によるジニ指数

農業・生態区分	ジニ指数
ビエンチャン平野	31
メコン回廊	31
北部低地	31
北部丘陵地	31
北部高地	32
南部-中部低地	29
南部-中部丘陵地	30
南部-中部高地	28
Boloven 高原	27

(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, “The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR”, p.38, Table 8

## (2) 地形

地形による区分でも、2002/03 年時点における不平等度の地域間格差はあまり見られない。「平坦地」においては、1992/93 年から 2002/03 年にかけて、31.5%から 33.7%と悪化した。また、「傾斜地」においても不平等度は、28.1%から 30.1%と悪化が見られる。「やや傾斜地」では、ジニ指数は、1992/93 年 31.5%から 1997/98 年 38.5%に急激に悪化し、その後 2002/03 年には 31.4%に改善した。

表 1-20 : 地形によるジニ指数

地形	1992/93 年	1997/98 年	2002/03 年
(%)			
傾斜 (郡レベル) *			
平坦地	31.5	34.7	33.7
やや傾斜地	29.3	38.5	31.4
傾斜地	28.1	31.4	30.1
高度 (村落) **			
低地	n.a	n.a	33.3
丘陵地	n.a	n.a	31.1
高地	n.a	n.a	29.4

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3" (2004), p.40, Table 10

### 1.3.4 民族による不平等状況

民族・語族別では、貧困者比率では大きな格差がみられたが、不平等の度合いについてはあまり大きな差異は見られない。

Lao Tai のジニ指数は、Mon-Khmer および Tibeto-Burman および Hmong-Mien の 30%に比べるとやや高く 32%である。その他の民族は、これらの主要な民族に比べると不平等度が高く、ジニ指数は 34%である。

表 1-21 : 民族によるジニ指数

民族	ジニ指数
Lao-Tai (Tai-Kadai)	32
Mon-Khmer	30
Tibeto-Burman & Hmong-Mien	30
Others	34

(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, "The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR", p.38, Table 8

## 第2章 所得貧困以外の方法による分析

### 2.1 当該国政府による指定貧困地域・集団

2004年6月、ラオス政府は、国の初めての貧困削減戦略である「国家成長および貧困撲滅戦略（NGPES：National Growth and Poverty Eradication Strategy）を公表した。NGPESでは、貧困の推移をモニタリングし、世帯、村落および郡レベルでの貧困状況をよりよく把握するために、地方政府を支援する目的で貧困基準を設定している。貧困の基準は、表2-1の通りである。

世帯レベルでは、1人1ヶ月当たり米16キログラムを入手できない世帯を、「貧困世帯」と定義している。また、村および郡レベルでは、貧困を所得だけでなく、教育、保健、道路および安全な水といった、基礎サービスへのアクセスも考慮して定義している。

表 2-1：NGPES における貧困の基準

	貧困基準
世帯レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 所得（または同等の現物）が1人1ヶ月当たり85,000キップ（2001年価格）未満               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 都市部では100,000キップ未満</li> <li>➢ 農村部では82,000キップ未満</li> </ul> </li> </ul>
村レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全世帯数の51%以上が貧困層である村</li> <li>■ 学校が村落内がない、あるいは近隣のアクセス可能な村にない村落</li> <li>■ 村落内に診療所、伝統的医療者がいない、あるいは病院まで6時間以上かかる場合</li> <li>■ 道路（少なくとも乾期に荷馬車が通れる道）へのアクセスが無い村落</li> </ul>
郡レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 貧困村が51%以上の郡</li> <li>■ 学校が村落内あるいは近隣にない村が40%超の郡</li> <li>■ 診療所あるいは薬局がない村が40%超の郡</li> <li>■ 道路へのアクセスがない村が60%超の郡</li> <li>■ 安全な水へのアクセスがない村が40%超の郡</li> </ul>

（出所）Lao People's Democratic Republic, "National Growth and Poverty Eradication Strategy", (2004), p.30

（注）2001年の平均為替レートは、1USD=8,954.58キップ。

NGPESにおける貧困世帯の定義によると、北部および南部において、貧困世帯の割合が高い県が多く見られる。北部では、Xaynabouryを除くすべての県で、貧困世帯の割合が50%を超えている。中部では、県ごとに格差が大きい。首都ビエンチャンでは、貧困世帯の割合は4.4%にとどまっているが、Boikhamxayでは71%の世帯が貧困層である。南部では、Champasakの貧困世帯の割合は19.7%であるが、その他の県では60%を超えている。特に、Xékongでは80%以上の世帯が貧困であるとみなされる。他方、村落レベルでは、大多数の村がNGPESの「貧困村」の定義に該当する。

表 2-2 : NGPES 貧困の定義による貧困村および貧困世帯の数および割合 (2003 年)

県	貧困村の数	貧困村の割合 (%)	貧困世帯の数	貧困世帯の割合 (%)
<b>北部</b>				
Phongsaly	369	94.4	9,241	53.3
Louang Namtha	195	88.6	7,918	70.0
Oudomxay	500	91.6	18,288	60.1
Bokeo	114	64.0	5,082	52.6
Louang Prabang	246	76.4	12,964	72.2
Houa Phan	636	91.1	21,299	65.1
Xaygnaboury	136	47.4	8,040	30.9
<b>中部</b>				
Vientiane Capital	27	73.0	191	4.4
Xieng Khoang	204	47.6	9,228	35.4
Vientiane	129	84.9	4,190	33.7
Borikhamxay	134	88.2	10,885	71.2
Khammuane	310	82.7	7,658	36.8
Savannakhet	523	72.5	21,086	57.5
Xaysomboun	72	83.7	2,919	58.0
<b>南部</b>				
Saravanh	119	65.7	5,483	61.2
Xékong	153	85.5	3,966	82.4
Champasak	160	51.5	5,893	19.7
Attapeu	99	86.1	6,261	69.3
<b>合計</b>	<b>4,126</b>	<b>76.7</b>	<b>160,592</b>	<b>50.4</b>

(出所) Lao People's Democratic Republic, "National Growth and Poverty Eradication Strategy" (2004), p.31

NGPES による貧困郡の定義によって、ラオス政府は、2003 年に全 142 郡のうち 72 郡を貧困郡として特定した。2003 年時点において、貧困郡 72 郡における貧困人口は、国全体の貧困人口の 60%を超えていた (表 2-3)。

貧困郡のうち、NGPES の貧困基準による貧困世帯が少なくとも半数以上である、40 郡が「最貧困郡」とされ、さらに、全県をカバーするために 7 郡が選定され、合計 47 郡が 2003~2005 年の第一優先郡として指定された。「第一優先郡」は、2003 年から 2005 年に実施される国家プログラムによる投資を優先的に行う対象とされ、それ以外の 25 郡は「第二優先郡」とされた。「第一優先郡」における貧困人口の総計は、LECS 3<sup>13</sup>のデータによると 65.5 万人以上であった。優先貧困郡は、主にベトナム国境沿いおよび北部地域に位置している。これは、第 1 章における所得貧困の地理的分布の傾向に一致している。

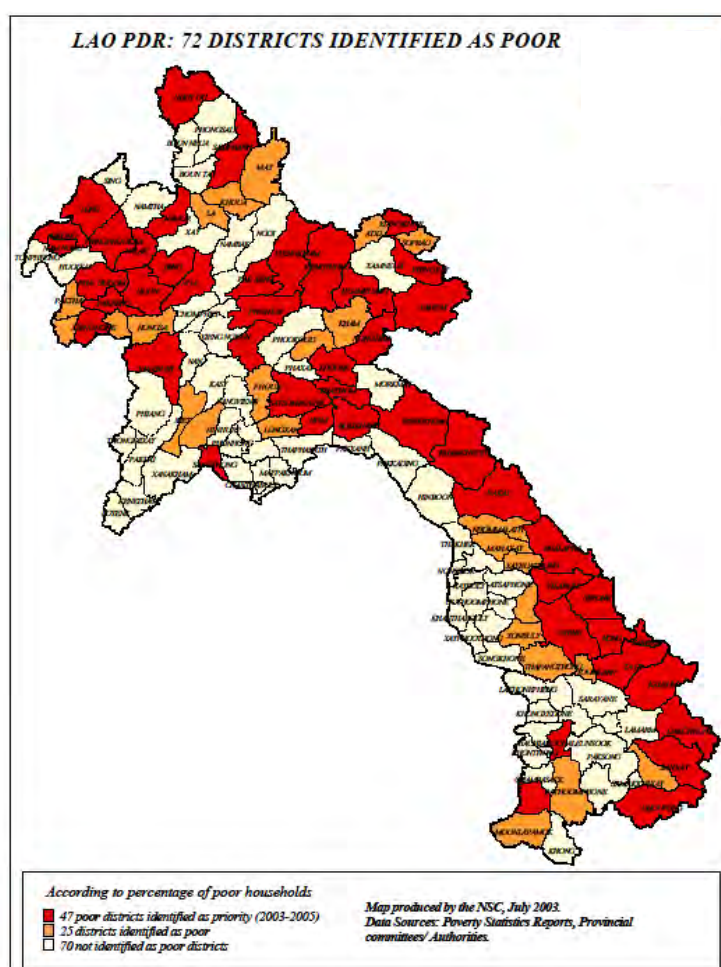
<sup>13</sup> Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, "Lao PDR Poverty Trends 1992/93-2002/03", (2004), p.35, Table 5

表 2-3 : NGPES の貧困の定義による貧困郡の分類 (2003 年)

指標	分類		
	貧困郡 (合計 72 郡)	優先郡 (2003-2005 年) (47 郡)	非貧困 (70 郡)
平均貧困率	55%	64%	23%
全人口に占める郡人口の割合	37.8%	24.3%	61.4%
総貧困人口に占める郡の貧困人口の割合	62.2%	46.9%	37.8%
貧困率	50.6%	-	18.9%

(出所) Lao People's Democratic Republic, "National Growth and Poverty Eradication Strategy" (2004), p.32

(注) 2004 年時点の郡の数は合計で 142 郡。



(出所) Lao People's Democratic Republic, "National Growth and Poverty Eradication Strategy" (2004)

図 2-1 : 72 貧困郡の分布

絶対貧困ラインによる貧困者比率を比較すると(表 2-4)、第一優先郡の貧困者比率は 51.6%、第二優先郡 40.5%、その他の非優先郡は 25.9%と、優先度の高い郡の貧困者比率は、優先度



の低い郡に比して高くなっている。第一優先郡では、人口の 30%以上が依然として食料貧困ライン以下の生活水準にある。また、第二優先郡および非優先郡においては、1992/93 年から 2002/03 年にかけて継続的に貧困者比率が低下しているが、第一優先郡における貧困削減は限定的である。このことから、第一優先郡においては、さらに貧困削減を進めるためには、更なる公共投資が必要であったことが明らかであり、NGPES において「優先郡」とされたことは、妥当であったと考えられる。

表 2-4：優先度による貧困者比率

(%)

地域	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困	食料貧困	貧困
第一優先郡	40.9	55.8	53.6	65.0	30.2	51.6
第二優先郡	46.6	59.5	32.4	41.9	26.5	40.5
その他	34.7	39.7	25.5	29.8	18.3	25.9

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.33, Table 2 and p.41, Table 11

貧困ギャップおよび重度も、優先度の低い郡に比して、優先度の高い郡で高くなっている (表 2-5)。優先度の高い郡では、貧困ラインからの貧困層の支出水準の乖離は 10%以上であるが、非優先郡においては 5.6%にとどまっている。また、貧困の重度は優先郡で 4.0~5.0%であるのに対し、非優先郡ではわずか 1.8%である。さらに、優先郡では貧困ギャップおよび重度の改善はわずかであるが、非優先郡では 10 年間で一貫して改善の傾向にある。優先郡においては、貧困層の支出水準は貧困ラインを大幅に下回っており、かつ、貧困層の階層間の不平等も深刻、すなわちより貧困ラインに近い貧困層と最貧困層の格差が大きいことが示されている。

表 2-5：優先度による貧困ギャップおよび貧困重度

(%)

地域	1992/93 年		1997/98 年		2002/03 年	
	貧困ギャップ	貧困重度	貧困ギャップ	貧困重度	貧困ギャップ	貧困重度
第一優先郡	15.6	6.0	21.3	9.1	13.5	5.0
第二優先郡	16.0	6.1	10.5	4.0	10.9	4.0
その他	8.7	2.7	6.6	2.2	5.6	1.8

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.36, Table 6 and p.41, Table 11

他方、優先度の高い郡においては、不平等の度合いが低い (表 2-6)。第一優先郡のジニ指数は、1992/93 年 29.9%から 2002/03 年 27.8%に低下した。また、第二優先郡では、31.9%から 29.6%とわずかに低下している。しかし、非優先郡では、30.1%から 32.5%に悪化している。優先度の高い郡では、貧困者比率が高いものの、非貧困層と貧困層の格差は小さく、非優先郡では貧困者比率は低いものの、貧困層と非貧困層の格差が大きいと考えられる。

表 2-6：優先度によるジニ指数

(%)

地域	1992/93	1997/98	2002/03
第一優先郡	29.9	30.2	27.8
第二優先郡	29.6	29.2	31.9
その他	30.1	34.6	32.5

(出所) Committee for Planning and Investment National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trend 1992/93-2002/3” (2004), p.40, Table 10

## 2.2 脆弱性分析

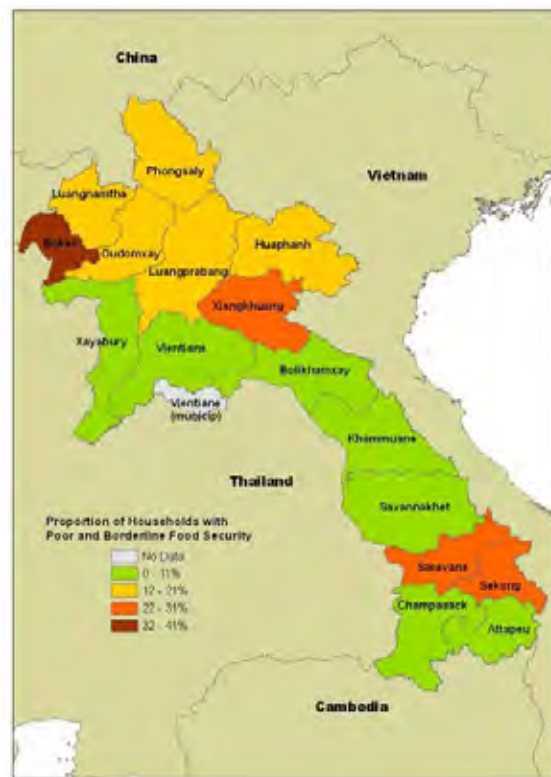
### 2.2.1 包括的食料保障および脆弱性分析

#### (1) 食料保障

包括的食料保障脆弱性分析（CFSVA：Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis）<sup>14</sup>は、地域別の食料保障の水準を示すものである。食料保障の水準は、以下の3つに分けられる。

- a. 不十分 (Poor)：動物性たんぱく質の摂取はほとんどない。食品の多様性は限界的で、栄養価の低い食料。
- b. ボーダーライン：野菜中心の食生活で、まれに肉を摂取している。
- c. 十分 (Acceptable)：肉の接種が週に3回以上のバランスの取れた食品群比率。栄養価の食品の定期的な消費を通じて適切な栄養を摂取できる十分な多様性と可能性がある。

2006年に行われたCFSVAによれば、ラオスの人口の大多数は、国際連合世界食糧計画（WFP：United Nations World Food Programme）が定義する食料保障が十分なレベルにある。他方、同国の全世帯の2%は食料不足に苦しんでおり、11%の世帯は食料保障のぎりぎりのボーダーラインの水準にある<sup>15</sup>。



(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.87, Map 1

図 2-2：ラオスの農村における食料保障の状況（県別）

<sup>14</sup> CFSVA は、ラオスの食料保障と最善の食料支援に関する情報を、WFP および他ドナーに提供することを目的としている。また、食料保障および栄養状態、また、食料保障と政府の政策などの要因との関連について、詳細な二次データの分析を行い、それに基づいてラオスの国別報告書とデータセットを改善することも目的としている。

<sup>15</sup> なお、LECS 3 (2002/03) のデータによれば、平均のコメの摂取量は1人1日当たり575グラムと推定されるが、都市のコメの摂取量は農村よりも15%少ないことが指摘されている。また、食品の摂取パター

食料保障が不十分あるいはボーダーラインの世帯の70%は以下の7県に集中している。

- 北部高地の Oudomxay および Bokeo（不足世帯 28%、ボーダーライン世帯 17%）
- 北部の Luang Prabang および Houa Phanh
- 中部の Xieng Khong
- 南部高地の Saravane および Sekong（不足世帯 22%、ボーダーライン世帯 20%）

なお、ビエンチャン平野およびメコン回廊のいくつかの県では、食料保障が不足している世帯数あるいはボーダーラインの世帯数は非常に限定的である。

主要なインフラへのアクセスがない、あるいはほとんどない村に居住している割合は、食料保障が確保されている世帯のうち 34%であるのに対し、食料保障が不十分である世帯では 49%に上っている。なお、インフラへのアクセスがなく、食料保障が不十分である世帯のうち、食料が不足している世帯が 54%、ボーダーラインである世帯が 48%を占めている。また、居住期間による食料保障の状況を見ると、同じ村に住んでいる期間が 5 年未満の世帯に占める食料保障が不十分である世帯の割合は 23%であり、5 年以上住んでいる世帯の場合の 12%を大きく上回っている。このことは、移住が一時的な食料保障のリスクになることを示している。食料保障に影響を及ぼすその他の要因としては、世帯の生計が挙げられる。食料保障が不十分な世帯は、主に農民と非熟練労働者に見られ、食料保障が十分な世帯の割合は、農民で 57%、非熟練労働者では 10%に過ぎない。

表 2-7：ラオスの農村における世帯の食料保障の状況

県	食料消費					
	不十分		ボーダーライン		十分	農村世帯数
	割合 (%)	世帯数	割合 (%)	世帯数	世帯数	世帯数
<b>ラオス全体</b>	<b>2</b>	<b>14,000</b>	<b>11</b>	<b>70,000</b>	<b>582,000</b>	<b>666,200</b>
<b>北部</b>						
Phongsaly	4	1,100	14	3,400	20,000	24,400
Louang Namtha	2	300	15	3,000	17,100	20,400
Oudomxay	4	1,400	15	5,200	29,100	35,800
Bokeo	11	2,500	30	6,700	12,800	22,000
Louang Prabang	2	1,400	14	7,900	47,800	57,100
Houa Phanh	2	600	19	7,200	29,700	37,600
Xaynaboury	1	600	9	4,200	42,700	47,500
<b>中部</b>						
Xieng Khoang	3	800	22	6,600	21,900	29,300
Vientiane	0	0	4	2,000	54,400	56,400
Borikhamxay	1	200	3	900	26,900	28,000
Khammuane	1	400	9	4,100	43,800	48,400
Savannakhet	1	900	3	2,800	97,000	100,700

ンは地域によって異なっており、北部では、中部および南部よりもコメの消費量が多い傾向があることが示されている。CFSVA によれば、コメの収穫期で、十分なコメの量がある時期においても、中部および南部の多くの世帯で、とうもろこし、キャッサバ、その他根菜類といった、コメ以外を主食としている。

県	食料消費					
	不十分		ボーダーライン		十分	農村世帯数
	割合 (%)	世帯数	割合 (%)	世帯数	世帯数	世帯数
南部						
Saravanh	4	2,000	26	12,600	33,500	48,100
Xékong	10	1,000	14	1,300	7,400	9,700
Champasak	0	300	1	1,000	83,100	84,500
Attapeu	1	200	8	1,300	14,800	16,300

(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.86, Table 16.

(注) 食料消費グループは以下のように分類される。

- 不十分 (Poor) : 食料保障スコア : FCS cut-off point  $\leq 21$
- ボーダーライン : 野菜中心の食生活で、まれに肉を接種している。FCS cut-off-point 21.5-35、CS cut-off-point 21.5-35
- 十分 (Acceptable) : 肉の接種が週に 3 回以上のバランスの取れた食品群比率。栄養価の食品の定期的な消費を通じて適切な栄養を摂取できる十分な多様性と可能性がある。FCS cut-off point  $> 35$

## (2) 子どもの栄養状態

農業・生態区分で見ると、栄養状態の地域間格差は非常に大きい。一般に、栄養状態は、以下の 3 つの観点から分析される。

- 低体重 : 年齢別の標準体重を下回っている割合。十分なカロリーを摂取するために適切な食料を入手できないために起こる慢性的な栄養不良状態
- 発育阻害 : 年齢別の標準身長を下回っている割合。たんぱく質の不足や度重なる感染症の発症により生じる慢性的なたんぱく質・カロリーの栄養不良状態
- 消耗症 : 身長に対する標準体重を下回っている割合。感染症などによって生じるたんぱく質・栄養の急性栄養不良状態。

ビエンチャン平野における子どもの栄養状態は、最も良好である。他方、北部高地および中部・南部高地においては、栄養不良が原因となる低体重および発育阻害の割合が非常に高くなっている。農村部における栄養状態については、地理的区分が民族的なグループによる要因に加えて影響している。

表 2-8 : 農業・生態区分による子どもの栄養不良の発生状況 (信頼区間 95%)

農業・生態区分	%		
	低体重	消耗症	発育阻害
ビエンチャン平野	18.7	4.6	34.6
中部・南部高地*	35.9	9.3	55.3
メコン回廊	34	9.4	44.7
北部高地	32.8	6.5	58
北部低地	25.5	6.2	45.7

(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.99, Table 18

(注) \* Boloven 高原を含む

土地の脆弱性<sup>16</sup>で見ると、低体重および消耗症の発生については、あまり格差は見られない。しかしながら、傾斜度が16度以上である土地が70%を占める地域では、子どもたちの54%が発育阻害とされている。

表 2-9：土地の脆弱性による子どもの栄養不良の発生状況（傾斜度16度以上）  
(%)

傾斜地の割合	低体重	消耗症	発育阻害
0～30%	32.8	7.8	48.3
31～70%	28.6	9.1	45.3
70%以上	31.3	6.3	54.2

(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.99, Table 19

民族別に見ると、Lao-Tai 語族に属する世帯の栄養状態は、他の民族・語族に比べると良い。CFSVA によれば、Lao-Tai では食料保障が不足している世帯の割合が7%にとどまっていることが要因であるといえる。Hmong-Mien は、28%の世帯で食料保障が不足しているものの、栄養状態についてはその他の民族に比して良い状態にある。

他方、Mong-Khmer と Tibeto-Burman は、食料保障が不十分であり、子どもの栄養状態も厳しい状況にある。Mong-Khmer の世帯の44%で食料保障が不十分であり、低体重児の割合が36%、発育阻害児の割合が54%であった。また、国全体の食料保障が不十分である世帯数の22%と Mong-Khmer よりも低いにもかかわらず、Tibeto-Burman の低体重児の割合39.8%、発育阻害児の割合が61.9%と最も高い。Mong-Khmer および Tibeto-Burman の多くは、十分な栄養を摂取できず、また、適切な食品バランス、特にたんぱく質を得られていない。彼らの多くは、生産性の低い自給自足的な焼き畑農業を営み、また、マーケットから離れた遠隔地に居住していることから、食料や様々な栄養をとることが困難な状況にある。

民族グループのほとんどは、特に、焼き畑農業を行っているグループは、コメの収穫期（6月～9月）の前の時期には、コメの代替あるいはコメと混ぜて、メイズや根菜類を食べている。これは、コメの備蓄を出来るだけ長く持たせるための、世帯としての戦略であるといえる。

表 2-1：民族による子どもの栄養状態

民族・語族	低体重	消耗症	発育阻害
Lao-Tai	28.6	8.6	42.4
Austro-Asiatic (Mong-Khmer)	36.1	7.6	55.5
Sino-Tibetan (Tibeto-Burman)	39.8	6.3	61.9
Hmong-Mien	25.8	5.2	54.4

(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.100, Figure 31

<sup>16</sup> 「土地の脆弱性」は、土地の傾斜度により定義される。傾斜度16度以上の傾斜地が、「脆弱な土地」とされている。

## 2.2.2 危険分析

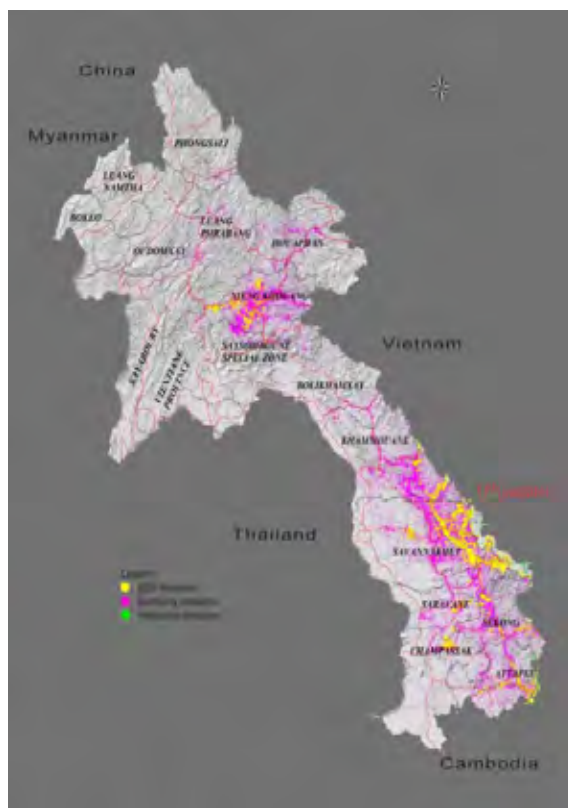
### (1) 不発弾

ラオスは、1人当たりで見ると、世界で最も爆撃を受けた国である。ベトナム戦争が行われた1964年から1973年にかけて、国土の3分の1に当たる8.4万平方キロメートルを超える範囲に、およそ260万トンの爆弾が投下されたと推定されている。その結果、推定される不発弾(UXO: Unexploded Ordnance)は、7,800万個に上る。

不発弾は、15県で確認されており、深刻な影響を及ぼしてきている。特に、Savannakhet、Saravane、Champasack、Attapeu(南部)、Khammuane、Luang Prabang(中部)、XiengkhuangおよびHauphanh(北部)の8県は、最も深刻な不発弾の影響にさらされてきた。国全体を対象とする不発弾の社会経済インパクト調査<sup>17</sup>によれば、国内の25%の村落で不発弾汚染が報告されている。

ラオスにおいて、不発弾は貧困の一つの要因と考えられている。不発弾汚染のあるコミュニティの一部は、ラオスで最も貧困な地域でもある。不発弾の被影響地は農地の50%に相当していることから、不発弾汚染が農地へのアクセスや農業生産を阻害し、食料不足の原因となっている。また、遠隔地の農村コミュニティの貧困層や弱者層の多くは、危険を冒して不発弾の被影響地での農業や採集活動を行うか、貧困状況のままの生活を続けるか、というジレンマに直面している。CFSVAによれば、不発弾問題のある村で生活している世帯の17%が、食料消費が不十分あるいはボーダーラインにあり、これはその他の村における食料保障が不十分である世帯の割合12%を上回っている。

不発弾の被影響地で生活する人々の安全を確保し、食料生産や社会経済活動に利用可能な土地を拡大するために、不発弾除去・処理は重要である。そのため、ラオス政府は、UNDPやUNICEFを初めとするドナーの支援を受けて、ラオス国家不発弾プログラム(UXO Lao: Lao National Unexploded Ordnance Programme)<sup>18</sup>を1996年に設立した。



(出所) Lao National Unexploded Ordnance Programme, “2009 Work Plan”

図 2-3: 不発弾分布図

<sup>17</sup> 同調査は、1996年および1997年に実施された。

<sup>18</sup> 労働・社会福祉省およびUNDPによる国家プロジェクトである。

UXO Lao の不発弾除去・処理活動は、同国の貧困撲滅戦略にも貢献している。

1996 年から 2007 年までの間に、UXO Lao は 37.1 万個の不発弾の処理を行ったが、国内で推定されている不発弾の 0.47% に過ぎない。

表 2-10：不発弾処理（1996-2008 年）

県	農地 (ha)	その他 (ha)	合計 (ha)	受益者 (人)
<b>北部</b>				
Louang Prabang	1,222.5769	281.2277	1,503.8046	254,496
Houa Phanh	1,360.7489	145.5436	1,506.2925	376,901
<b>中部</b>				
Xieng Khoang	2,820.9550	324.9612	3,145.9162	574,513
Khammuane	715.9779	269.2542	985.2321	123,880
Savannakhet	2,019.5717	227.1232	2,246.6949	263,393
<b>南部</b>				
Saravanh	1,212.2215	364.0038	1,576.2253	469,628
Xékong	774.1316	309.3360	1,083.4676	137,012
Champasak	1,026.4717	278.0842	1,304.5559	639,134
Attapeu	699.5831	467.2163	1,166.7994	232,518
<b>合計</b>	<b>11,852.2383</b>	<b>2,666.7502</b>	<b>14,518.9885</b>	<b>3,071,475</b>

(出所) Lao National Unexploded Ordnance Programme, “Annual Report” (2007 and 2008)

## (2) 自然災害

1966 年から 2002 年の間、毎年、ラオスのどこかの地域で、旱魃や洪水の被害を受けている。CFSVA によれば、農村人口の 46% が旱魃に対して脆弱であると推定されている。こうした脆弱な人口は、低地、特に南部と Xaygnaboury および Luang Prabang に居住している。旱魃に最も脆弱な世帯は、農民と農業の非熟練労働者である。また、およそ 18.8 万人が旱魃に起因する食料保障が脅かされるリスクにさらされており、その多くが Khammuan, Savannakhet、ビエンチャン県（中部）、Saravane, Champasak（南部）、Xaygnaboury（北部）に居住している（図 2-5 の茶色の地域）。

頻度とその影響度において、洪水はラオスにおいて主要な自然災害となっている。例年、洪水は、国の中部および南部において、8 月から 9 月にかけて発生する。例年の洪水は、メコン河流域において、魚類やその他の水生生物の増加およびコメの生産増加につながる豊かな土壌をもたらしているが、大規模な洪水は、世帯の生活に影響を及ぼす、家屋、農業生産および家畜などの資産に損害を与える。過去の大規模な洪水により損害を受けた人口は、それぞれ 2,000 人から 59 万人である。農産物生産、家畜生産、その他、洪水地域内での活動に依存している場合、洪水を受ける地域に居住している世帯は、洪水によって生活が悪化するリスクが非常に高い。



(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006)

(注) LGP (Length of Growing Period) は、早魃を示す指標であり、年間の雨量が想定される土壌の水分蒸発量の50%以上である日数により計測される。



図 2-4：早魃による世帯の食料保障リスク  
(慢性的な食料不足を除く)

図 2-5：ラオスにおける早魃発生地



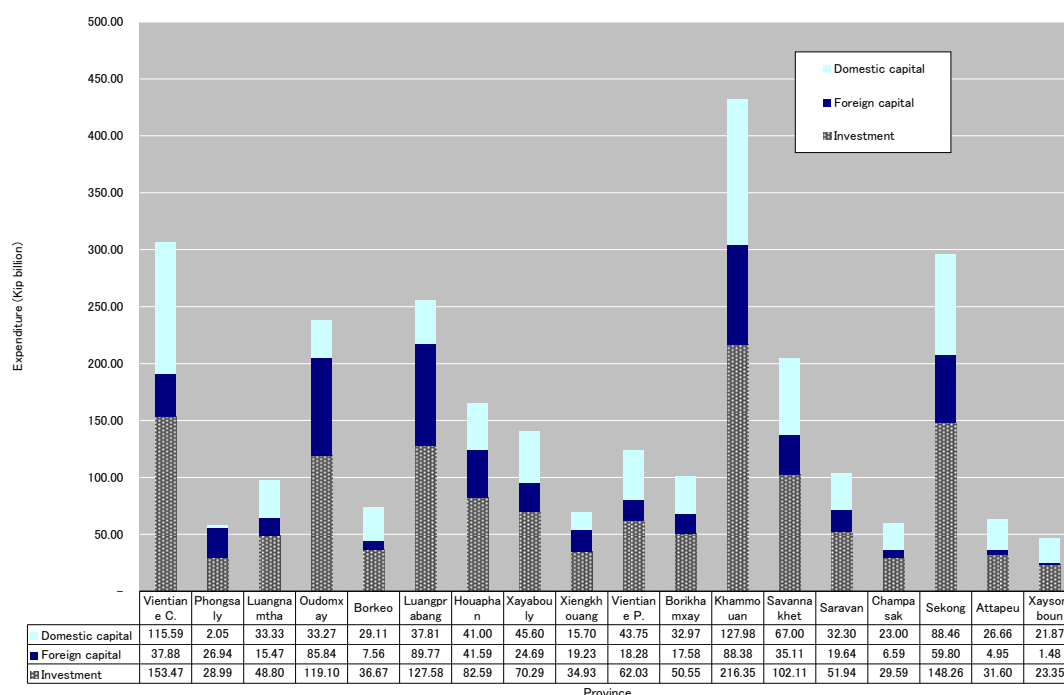


### 第3章 貧困に影響を与えている要因

#### 3.1 国内要因

##### 3.1.1 国家開発と公共支出

2000年代の初め、ラオス政府は、2020年までに後発開発途上国（LDC：Least Developed Country）からの脱却を図るという国家開発および貧困削減の目標が掲げられた。この時期に、「国家社会経済開発計画 2001-2005年（NSEDP：National Socio-Economic Development Plan 2001-2005）」および「国家成長・貧困撲滅戦略（NGPES）」という2つの重要な文書が策定された。これらの国家開発計画および貧困削減戦略に基づき、政府は公共投資プログラムの重点を北部高地、北部低地および中部-南部高地にシフトさせた。ドナーも、政府の方針に従い、これらの地域への支援を増加させた。WBのレポート<sup>19</sup>によれば、そうした公共投資やドナー資金の投入は、対象地域において、貧困削減の成果に密接に関連する開発プロジェクトにより裨益する農村世帯の数を増加させた。特に、インフラへの投資は、市場や社会サービスへのつながりの改善をもたらし、それにより、それまで市場へのアクセスが限られていた高地の孤立した地域の貧困削減につながった。



(出所) Ministry of Finance, “Official Gazette: State Budget Implementation Report FY2002/03”

図 3-1：県別公共投資（2002/03年）

食料保障については、「食料保障戦略（Food Security Strategy）」が農業森林省により、2000年から2010年をターゲットに実施されている。同戦略では、国民全体の必要なカロリー摂取に応じた十分な量のコメを生産するために、より生産性の高いコメ生産を目指すもので

<sup>19</sup> World Bank, “Lao PDR: Rural and Agriculture Sector Issues Paper”, (2006)

あったが、栄養不良への対応、食品に関する多様性の確保、栄養・食料保障に関する知識の普及など、一連の課題についての取組みは含まれていない。他方、栄養に関する政策は、政府のアジェンダにおいて優先度は高くなく、保健省と農業森林省、教育省、計画投資省<sup>20</sup>などの他省庁との協調のもと、「国家栄養政策（National Nutrition Policy）」が採択されたのは2008年であった。

### 3.1.2 産業構造と雇用

#### (1) 産業構造

ラオスでは、およそ40%が貧困にあえいでいる農村住民の、唯一かつ最大の食料や所得源は依然として農業である。農業は、GDPの50%を占め、また、全雇用のおよそ70%を占める。しかしながら、農業に従事している人口の40%が貧困であると推定されている。

WBの貧困アセスメントによれば、1992/93年から2002/03年の10年間の貧困削減の進展は、農業セクターの成長によるものより、非農業セクターにおける成長との関連性が強い。1992/93年から1997/98年の期間と1997/98年から2002/03年の期間における貧困者比率の低下を比較すると、1992/93年からの5年間のほうが、1997/98年からの5年間に比して、貧困者比率の低下の度合いが大きい。このことから、後半の5年間で鈍化したというものの、非農業セクターの高成長が、貧困削減を押し進めたといえる。また、農業セクターの低成長であったことから、農村部における貧困削減のペースは都市部に比してゆっくりとしたものであったといえる。また、製造業、建設、サービスといった非農業セクターの成長は、そうした産業が立地している都市部およびその周辺部においてのみ、雇用を拡大しており、そうした雇用へのアクセスが限られている農村の人々にはあまり恩恵をもたらさないものであった。

表 3-1：貧困とセクターの成長率（1992/93-2002/03年）

(%)

指標	1992/93年	1997/98年	2002/03年	変化率	
				1992/93-1997/98	1997/98-2002/03
貧困者比率	46.0	39.1	33.5	-3.2	-3.0
GDP シェア	100	100	100	6.8	6.0
農業	59	52	50	4.8	4.8
非農業	41	48	50	9.6	7.3
雇用シェア	100	100	100	2.5	2.5
農業	86	70	67	-1.5	1.4
非農業	15	30	33	17	4.9

(出所) World Bank, “Lao PDR Poverty Assessment Report Volume II: Main Report”, p.19, Table 6

農村の貧困の要因としては、農産物が農村世帯にとって最も重要な所得源であるにもかかわらず、生産性の低い自給自足農業が広く行われていることにあるといえる。多くの農村世帯は、灌漑設備の無い非常に小規模な農地を耕作している。また、LECS 3によれば、農村で生産されている穀物のうち、市場で販売されているのは23%に過ぎない。したがって、

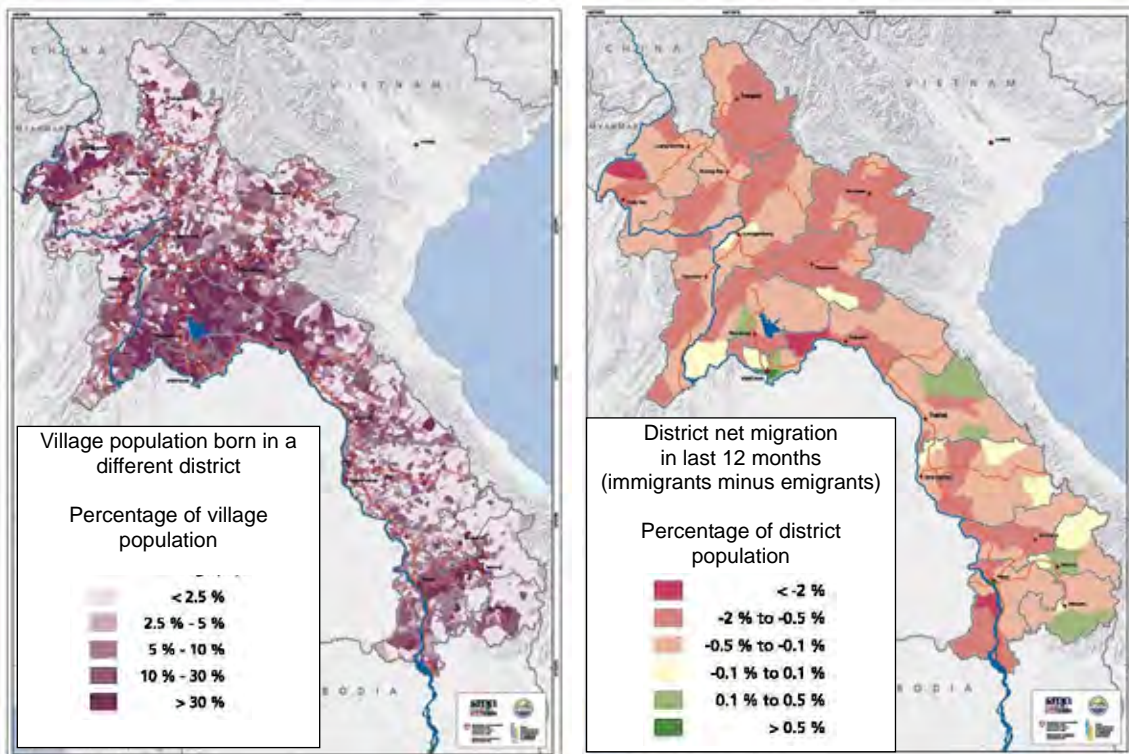
<sup>20</sup> 同戦略は、FAO、WHO、WHO、UNICEF および WFP といった国際機関の支援を受けて策定された。

自給自足的な農業が主流で、生産性の低い農業生産を行っている農村世帯では、農産品からの収入は限られているため、貧困者比率が高い傾向にある。

なお、近年、ラオスの経済成長に貢献度の高いセクターは、鉱業（主に銅および金）や電力セクターなどの資源セクターにシフトしてきている。また、大規模な水力発電開発プロジェクトの実施が輸出を拡大し、また、鉱山開発の拡大がラオス経済に更なる成長をもたらすことが期待されている。こうした資源セクター主導のマクロ経済成長は、国全体の経済水準を強化するとともに、さらなる貧困削減に貢献するものと推察される。したがって、LECS3 以降の貧困状況の変化と貧困に影響を及ぼしている要因について分析することが求められる。

## (2) 雇用機会と国内人口移動

WB の貧困アセスメントによれば、農村からの国内人口移動を促進している要因としては、インフラへのアクセスの改善、焼畑農業の固定化を含む農村開発政策の促進、土地の再配分、拠点開発、およびケシ栽培撲滅が上げられている。これらの政策は、生計を求めて低地に移住せざるを得ない状況に農村人口を追い込むリスクを拡大していると思われる。また、首都ビエンチャンや Savannakhet、Pakse、Thakek および Luang Prabang における都市化や経済成長の進展は、農村から都市、高地から低地への人口移動を促す要因となっている。そうした国内人口移動は、北部および高地における貧困人口の減少とともに、出稼ぎによる送金により貧困者比率の低下に影響しているものと考えられる。



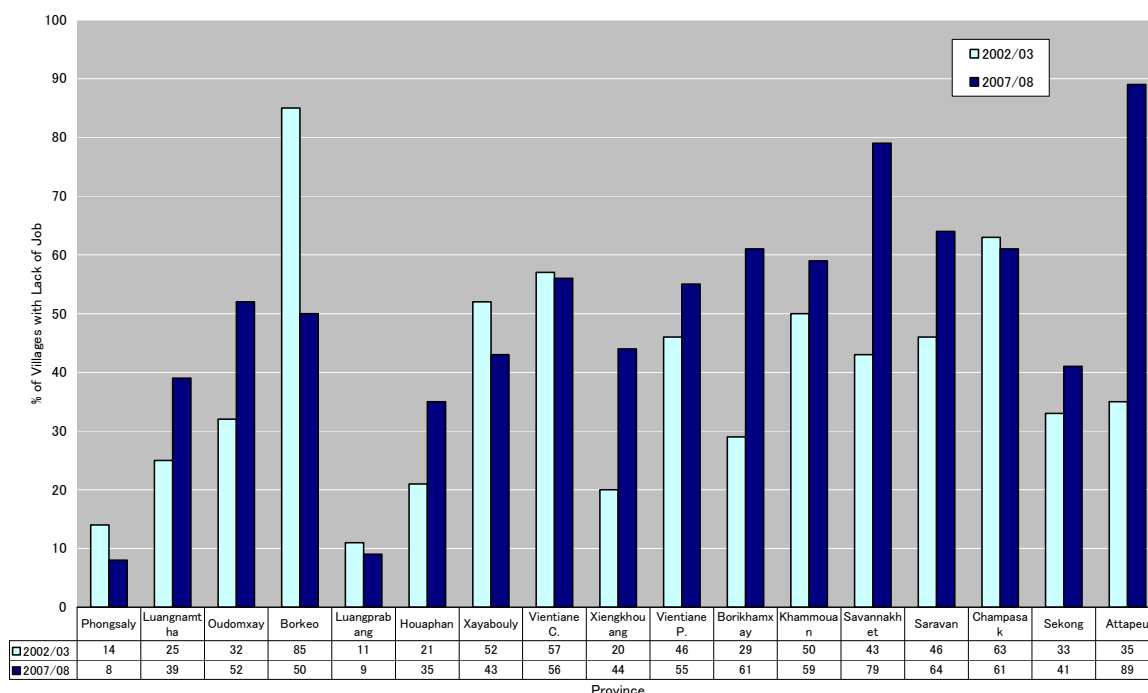
(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, “Socio-economic ATLAS of the Lao PDR”, p.43 and p.45

図 3-2 : 国内人口移動

図 3-3 : 国内人口移動 (郡レベル)

他方、低い就学率や民族の違いが、農村人口が国内移動を行う際の障害となっている。国内移動は高地から低地へ行われることが多く、移動することそのものの機会に限られる農村地域の貧困者は、貧困からの脱却の機会においても限られると考えられる。同時に、移動機会が異なることによって、農村人口間の不平等が増加する可能性もある。

図 3-4 は、県別の仕事がない村の割合を示したものである。仕事の無い村の割合の高さは、所得機会を求めて村人が移動する動機となっている。2002/03 年の時点で貧困者比率の高かった、中部の Savannakhet や、南部の Attapeu などの県では、仕事の無い村の割合が増加している。



(出所) Ministry of Planning, Department of Statistics, “The Household of Lao PDR”, LECS 3 (2002/03) and LECS 4 (2007/08)

図 3-4 : 仕事がない村の割合 (%) (2002/03～2007/08 年)

国内人口移動への圧力が高まっている一方で、ラオスの農村における道路インフラの未整備や交通手段の確保が難しい状況にあることが、農村人口の移動の制約となっている。例えば、郡中心部への平均距離が 10 キロ未満であるのは、北部 Phongsaly と中部の Khammuane のみである。北部では、ほとんどの県において、人口の多くが郡中心部まで徒歩で 20 キロメートル以上移動しなければならない状況にある。特に、Xaygnaboury では、主な交通手段が小型トラクターであるにもかかわらず、郡中心部までの平均距離がおよそ 50 キロとなっている。中部においては、郡中心部までバイクあるいは小型トラクターで、20～40 キロメートル移動しなければならない。南部においては、郡中心部までの移動距離は 10～30 キロメートルの範囲にあるが、主な移動手段は県ごとに相違が見られる。

表 3-2 : 道路へのアクセスと交通状況 (県別)

地域	郡中心部までの平均距離 (km)	車両通行可能な道路の利用状況*	主要な交通手段 (村の割合%)
<b>北部</b>			
Phongsaly	7.1	1	徒歩 (68)
Louang Namtha	15.6	3	徒歩 (68)
Oudomxay	22.2	2	徒歩 (80)
Bokeo	34.1	2	徒歩 (40)
Louang Prabang	31.1	3	徒歩 (32)
Houa Phanh	28.8	1	徒歩 (60)
Xaygnaboury	49.6	2	小型トラクター (52)
<b>中部</b>			
Xieng Khoang	29.2	3	徒歩(68)
Vientiane	20.6	3	バイク(50)
Borikhamxay	40.1	3	バイク(20)
Khammuane	5.0	2	自転車(24)
Savannakhet	32.2	2	小型トラック(42)
Xaysomboun	-	-	-
<b>南部</b>			
Saravanh	10.7	2	小型トラック(24)
Xékong	14.3	2	徒歩(46)
Champasak	31.4	1	バイク(36)
Attapeu	23.2	2	自転車 60)

(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.44, Table 4.

(注) \* 1=アクセスが低い (土の未舗装道路)、2=アクセスが中程度 (砂利/舗装道路と土の未舗装道路)、3=アクセスが良い (砂利および舗装道路)

### 3.1.3 資源

#### (1) 土地および河川

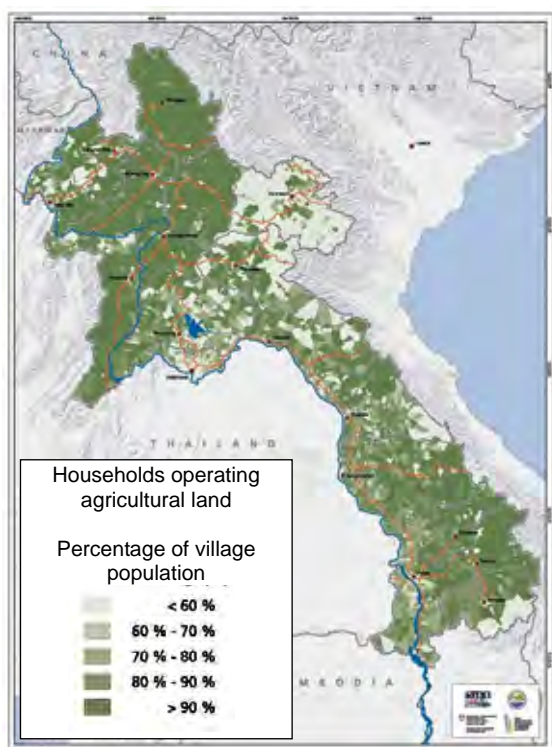
ラオスにおいては、伝統的に地形により、「低地洪水地域」、「丘陵地／高原」および「高地」の3つの地域に分かれている。低地は、食料生産や農業に適した比較的平坦な土地である。そのため、ラオスの農業生産が盛んに行われている地域が多い。丘陵地は、コメの生産には不向きであるが、コーヒーや果樹、畜産など、地域の人々の現金収入源となる、商品作物の栽培に適している。他方、ラオスの国土のほとんどを占める高地は、食料生産および農業が困難である。

土地の脆弱性もまた、農村における世帯の収入に密接に関わっている、農業の生産性に影響している。傾斜が16度以上の土地は、集約的で生産性の高い農業生産に適さない「脆弱な土地」とみなされる。「脆弱な土地」の分布は県ごとに異なっている。北部の Huaphanh、Luang Prabang、Phongsaly、Luang Namtha、Oudomxay および Xiengkhuang は、「脆弱な土地」が75～85%を占めているが、Champasak および Savannakhet は、14～15%と最も少ない割合である。「脆弱な土地」で占められている県では、農業生産が困難であり、貧困や不十分な食料保障の原因となっている。

また、河川も特筆すべき地理的な特徴をラオスにもたらしている。ラオスの国土の 87%は、28 の支流をもつ、メコン流域内にある。メコン流域を除いては、北部地域に年間を通じて水流がある、ベトナムに抜ける 4 つの河川がある。こうした豊富な水流は、より生産性の高い農業に必要な灌漑を行うための資源となりうるが、コメの生産に関しては、灌漑面積は、2008 年時点でも収穫面積全体の 15%に過ぎない<sup>21</sup>。ラオスにおいて、特に北部において、灌漑の整備が進んでいない要因としては、傾斜がきつく、脆弱な地形であることが挙げられる。

生産性の低い農業生産は、貧困の重要な要因である、食料保障と所得獲得機会を阻害する原因となっている。

2006 年に行われた参加型貧困アセスメント (PPA : Participatory Poverty Assessment) <sup>22</sup>によれば、2000 年の PPA と同様、農村人口の主な貧困の原因として、耕作地へのアクセスの制約を上げている。例えば、PPA の対象となった 65 の Mon-Khmer の村落のうち、十分なコメあるいは主食を得るのに最低限の面積である、1 ヘクタール以上の耕作を行っているのは、19 村落に過ぎなかった。



(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, “Socio-economic ATLAS of the Lao PDR”, p.109 and p.111

図 3-5 : 農業を行っている世帯の分布

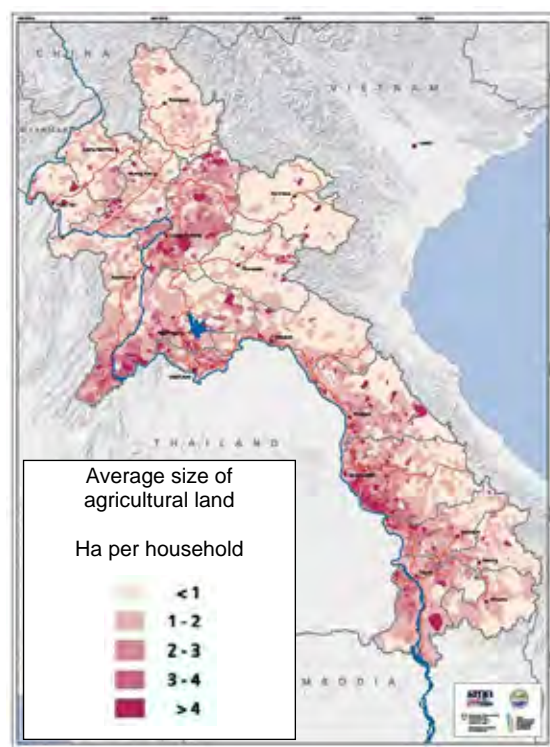


図 3-6 : 世帯当たりの農業地の平均面積

<sup>21</sup> 収穫面積は619,950ヘクタールで、灌漑面積は 94,072ヘクタールである。(Department of Statistics, Ministry of Planning and Investment, “Statistical Yearbook 2008”, (2009), p.40-41)

<sup>22</sup> PPA は、アジア開発銀行 (ADB : Asian Development Bank) の技術協力によって実施され、貧困状況のより良い理解のために、定性的な貧困分析を行うものである。

## (2) 森林

国土のほとんどが森林に覆われていることも、ラオスの地理的特徴の一つである。森林面積は、北部で 25%、南部では 70%に達している県もある。

同国では、貧困層は日々の糧を得るため、環境、特に生物多様性のある農業資源に過度に依存していることから、貧困は環境と結びついているといえる。森林は、貧困層に木材以外の食料などの産物や、家、燃料、そして収入源を与えているのである。

北部では、恒常的かつ安定的に農業を行うことのできる平坦な土地の欠如が、伝統的な移動式の焼畑農業の継続の要因となっている。中部および南部においては、伝統的な農法に依存している収量の低い農業のため、低地の農民による森林伐採の圧力が増加している。食料保障や所得創出のための自然資源への多大な依存は、急速な環境悪化を引き起こしている。

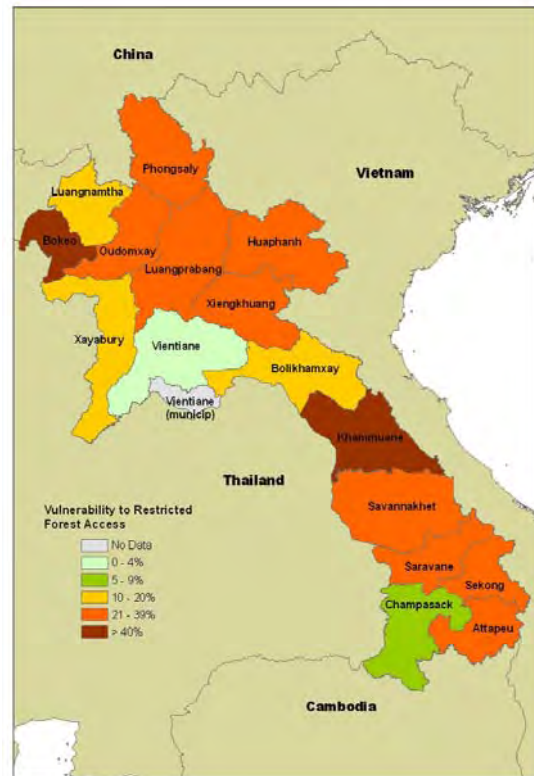
農業面での生物多様性の喪失といった環境悪化は、食料生産や食料の確保に影響を及ぼすだけでなく、人々の生計を脅かしている。

CFSVA によれば、継続的に起っている森林

資源の減少により悪影響を受けている世帯は、野生の野菜類、果物、魚類、その他水生生物や野生動物の肉といった食料へのアクセスが減少しているものと見られている。全体としては、漁業、狩猟および採集活動の生産性が低下した場合、およそ 15.7 万世帯、あるいは、農村人口の 24%が、食料保障が不足した状態に追い込まれるものと推定されている。

北部の Bokeo および中部の Khammuane の 2つの県では、森林へのアクセスが制限されることから、食料保障の観点から、より高いリスクにさらされている。また、北部および南部の他の県においても、21~30%が、食料保障が確保されない脆弱な状態に置かれている。

耕作地の拡大のための森林開発への高まる圧力を緩和するために、ラオス政府は焼畑農業を抑制する政策を実施してきている。また、国家生物多様性保全地域（NBCA：National Biodiversity Conservation Areas）の設置により、自然資源の利用管理の改善を図っている。



(出所) World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.122, Map 4

図 3-7：森林へのアクセスを制限されている世帯の脆弱性  
(恒常的に食料保障が確保されない世帯を除く)



### 3.1.4 民族

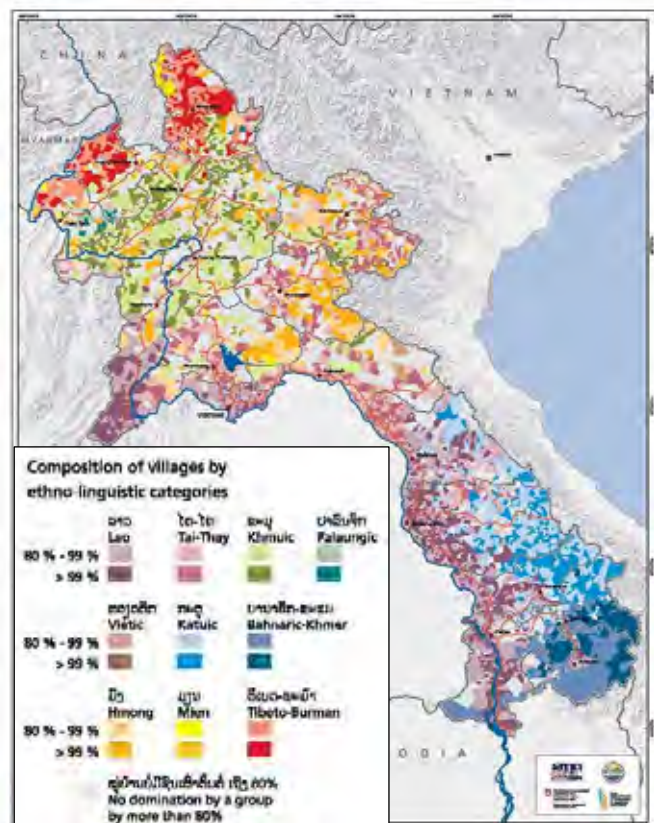
ラオスにおいては、それぞれの民族の、居住地域や生計を含む、伝統や文化が、貧困の決定要因となる経済活動や社会サービスへのアクセスに影響を及ぼしている。2005 年国勢調査によれば、全村落の 43% が単一の民族・語族のみの居住であり、45% がある民族・語族が多数を占めている村落となっている。他方、2 つ以上の民族・語族が混合している村は、12% にとどまっている。そのため、ラオスの人々の生活水準に影響を及ぼしている要因として、民族ごとの特性を分析することは重要である。

ラオスにおいては、主要な 4 つの民族・語族の下に、公式に認識されている 49 の民族グループおよびおよそ 160 に上るサブグループが存在している。2005 年国勢調査によれば、公式に認識されている民族グループのほかに、全人口の 0.2% がその他の少数民族として分類される。

Lao-Tai は、ラオスの最大民族を構成している。2005 年国勢調査では、人口の 66% が Lao-Tai グループに属する。かれらは、市場や経済的活動へのアクセスの良い、タイ国境沿いのメコン回廊の地域や、北部低地に居住している。農村に居住している Lao-Tai グループは、定置農業に従事しており、都市部においてはフォーマルあるいはインフォーマルな経済活動に従事している。他の民族グループに比して、所得獲得機会や社会サービスへのアクセスが多く、貧困者比率は他の民族グループに比して低い。

Mon-Khmer は、全人口の 24% を占める。彼らは、北部から南部の高地に広く分布している。Mon-Khmer のほとんどが、焼畑農業を行い、数百年の交流を経て、Lao-Tai への同化がかなり進んでいる。他方、民族が混合している村の多くは、Lao-Tai と Mon-Khmer で構成されている。他方、それ以外の Mon-Khmer のコミュニティは、孤立した場所に居住し、森での狩りや採集活動を行っている。市場、基礎インフラ、社会サービスへのアクセスが制限されている高地での厳しい生活条件のため、Mon-Khmer の半数以上が貧困に苦しんでいる。

Akha、Lahu および Sila を含む、Tibeto-Burman (Sino-Tibet) は、ラオスの人口の 3% を占め



(出所) Swiss National Center of Competence in Research North-South and International Food Policy Research Institute, “Socio-economic ATLAS of the Lao PDR”, p.89

図 3-8 : 村落における民族・語族構成

る少数民族である。Tibeto-Burman は、他地域との接続があまりない地域に住んでおり、焼畑農業に従事している。市場や公共サービスへの接続が限定的で生活条件が厳しく、貧困者比率が高くなっている。

Hmong-Mien は、全人口の 8% を占める。Hmong-Mien は北部の丘陵地あるいは高地に居住し、焼畑農業に依存している。生活条件もまた、貧困ラインの生活水準を満たすには困難な状況にある。

## 3.2 地政学的要因

### 3.2.1 国境と雇用機会

#### (1) 出稼ぎ労働

タイ国境地域では、他の国境地域や国境を接しない「内地」に比して、貧困者比率が低い。これは、ラオス国内における雇用や現金収入の機会が限定的であるにもかかわらず、タイ国境地域の世帯は、出稼ぎ労働による送金の機会が多いことによる。WB の貧困アセスメントによれば、旱魃のリスクが高く、貧困者比率も高い地域よりも、比較的豊かな洪水地域からの国外への人口移動のほうが多い。メコン流域の地域は、国境経済、特に、近隣国より経済的に発展しているタイ経済へのアクセスがよいため、タイ国境地域の郡の世帯は、それ以外の地域の世帯の 3 倍の出稼ぎ労働者による送金を受け取っている。地理的な近接性だけでなく、言語や習慣の類似性も、ラオスからタイへの出稼ぎを促進する要因となっている。

また、「中国・ミャンマー国境」地域における貧困削減が進展していることが特筆される。これは、中国南部における活発な経済成長と農産品需要の増加、観光の伸びによるものである<sup>23</sup>。ラオスの閉鎖的であった農村経済は開放されつつあり、外国および国内の農業ビジネス資本による契約農業や商業プランテーションを含む、国境市場における貿易の恩恵を受けつつある。しかしながら、そうした経済活動にはしばしば、統計上に表れないインフォーマル貿易が含まれている。

「ベトナム国境地域」においては、農村の貧困層が拡大しており、貧困削減において最も厳しい状況が続いている。同地域の貧困の要因としては、ラオス側およびベトナム側の双方が孤立し、アクセスが制限された地域であるため、「中国・ミャンマー国境地域」のような経済活動の活発化を阻害していることが挙げられる。

#### (2) 人身売買

ラオスにおいては、改善された交通、焼畑農業の縮小、土地の再配分およびケシ栽培の撲滅、といった要因が、出稼ぎを促進させる要因となっているが、同時にラオスからの人身

---

<sup>23</sup> The Government of Lao PDR, “Millennium Development Goals Progress Report Lao PDR 2008”, (2009), p.24

売買<sup>24</sup>を増加させる要因ともなっている。

人身売買は、ラオスから国外への不法労働者も含む出稼ぎ労働と密接に関連している。

タイは、ラオスから近く、また、文化的小および言語的に類似性があり、かつ、経済的により良い状況にある。ラオスからのタイへの出稼ぎ労働はすでに長期間にわたって行われてきており、タイはまた、ラオスからの主な人身売買先となっている。2004年時点において、タイで公式に登録されている出稼ぎ労働者 181,614 人の他に、8 万人の不法労働者がいるものと推定されている。

また、ラオスからミャンマーおよび中国への人身売買が行われており、その目的は花嫁の売買であるとの報告がある。



(出所) United Nations Inter-Agency Projects on Human Trafficking (UNIAP), “Human Trafficking Data Sheet” (2008)

図 3-9：ラオスの人身売買ルート

タイ国境地域の県において、出稼ぎ労働の比率が高く、公式に報告されている人身売買の件数も多い。しかしながら、出稼ぎ労働は親戚や知人のつてで行われることが多く、出稼ぎ労働が多い地域の中には、出稼ぎ労働を斡旋するためのインフォーマルなネットワークが存在している。こうしたネットワークが、人身売買の情報をキャッチし、人身売買の被害者を連れ戻すなどのセーフティネットとして機能している場合も見られる。過去 10 年間のラオスの農村からタイへの人身売買は、2 万件に上ると推定される。

人身売買を誘発する脆弱性の要因は、貧困や、教育、認識および雇用の欠如が挙げられ、また、家族の結束が弱い家庭で、子どもや女性が売買されやすい状況があると指摘されている。タイへの出稼ぎ労働者のうち、1.4%が人身売買の対象となる可能性が高いと推定されている。

### 3.2.2 ケシ栽培

ラオスにおける大麻ケシ栽培農家は、民族的には多様であり、孤立した山岳地域に居住している。高地においては、農業を行うことが困難であり、地理的な条件により貧困者比率が高い。加えて、大麻中毒が、中毒者を抱える世帯の脆弱性や貧困のリスクを高めている。

<sup>24</sup> 人身売買は、女性、子ども、男性を性的および労働搾取の目的で違法に取引する、人権の深刻な侵害である。(UN Protocol to Prevent, Suppress and Punish Trafficking in Persons, Especially Woman and Children, UN 2000)

2008 年の大麻中毒者数は 12,680 人と推定される。これは、北部地域の人口のおよそ 1%に当たる。中毒患者は北部県に集中しており、中毒患者の 40%が Houaphanh および Phongsaly に居住している。なお、大麻ケシ栽培のほとんどが、これら 2 県で確認されている。

現在、ケシ栽培が行われているのは北部の 5 県 (Phongsaly, Louang Namtha, Oudomxay, Bokeo および Houa Phanh) である。ラオス政府は、2006 年までにこれらの地域におけるケシ栽培を撲滅することに取組み、その結果、ラオスにおけるケシ栽培面積の 36% に当たる 575 ヘクタールでケシ栽培が停止された。

「ラオス大麻ケシ調査 2009 年」<sup>25</sup>によれば、最も脆弱な元のケシ栽培コミュニティは、「代替開発基金 (Alternative Development Fund) による資金支援を受け、ゴムなど換金作物によるプランテーションなど集約的な農業生産を行う体制が導入された。その結果、そうしたコミュニティの世帯の生活水準は改善している」<sup>26</sup>。

しかしながら、改善しているとはいっても、こうしたコミュニティは、非ケシ栽培コミュニティよりも厳しい状況にある。最も脆弱な元ケシ栽培コミュニティでは、ケシ栽培農家の 59%が、最低限の生活水準を維持するために必要な生計手段は確保できても、ケシ栽培の停止の影響に対応し、新たな代替手段に投資することが困難であると見られている。言い換えれば、こうした世帯は、代替手段を得るための支援が必要としている。さらに、こうした世帯の

表 3-3：県別ケシ栽培撲滅状況

(ha)

県	撲滅面積
<b>北部合計</b>	<b>530.764</b>
Phongsaly	310.42
Louang Namtha	36.19
Oudomxay	46.57
Bokeo	36.075
Louang Prabang	47.3
Houa Phanh	52.71
Xaygnaboury	1.499
<b>中部全体</b>	<b>44.63</b>
Xieng Khoang	19.27
Vientiane	6.27
Borikhamxay	19.09

(出所) United Nations Office on Drugs and Crime, “Opium Poppy Cultivation in South East Asia: Lao PDR, Myanmar, Thailand” (2008), p.26, Table 4.



(出所) United Nations Office on Drugs and Crime, “Opium Poppy Cultivation in South East Asia: Lao PDR, Myanmar, Thailand”, p.29, Map 3

図 3-10：ラオス北部における大麻中毒の分布 (2008 年)

<sup>25</sup> 国連麻薬犯罪事務所による合同調査が実施された。

<sup>26</sup> 「ラオスケシ調査 2009 年」では、Phongsaly Alternative Development Fund の支援による、Phongsaly 県の旧ケシ栽培村における代替的な所得獲得活動に関するケーススタディを紹介している。

うち 15%は非常に困窮しており、こうした世帯は生存するための代替手段へのアクセスが制限され、日々の生活を送ることで精一杯であることから、急激なケシ栽培からの転換のリスクがあると見られている。現状では、支援を必要としている村落は、最大 1,400 カ村と推定されている。

こうした状況に対応して、ラオス政府は、国連麻薬犯罪事務所 (UNODC: United Nations Office on Drugs and Crime) の支援を受け、包括的国家麻薬取締マスタープラン (2009-2013) を策定した。同計画では、ケシ栽培撲滅を継続するために、ケシ栽培の停止後の 3~5 年の重要な期間、十分な支援を行うこととしている。

### 3.3 グローバル化における要因

#### 3.3.1 海外送金

CFSVA によれば、調査対象のうち、8%の世帯が、調査時点からの過去 1 年間で友人・知人や同居していない親類から、現金あるいは現物での支援を受けていた。しかし、ほとんどの世帯は不定期に支援を受けており、定期的に支援を受けている世帯はごくわずかであると報告されている。

県別に見ると、Saravane、Vientiane、Champasak および Savannakhet で、送金を受けている世帯の割合が 15%以上と比較的高く、Phongsaly、Oudomxay、Khammuane、Xekong および Attapeu では 5%未満と送金を受けている世帯の割合は低い。

表 3-4: 海外送金を受けている世帯の割合

送金を受けている世帯の割合 (%)	県
15%以上	Saravane (20%) Vientiane (18%) Champasak (17%) Savannakhet (15%)
5%未満	Phongsaly Oudomxay Khammuane Xekong Attapeu

(出所) United Nations World Food Programme, “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis” (2006), p.59

民族別では、Hmong-Mien および Lao-Tai は、国外への移住者や出稼ぎ労働者とのつながりが強く、送金を受けている割合も、それぞれ 15%、14%と高い。他方、Mong-Khmer では 3%、Tibeto-Burman では 6%と、海外送金を受けている世帯の割合は限定的である。

WB の貧困アセスメントは、海外からの送金を受けている世帯の割合は全体では 3%程度に過ぎないものの、貧困を緩和する現金収入源として重要であると指摘している。また、民族により海外送金を受けている世帯の割合に差があることも示されている。上記のように、Mon-Khmer および Tibeto-Burman はほとんど海外送金を受けていないが、Hmong-Mien はベトナム戦争の影響による国外への移住者が多く<sup>27</sup>、そのため、9%が海外送金の恩恵を受けている。Hmong-Mien の海外送金を受けている世帯では、貧困者比率がおおよそ 80%低下した。

<sup>27</sup> 海外に移住した Hmong-Mien はオーストラリア、ニュージーランド、カナダ、米国に多く居住しており、特に、米国には 18 万人以上の Hmong-Mien が移住している。

また、Lao-Tai も全体で 3.3%が海外送金を受けており、その多くはタイへの出稼ぎ労働者によるものである。

なお、海外送金の受取状況については、銀行送金等のフォーマルな手段以外での送金もあり、必ずしも正確に報告されないことから、受取世帯およびその金額の実態の把握は困難であり、調査結果によってばらつきが見られる。

### 3.3.2 大メコン圏における地域経済の成長

国家開発において内陸国であるという制約があるものの、ラオスは大メコン圏（GMS：Greater Mekong Sub-Region）内の近隣諸国の経済成長の恩恵も受けている。大メコン圏地域は、過去 20 年間に急速な経済成長を遂げており、以前の貧困で、孤立化していた地域は、地域の拡大、統合、経済の多様化および集中により、大きく変化している。大メコン圏においては歴史的に先進国であった、タイの経済成長と拡大は、ゆっくりとではあるが、ラオスの経済改革と自由化を後押しした。また、ベトナムや中国雲南省の急速な経済成長も、ラオス側の国境地域における地域経済を活性化した。こうした経済成長が、ラオスの貧困削減に貢献する一方、こうした経済成長へのアクセスの有無による格差も引き起こしている。

なお、中国を初めとする GMS 諸国や海外からの、水力発電開発や鉱業セクターへの投資は、さらにラオス経済の成長に貢献することが期待される。こうしたマクロ経済成長が、国内への再投資・再配分を通じて、さらなる貧困削減につながるものと見られる。



## 第4章 社会保障メカニズム

### 4.1 公的保障

ラオスにおいて、公的社会保障制度に加入しているのは2009年8月時点でおよそ46.5万人<sup>28</sup>であり、これはラオスの人口の約7.82%にあたる。

#### 4.1.1 社会保障制度

ラオスでは、労働社会福祉省（Ministry of Labor and Social Welfare）と保健省（Ministry of Health）が、公務員、民間被雇用者、農民を含む自営業者といった特定の対象者ごとに異なる制度を設け、社会保障を行っている。

##### (1) 公務員社会保障

公務員向けの年金と社会保障基金は、首相令第178号および労働社会福祉省省令2282号（実施ガイドライン）により1993年に設立された。同基金は労働社会福祉省社会保障局（Department of Social Security）が所管している。

対象は、党・政府・大衆組織・軍・警察に勤務する公務員とその配偶者・18歳未満の扶養家族であり、イ)健康保険、ロ)労働災害補償、ハ)妊娠手当、二)障害年金、ホ)老齢年金、へ)弔事見舞金、ト)遺族手当、チ)加入者孤児手当、が支給される。政府は社会保障基金を確保するために補助金を交付し、また、加入者は月額基本給の6%を天引きされている。

2006年に首相令第70号が公布され、さらに公務員向け社会保障制度を発展させるための改革が行われている。2008年以降は、労働社会福祉省の指導の下で国家社会保障庁（SASS : State Authority of Social Security）が公務員社会保障制度を所管しており、支給対象は、イ)健康保険、ロ)出産手当・出産祝金、ハ)労働災害（勤務中の怪我・疾病）、二)障害手当、ホ)疾病手当、へ)老齢年金、ト)遺族年金、チ)弔事見舞金、に変更された。また、公務員の月額給与からの天引きが8%に上げられるとともに、雇用者も8.5%を負担することとなった。同基金による健康保険制度によって現在30万人以上が保険対象となっている<sup>29</sup>。

##### (2) 民間被雇用者社会保障制度

労働社会福祉省の社会保障庁（Social Security Agency）の監督下で社会保障機構（SSO : Social Security Organization）が2000年に設立され、翌2001年6月から民間被雇用者向け社会保障制度の運営が開始された。1999年12月23日付けで公布された首相令第207号によって、

---

<sup>28</sup> 国際社会保障協会（International Social Security Association）によると、4つの制度への加入者は、公務員社会保障：30万人、民間被雇用者向け社会保障：8.5万人、地域医療保障：6.5万人、医療公正基金：1.5万人である（2009年8月現在）。低いコンプライアンスや組織体制の改善を図ることを目的として「社会保障及び社会健康保護法」の施行が検討されており、これにより、ラオス国家社会保障制度（Lao National Social Security System）および国家社会健康保護基金（Lao National Social Security System）を2015年から2020年にかけて段階的に全国的に導入する予定となっている。

（国際社会保障協会ウェブサイト <http://www.issa.int/aiss/> 2010年6月現在）

<sup>29</sup> 2005年に実施された国勢調査によると、政府被雇用者は約138,000人である。



国有企業（SOE：state owned enterprises）および10人以上の従業員を有する合弁あるいは民間企業の強制加入が原則とされ、従業員およびその配偶者、18歳未満の子どもが保険対象となった<sup>30</sup>。同制度では、(イ) 弔事見舞金、(ロ) 医療手当、(ハ) 病氣見舞金、(ニ) 妊娠手当、(ホ) 労働災害手当（怪我・疾病）、(ヘ) 障害手当、(ト) 退職年金、(チ) 遺族手当、(リ) 子ども手当、(ヌ) 失業手当、が支給される。保険料（もしくは掛金）は従業員の給与または賃金に応じて決定される。社会保障料は、給与の9.5%であり、そのうち5%を雇用者が負担し、4.5%を従業員が負担する。

2008年12月末現在、493組織43,058人が社会保障基金に加入して保険料を支払っており<sup>31</sup>、同制度の保障の対象となっているのは、扶養家族も含めて85,854人である<sup>32</sup>。

#### 4.1.2 自営業者およびインフォーマルセクター向け医療保険制度

一般に、ラオスにおいて医療保険は誰もが当たり前に参加するものではない。前述の国家社会保障庁による公務員社会保障制度や社会保障機構による民間被雇用者向け社会保障制度など強制加入を前提とする保険事業とは対照的に、農民を含む自営業者、その配偶者・家族、また、その他インフォーマルセクター従事者などラオス国民の大多数はかかる恩恵を被っていないのが現状である。2005年に実施された国勢調査によると、職業別では経営者が約7千人余、自営業者が約115万人、家庭内労働者が約126万人に上るが、これらの労働者とその配偶者および扶養家族が前述の社会保障制度から零れ落ちており、抜本的な対策が希求視されている。

なお、現在これらの国民が任意で加入・利用できるものとして、民間保険会社による医療保険や、地域医療保険事業がある。民間保険会社による医療保険はフランス資本のAGFの子会社<sup>33</sup>などがある。

##### (1) 地域医療保険制度

地域医療保険（CBHI：Community Based Health Insurance）は、保健省計画財務局（Department of Planning and Finance, Ministry of Health）が監督する地域医療保険課（Community-Based Health Insurance Division）により、パイロット事業として開始されたのが発端となっている<sup>34</sup>。同制度は2005年4月13日付の保健省令第723号の公布をきっかけにしてラオス全体に拡大しつつある。2009年8月現在で6.5万人が地域医療保障に加入している。

##### (2) 貧困層向け基金

医療保険の普及率が低く、医療保険によって医療費を補うことが期待できないことから、医療ケアサービスへのアクセスと支払い能力を向上させることを目的とする貧困層支援パ

<sup>30</sup> 10人未満の従業員を有する合弁あるいは民間企業も任意に加入が許可されている。

<sup>31</sup> 2005年現在の民間企業被雇用者および国有企業被雇用者はそれぞれ約12万人、2万人である（国勢調査）。

<sup>32</sup> <http://www.asean-ssa.org/>（2010年6月現在）

<sup>33</sup> 1990年に営業を認可された。

<sup>34</sup> Sethathirath, Luangphabang および Champasack 郡においてパイロット事業が行われた。

イロット事業として「公正な健康基金」(HEF: Helath Equity Fund)が実施されている。同事業は、二国間ドナーと銀行の資金提供を受け、国外パートナーとNGOによって運営されている。「公正な健康基金」は最貧層を対象としており、保健省は、同事業を活用して低所得者世帯が医療機関での無料で受診するための地域医療保険加入権の購入を奨励している。医療サービス、医薬品、検査、交通費、食費および石鹸が手当ての対象とされる。2009年8月現在で1.5万人が「公正な健康基金」に加入している。

### (3) 社会的弱者に対するその他福祉政策

上記各種保険・基金に加え、特定の社会的弱者を対象とする福祉策が政府によって施されている。主なものを以下の表に示す。

表 4-1：社会的弱者に対する主な福祉策

対象者	内容
戦争被害者	戦争被害者は国有住宅や居住地の所有権を与えられる。また、政府は、まだ住宅を所有していない人向けに、住宅も含めて新たな村落を建設しており、全国各地に障害者向けセンターも設立している。
高齢者や障害者	1995年6月に公布された首相令第18号により、国家障害者委員会が設立され、これに基づき支援が行われている。
食料難の遠隔地居住貧困層	食料支援等
自然災害被災者	食料支援等

(出所) 労働・社会福祉省資料他。

## 4.2 準公的保障

ラオスにおけるマイクロファイナンスに対する需要は大きな高まりを見せている。これは、ラオスにおいては、金融制度構築がいまだ初期段階にあり、資本化が不十分なうえ、専門知識や商品の多様性に欠けるため、同国の金融セクターが脆弱であることに一部起因している。低所得者層は、投資や緊急時に必要な資金など、必要な時に必要なだけの金額を得るために利用できる金融サービスへのアクセスが著しく限定されている。国の80%を占め、また、貧困層の90%を占める農村世帯は、特に金融サービスへのアクセスが困難であり、5億ドルに上ると見られる貸付需要は満たされていない。

### 4.2.1 公的セクターおよび銀行セクターによるマイクロファイナンス事業

ラオスにおけるマイクロファイナンス事業は、主に政府プロジェクトや大衆組織によって担われている。マイクロファイナンスの貸付総額の80%は公的機関によるものであり、15%が商業銀行によるものである。大衆組織の中では、ラオス女性同盟(LWU: Lao Women's Union)がNGOや政府および外国ドナーから最も多くの資金を受けており、LWU構成員のうち20万人以上がマイクロファイナンスの受益者となっている。

他方、政府は、国有銀行である農業振興銀行(APB: Agriculture Promotion Bank)をその担い手として、対象を絞った補助金による貸付や、グループ保障による貸付の仕組みを活用して農村の経済開発支援を行っている。近年に至るまで、APBはラオス唯一のマイクロフ

ファイナンスを行う銀行であった。APB は 17 県各県に支店および 46 のサービスユニットを持ち、ラオス最大のネットワークを有している。2004 年末時点で、APB にアクセスすることができる 12 万世帯（ラオス人口の 15%）のうち、4 万世帯（ラオス人口の 5%）が APB のマイクロファイナンスを活用した<sup>35</sup>。

外国投資振興法（2005 年）の公布や商業銀行法（2007 年）の改正により、商業銀行免許の新規発行が行われるようになり、ACLEDA Bank Lao Ltd<sup>36</sup>や Phongsavanh Bank および Indochina Bank などが新たに設立された。これらの新銀行は低所得者層向けの金融サービス提供の経験と専門性を活かし、業務展開を拡大している。

貧困削減戦略の一部として、第 2 章で示したとおり、ラオス政府は 47 郡を支援が必要な優先貧困郡として指定している。これら優先郡においてマイクロファイナンスの貸付が貧困削減策の一つとして行われており、こうした貸付は国家予算を原資としている。村落回転基金（VRFs：village revolving funds）はこの一例であり、首相府の委員会である「村落開発および貧困削減委員会（NLC-RDPR：National Leading Committee for Rural Development and Poverty Reduction）」により創設された。

政府は、また、農村マイクロファイナンス産業の審査、政策策定<sup>37</sup>、および改革プログラム<sup>38</sup>の実施のためのアクションプランの策定を目的として、中央銀行であるラオス銀行（BOL：Bank of the Lao PDR）の下に「農村およびマイクロファイナンス委員会（RMFC：Rural and Micro Finance Committee）」を設置し、同事業の推進を行っている。

#### 4.2.2 非銀行セクターによるマイクロファイナンス事業

##### (1) マイクロファイナンス機関の登録・認可

マイクロファイナンス活動を行う機関をマイクロファイナンス機関（MFIs：Microfinance Institutions）として統制し、認可を付与する動きは世界的に広がっており、ラオスも例外ではない。2008 年現在、マイクロファイナンスに関する規則<sup>39</sup>によって、イ）預金受入 MFI（5 行）、ロ）貯蓄信用組合（SCU：Saving and Credit Union）（11 組織）、ハ）非預金受入 MFI（8 行）、が規定されている。預金受入 MFI と SCU を合わせて、2008 年末現在、およそその預金口座 13,000 件、200 万ドルの預金残高を有し、貸付件数 7,000 件、貸付残高およそ

<sup>35</sup> [http://www.bwtp.org/arcm/laos/II\\_Organisations/Supporting\\_Organisations/APB\\_laos.htm](http://www.bwtp.org/arcm/laos/II_Organisations/Supporting_Organisations/APB_laos.htm)（2010 年 6 月現在）

<sup>36</sup> ACLEDA Bank は、1993 年 1 月に零細・小企業育成および融資を目的とする国内 NGO としてカンボジアで設立された。その後 2003 年に商業銀行に転換し、マイクロファイナンス事業の拡大を支える資金調達の実績が拡大した。2008 年末時点で、融資はカンボジア国内で 590 百万ドルにのぼり、融資利用者は 253,186 人である。2008 年 7 月に、ACLEDA Bank はラオスのビエンチャンに最初の海外子会社（商業銀行）を設立し、Savannakhet および Champasak に支店が開設されている。

<sup>37</sup> “Policy Statement for the Development Of Sustainable Rural and Micro Finance Sector” by Rural and Micro Finance Committee (RMFC), Bank of the Lao PDR (Notice No. 1760/PMO Dec. 17, 2003). [http://www.bol.gov.la/english/mf\\_policystatementEng.pdf](http://www.bol.gov.la/english/mf_policystatementEng.pdf) (accessed June 2010)

<sup>38</sup> “Action Plan of Rural Finance Sector Development Program” (March 2007). [http://www.bol.gov.la/english/mf\\_actionplaneng.pdf](http://www.bol.gov.la/english/mf_actionplaneng.pdf) (accessed June 2010)

<sup>39</sup> Regulation For Non-Deposit Taking Microfinance Institutions No. 02/BOL (20 Jun 2008), Regulation For Savings and Credit Unions No. 03/BOL (03 Jun 2008), Regulation For Deposit-Taking MFIs, No. 04/BOL (20 Jun 2008)

200 万ドルの市場規模となっている。

ラオス銀行令第 02 号 (2008 年 6 月付け) の非預金受入 MFI に関する規則の公布によって、単独あるいは活動 (村落銀行、貯蓄グループ、村落基金、開発基金その他) の一部としてマイクロファイナンス活動を行っている既存あるいは新規の国際機関・グループ・企業は、登録が義務付けられることになった。これにより、およそ 1,000 に上る村落貯蓄貸付グループ (VSCG : village savings and credit groups) や 4,000 の村落回転基金 (VRF : village revolving funds)、その他マイクロファイナンス活動は、非預金受入 MFI として登録が必要となったが、今現在その多くが未登録のままとなっている。

VSCG および VRF は、既存のマイクロファイナンス利用者 20.6 万人のうち 85% にローンを供与しており、これは農村マイクロファイナンス貸付実行額の 72% を占めている。貸付残高は 2 千万ドルにのぼり、2006 年時点の借入者数は 10 万人である。なお同規則では、10 億キップ以上の年間収入がある非預金受入 MFI は、認可を申請して預金受入 MFI あるいは SCU に転換することとしている。

表 4-2 : MFI 認可に関する法令

認可	預金も受ける MFI	貯蓄信用組合	預金は受けない MFI
預金	一般からの預金可能	会員からのみ預金可能	2 億キップ未満の任意預金可能
貸付限度額	1 件当たり 1 千万キップ (1,150 ドル)	-	1 件当たり 1 千万キップ (1,150 ドル)
	MFI が借入を行う場合、資本金の 30% とする。	貸付は会員のみ	-
当初規模・預金	-	最低会員数 250 人および任意預金額 3 億キップ	-
最低資本金	10 億キップ (115,000 ドル)	1 億キップ	-
報告・検査	ラオス銀行の MF 課への月報の提出と半期ごとの店舗検査により、厳格に管理、監督を受ける。	ラオス銀行の MF 課への月報の提出と半期ごとの店舗検査により、厳格に管理、監督を受ける。	会計様式 (COA : Chart of Accounts) に従い、損益計算書および貸借対照表を作成し、提出。

(出所) ラオス銀行ウェブサイト (<http://www.bol.gov.la/english/microfinanceeng.html>) 2010 年 6 月現在のデータより作成

認可を受けた MFI は、比較的市場へのアクセスが容易でインフラ整備が進み、現金収入が高く人口が集中している都市部あるいは都市周辺部で業務を展開しており、遠隔地域の貧困者のニーズに応えきれていない。これに対し、ラオス郵便サービス貯蓄機構 (Savings Institute of the Lao Postal Service) は 120 の郵便局を通じて全国に展開しており、送金手数料が安いなどの理由から国内で最も利用されている。同貯蓄機構の貯蓄総額 280 万ドル、貸付件数 3,850 件、貸付残高 240 万ドルに上る (2007 年末時点) <sup>40</sup>。

<sup>40</sup> ラオス郵便サービス貯蓄機構はマイクロファイナンス関連法令が施行される以前に、設立・認可された預金受入 MFI であり、貸付限度額は 2 千万キップ (2,300 ドル) である。貯蓄および貸付商品としては、公務員および政府職員を対象とし、給与を担保として、年収の一定割合の融資を供与している。

## (2) マイクロファイナンス活動の特徴

マイクロファイナンスの利用状況を地域ごとに具体的に見ると、中部地域、特に首都ビエンチャンにおける借入者数が、北部より若干多く、南部よりも大幅に多くなっている。これは、中部において市場への良好なアクセスが確保されること、また、マイクロファイナンスへのアクセスが良いことが背景にある。首都ビエンチャンや **Khammuane** などにおいては、貧困世帯数に比してサービス・プロバイダー件数・マイクロファイナンス対象者数ともに著しく多くなっているが、一方、北部の **Houa Phan** などでは、貧困世帯数に比してサービス・プロバイダー件数・マイクロファイナンス対象者数ともに少なく、ベトナム国境沿いの山岳地域における活動実施の困難さが顕著となっている（県別マイクロファイナンス利用状況については、別添 2 表参照）。

ラオスにおいて **MFI** が地方展開を積極的に行えない要因としては、人口密度の低さや展開に困難な地形（特に山岳地域）など、進出に当って支店を置くには採算性が非常に低く、組織としての財務健全性が確保できないことや、**MFI** 側の人材不足や研修機会不足に加え、優秀な人材が遠隔地域での常駐勤務を厭う姿勢などが挙げられる。

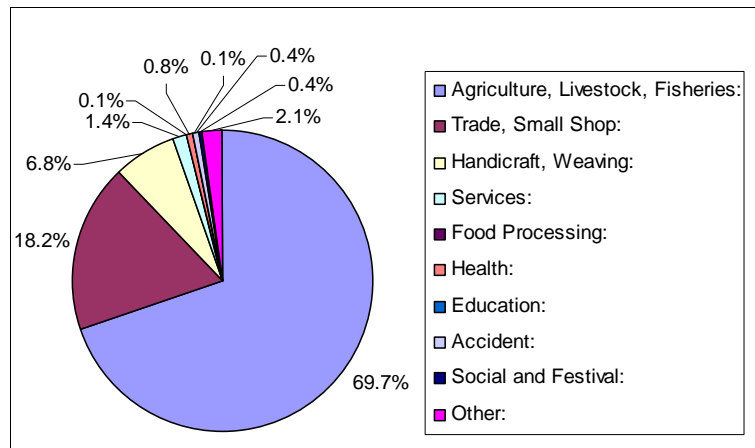
一件当たりの貸付金額を見ると、中部において最も高く、南部の 3 倍となっている。これは、中部地域では首都ビエンチャンを中心として経済活動が活発であり、生計向上や商業等により大口の資金を確保するためにマイクロファイナンスが多く用いられているためと考えられる。預金者数についても中部で多く、特に女性の預金者が多い。これは、**LWU** などの活動が同地域を中心に活発であること、また女性の組織化によって日々の生活における貸付ニーズが発見されやすくなることに拠るものと見られる<sup>41</sup>。

なお、全国に共通する実態として、預金額は貸付金額を大幅に下回っているものの、預金者数は借入者数を大きく上回っている。この背景として、非預金受入 **MFI** およびこれに準じる村落組織（**VSCG・VRF**）の合計が絶対的に多く、これらの組織においては預金が非常に積極的に集められておらず（もしくは最低限でよいとされ）、貸付ニーズを満たすことが優先されていることが挙げられる。また、グループ保証などの仕組みが利用される場合、グループで 1~2 人のみが貸付を受けるなど、資金回収を確実なものとするために、自ずと貸付対象者数が制限される場合が挙げられる。

## (3) マイクロファイナンスの用途

貸付用途については、借入者の 70% 近くが、農業や畜産および漁業に利用している。商業や小規模商店がこれに続き、およそ 20% となっている。首都ビエンチャンのような都市部を除いて、マイクロファイナンスは農業などの生産活動に利用されており、マイクロファイナンスが主要な所得の創出および生計維持といった基礎的ニーズを満たすために多く利用されていることが伺われる（セクター別マイクロファイナンス利用状況については、別添 3 表参照）。

<sup>41</sup> なお、一件当たりの預金額に男女格差はほぼ認められない。



(出所) Committee for Planning and Investment, National Economic Research Institute (2006). Rural & Microfinance Statistics in Lao PDR 2006.

図 4-1 : セクター別マイクロファイナンス

#### 4.2.3 マイクロ保険

ラオスにおいて保険商品は一般に普及していないが、葬儀費用などの保険が VSCG など 2 つの MFI で提供されている<sup>42</sup>。保険のニーズとしては医療・葬儀・結婚・住宅・教育など多岐にわたっている。

### 4.3 インフォーマルな保障

#### 4.3.1 インフォーマルな健康保険

保健省がパイロット事業として行っている地域医療保険事業の他に、家内事業の立ち上げや拡大のための小額貸付に利用される、相互基金が村で行われている。多くの村基金は保健医療費にも充当されているといわれており、大衆組織や村の行政機構を通じたインフォーマルな村ベースの医療保険が、医療保険が村人の深刻な疾病・疾患の治療を支援しているものと考えられるが<sup>43</sup>、情報がほとんど無いためその役割やどのような形で医療費に使用されているのかについては把握されていない。

#### 4.3.2 インフォーマル金融

インフォーマル金融は、銀行や公的・準公的マイクロファイナンス機関によるサービスが届かない地域において、貯蓄および貸付を提供している。およそ 33%の世帯が、友人や家

<sup>42</sup> The Foundation for Development Cooperation and The Banking With the Poor Network (2010). Microfinance Industry Report – Lao People’s Democratic Republic.

<sup>43</sup> Dr. Souraxay Phommala Nioph, MOH, Lao PDR, COUNTRY REPORT The 4th ASEAN & Japan high level officials meeting on Caring societies: Support to vulnerable people in welfare and medical services – Collaboration of social welfare and health services, and development of human resources 28-31 August 2006, Tokyo, Japan

族および100～200%の年利を課す高利貸し<sup>44</sup>から借入を行っている。インフォーマル金融はアクセスが容易であり、要求される担保も少なく、簡単な手続きだけで借り入れることが出来るため、結果的に取引費用が低い。VSCGは、こうした村レベルの金融活動から成立したものである。

インフォーマル金融が広がる背景には、公的な銀行システムへの人々の馴染みの無さに加え、文化的な要因といった非経済的コストがある。銀行だけでなくマイクロファイナンス機関に足を踏み入れることすら、依然として上層階級の行いとして見られているため、貧困層は利用できる状況にあったとしても、そうしたサービスの利用を躊躇する傾向にある。むしろ、断られた場合に「面子がつぶれる」ことになるため、融資が確実に受けられるということが非常に重要な問題となる。そのため、貧困世帯になればなるほど、借入は生産的な用途よりも、緊急時の利用に費やされることとなる。

---

<sup>44</sup> The Foundation for Development Cooperation and The Banking With the Poor Network (2010). Lao People's Democratic Republic Microfinance Industry Report

## 第5章 貧困削減のモニタリング

### 5.1 MDGsの達成状況

ラオスにおける直近のMDGの進捗に関する報告は、「ミレニアム開発目標進捗報告書：ラオス（2008年）」（“the Millennium Development Goals Progress Report: The Lao PDR (2008)”）、以下、「MDG進捗報告書」とする。）である。同報告書は、ラオス政府と国連機関の共同で作成された。本項では、MDG進捗報告書およびWBが作成しているMDG国別表にしたがって、ラオスのMDGの進捗をレビューする。

#### 5.1.1 MDG 1：貧困および飢餓の撲滅

貧困削減は政府の開発アジェンダにおいて中心的な課題であることから、ラオス政府は重点を置いて取り組んでいる。第1章で述べたように、貧困は、1992/93年から2002/03年の間に30ポイント以上低下した。この期間、国全体としては貧困削減が大きく進展したといえるが、県、地域によって依然として顕著な格差がある。また、ラオスにおいては、貧困は民族によっても異なっている。同期間における経済成長は、貧困削減に貢献したものの、全ての県、郡に平等に裨益したわけではない。さらに、不十分な食料保障は、これまで食料保障や栄養に関する政策は、あまり重視されてこなかったことから、ラオスにとって未だ重要な課題として残されている。

貧困削減に関する目標は、達成されるものと見込まれるが、5歳未満の低体重児の割合を指標とする飢餓に関する目標については、達成が困難であると懸念される。栄養状態の改善については、保健省が、農業省、教育省、計画投資省や国際連合食糧農業機関（FAO：Food and Agriculture Organization of the United Nations）、世界保健機関（WHO：World Health Organization）、国連児童基金（UNICEF：United Nations Children's Fund）およびWFPといったドナーと協調して、「国家栄養政策2020年」を策定している。

#### 5.1.2 MDG 2：普遍的初等教育の達成

教育は、比較的良い実績を残しているセクターであり、MDG2の初等教育の就学率に関する目標は、2015年までに達成されることが見込まれている。特に、初等教育に関する行政指標は、普遍的教育の普及に向けて着実に進展してきている。2008年には、ラオスの純初等教育就学率は、86%に達している。しかしながら、就学率を地域別に見ると、都市・農村部、および民族間で格差が見られる。就学率は、都市部において農村部よりも高く、農村部でもLao-Taiの子どもの就学率は、それ以外の民族の子どもの就学率よりも高い。こうした格差は、世帯の教育支出の格差によるものであると見られる<sup>45</sup>。

識字率や初等教育修了率などの他の指標については、達成度は低く、MDGの目標を下回っている。そのため、2015年までにこれらの目標を達成することは、困難である。

---

<sup>45</sup> The MDG Progress Report 2008, p.32



基礎教育への国民のアクセスの改善のため、教育省は、アジア開発銀行（ADB：Asian Development Bank）とオーストラリア国際開発庁（AusAID：Australian Agency for International Development）の技術支援を受けて、「教育セクター開発枠組み 10 ヶ年（2008～2018）」を策定している。

#### 5.1.3 MDG 3：ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上

MDG3 については、2015 年までの達成は難しいものと予測される。小学校に就学した男女比率は、2008 年には 90%にまで向上し、2015 年までの達成が見込まれているが、高等教育における男女比率については、目標を下回っており、達成も難しい状況である。

教育におけるジェンダーの平等においても、都市・農村部および民族間での格差が生じている。都市部においては、純初等教育就学率の男女格差は、いずれの民族においてもあまり見られない。むしろ、Lao-Tai および Tibeto-Burman では、男子よりも女子の就学率が上回っている。農村部においては、Lao-Tai では、初等教育就学率は男女ともに 80%を超えており、あまり格差はない。他方、Mon-Khmer および Mhong-Mien は、男子では 60%を超えているものの、女子はそれを大きく下回っている。Tibeto-Burman では、女子の就学率は 32.7%と低い、男子でも 38.7%と低い水準である。

政治におけるジェンダーの平等に関しては、2015 年までの目標値は特に設定されていないが、2008 年の国会における女性議員の比率を見ると、25%にとどまっている。

ジェンダーの平等の促進と女性の地位向上に向け、NSED2006-2010 においてジェンダーの平等に関するアジェンダが示された他に、女性の地位向上国家委員会（National Commission for Advancement of Women）により、「女性の地位向上国家政策プラン 2006-2010」が策定された。

#### 5.1.4 MDG 4：乳幼児死亡率の削減

乳幼児死亡率に関する指標は大幅に改善している。5 歳未満児の死亡率は、1,000 人当たり、2000 年 101 人から 2007 年 70 人に大きく減少し、これは 2015 年の目標値よりも低い水準である。また、乳児死亡率についても、2000 年から 2008 年にかけて、1,000 出生当たり 70 人から 56 人に低下した。そのため、2015 年までに乳児死亡率 1,000 出生当たり 49 人とする目標の達成は可能であると見込まれる。

こうした指標の改善は、5 歳未満児への予防接種の普及にあると考えられる。しかしながら、国全体の目標として 90%が掲げられているにもかかわらず、予防接種率は 40～50%台にとどまっている。政府は「予防接種拡大プログラム複数年計画（Expanded Programme on Immunization Multiple Year Plan）」を実施しているにもかかわらず、遠隔地のコミュニティの乳幼児の予防接種率を 100%にする取組みは、現状ではあまり成果を上げていない。そのため、ラオス国内における子どもの健康の改善については、地域間格差が生じているものと推察される。

子どもの健康の更なる向上のために、政府は「母子国家委員会」を設立し、子どもの健康促進プログラムや、予防接種プログラムなど、NGPES における保健セクターでの貧困削減のための 12 の戦略的プログラムを、NSED2006-2010 に統合した。

#### 5.1.5 MDG 5 : 妊産婦の健康の改善

ラオス政府は、MDG5 に関し、若年女性の出生率、熟練の保健スタッフの介助による出産、妊産婦死亡率 (MMR : maternal mortality rate) の 3 つの指標について目標値を設定している。

若年出産率 (adolescent birth rate) <sup>46</sup>は、2000 年 1,000 出生あたり 51 人から 2007 年 37 人と徐々に減少しているが、2015 年の目標値 17 人を大きく上回っている。全出生数のうち、熟練の保健スタッフの介助による出産の比率は、ほとんど改善していない。2000 年 17%から 2006 年 20%に上昇しているものの、目標値の 50%を大幅に下回っている。

妊産婦死亡率の低下については、より深刻な状況である。妊産婦死亡率は、出産 10 万件当たり、2000 年 530 人から 2005 年 405 人に低下しているものの、2015 年 360 人を達成することは困難である。また、妊産婦死亡率は主に都市部で低下しているため、都市・農村格差も大きいままとなっている。農村では、介助のない自宅での出産の比率が高いことが、妊産婦死亡率だけでなく、新生児死亡率も高いことの要因になっているものと見られている<sup>47</sup>。

妊産婦の死亡原因としては、貧血、過剰労働、妊娠に起因する高血圧および敗血症である。また、貧困層の女性は、保健サービスの質や利用、女性教育、地理的なアクセス、貧困に起因する妊娠に関連する死亡のリスクが高くなっている。特に、貧困は、食料不足や栄養不良をもたらし、妊産婦の健康に影響を及ぼしている。

政府は、2005 年 1 月に、妊産婦および乳幼児の健康の向上に関する取組みとして、「国家リプロダクティブヘルス政策」を打ち出した。

#### 5.1.6 MDG 6 : HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止

ラオスにおいては、政府が HIV/AIDS の予防とインパクトの最小化に取り組んできたことから、HIV/AIDS の発生は限定的であり、HIV/AIDS の蔓延防止に関する 2015 年までの目標値は、すでに達成されている。

マラリアはラオスにおける三大死亡原因の一つであるが、ドナーの支援を受けた政府の継続的な取組みにより、マラリア防止に関する MDG の目標値についても、達成が見込まれている。2007 年時点では、村落ベースの蚊帳の普及、早期治療の取組みは、全国でおよそ 8,000

<sup>46</sup> 若年出産率は 1 年間の全出生数のうち 15-19 才の女性による出生数により測定される。通常、1,000 出生数あたりで示される。

<sup>47</sup> "the Lao Reproductive Health Survey 2005"によれば、都市部での自宅出産は 50%であるのに対し、およそ 90%の農村女性が自宅出産している。

カ村に達している。

結核予防の取組みも、大幅に進展している。結核に関する2つのMDGの目標値についても、2005年には達成し、維持している。結核治療法の一つである直接監視短期治療法（DOTS：Directly Observed Treatment Short Course）<sup>48</sup>により、結核発症例の発見率は2005年までに72%となり、これはMDG目標値の70%を上回るものであった。こうした発見例のうち、治癒率は、MDG目標値の85%を上回る90%となっている。しかしながら、結核国家プログラムが全ての県、郡で実施されているにも関わらず、ラオスにおける結核の発症率は、2005年時点でも10万人中306人と依然として高い。

HIV/AIDSについては、保健大臣が議長を務める「国家AIDS予防委員会」が「国家HIV/AIDSおよび性感染症戦略・行動計画2006-2010」を策定している。マラリアについては、1980年から「ラオス国家マラリア予防プログラム」が開始されており、政府は引き続き「国家マラリア予防政策」、「マラリア戦略計画」などによりマラリア予防に取り組んでいる。また、「国家結核政策」および「国家結核プログラム」など複数のプログラムにより、結核対策も実施している。

#### 5.1.7 MDG 7：環境の持続可能性の確保

ラオスは、国連気候変動枠組会議（UNFCCC：United Nations Framework Convention on Climate Change）に調印しており、現在森林面積の比率に関する目標値の設定が検討されている。ラオスは、森林を含む自然資源の管理および環境に裨益する農業生産の持続可能な管理が求められている。UNFCCCにおける義務を達成するためには、政府は焼畑農業の削減への取り組みを行っている。

安全な飲料水へのアクセスについては、目標値80%に対し、1990年から2007年の間に、28%から74%に大幅に向上した。2015年までに目標値を達成することが見込まれているものの、県による格差は非常に大きい。道路整備が不十分である、より遠隔地の県および郡は、主要な国道へのアクセスのある県、郡に比して、安全な水へのアクセスのある人口のある割合は低い。

衛生的なトイレへのアクセスは、地域によって大きく異なっている。特に、都市・農村の格差が著しい。都市部の80%がすでに衛生的なトイレへのアクセスがある一方で、農村では50%未満となっている。そのため、2015年までに60%とする目標値の達成は、困難であると見られる。

#### 5.1.8 MDG 8：開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

ラオス政府は、MDG8に関し、有益で、かつ時系列に一貫して報告することができる、同国の状況に応じた指標と目標を設定した。市場へのアクセスについては、先進国市場への

---

<sup>48</sup> DOTSは、WHOにより推奨されている結核予防対策である。

輸出および国境コストに係る平均関税を含む、4つの指標が設定されている。また、ODAに関連する指標についても、モニタリングの対象となっている。電話回線、携帯電話加入者、インターネット利用者、ラジオおよびテレビへのアクセスなど、情報技術(IT:Information Technology)に関連する目標については、政府はNSED(2006-2010年)において、特に、孤立した貧困地域において、コンピューター技術への投資を促し、インターネットの利用の促進に取り組んでいることから、2000年以降徐々に改善している。

表 5-1 : ラオスにおける MDGs の進捗状況

MDGs Indicator		2000	2005	2006	2007	2008	Target 2015 (National)	Progress (National)
<b>Goal 1: Eradicate extreme poverty and hunger</b>								
1.1	Employment to population ratio, 15+, total (%)	79	78	78.2"	78.2"	78	no target	on track
1.2	Employment to population ratio, ages 15-24, total (%)	68	65	..	64	..	target under consideration	on track
1.3	GDP per person employed (annual % growth)	3	4	5	4	4.3	no target	on track
1.4	Income share held by lowest 20%	8.6	8'	..	..	..	target under consideration	
1.5	Malnutrition prevalence, weight for age (% of children under 5)	36.4 40'	..	37'	..	..	22 20**	seriously off track
1.6	Poverty gap at \$1.25 a day (PPP) (%)	12	8	..	..	..	6	on track
1.7	Poverty headcount ratio at \$1.25 a day (PPP) (% of population)	44	..	..	..	..	22	on track
1.8	Poverty gap at national poverty line (%)	12	8'	..	..	..	6	on track
1.9	Poverty headcount ratio below national poverty line (% of population)	48	33'	..	..	..	24	on track
1.10	Prevalence of undernourishment (% of population)	31**	19	..	..	..	16**	seriously off track
1.11	Vulnerable employment, total (% of total employment)	..	..	..	..	..	no target	
<b>Goal 2: Achieve universal primary education</b>								
2.1	Literacy rate, youth female (% of females ages 15-24)	75	79	67.3*	..	..	99	off track
2.2	Literacy rate, youth male (% of males ages 15-24)	83	89	..	..	..	99	off track
2.3	Persistence to last grade of primary, total (% of cohort)	53	62	67.8 65.4*	..	61.0	95	off track
2.4	Primary completion rate, total (% of relevant age group)	68.0	72.0	75.0	77.0	..	100	off track
2.5	Total enrollment, primary (% net)	77.0	83.0	83.7"	86.3"	86.0	98	on track, satisfactory
<b>Goal 3: Promote gender equality and empower women</b>								
3.1	Proportion of seats held by women in national parliaments (%)	21	23	22.9"	25.2"	25	no target	off track
3.2	Ratio of female to male enrollments in tertiary education	53	71	62'	..	72	100	off track
3.3	Ratio of female to male primary enrollment	85	88	86'	..	90.0	100	on track
3.4	Ratio of female to male secondary enrollment	70.0	76.0	78'	..	79.0	100	off track
3.5	Share of women employed in the nonagricultural sector (% of total nonagricultural employment)	38**	44.0	50.0	..	..	no target	off track
<b>Goal 4: Reduce child mortality</b>								
4.1	Immunization, measles (% of children ages 12-23 months)	42 60'	41 69'	48	40	..	90	off track
4.2	Mortality rate, infant (per 1,000 live births)	77 82'	62 70'	..	..	56	49	on track
4.3	Mortality rate, under-5 (per 1,000)	101 107'	79 98'	75	70	..	80	on track
<b>Goal 5: Improve maternal health</b>								
5.1	Adolescent fertility rate (births per 1,000 women ages 15-19)	51	42	40	37	..	17	off track
5.2	Births attended by skilled health staff (% of total)	17'	23'	20	..	..	50	on track
5.3	Contraceptive prevalence (% of women ages 15-49)	32	38	..	..	..	no target	
5.4	Maternal mortality ratio (modeled estimate, per 100,000 live births)	530'	660 405'	..	..	..	260	off track
5.5	Pregnant women receiving prenatal care (%)	29 21'	28.5'	39.3*	..	..	no target	potentially
5.6	Unmet need for contraception (% of married women ages 15-49)	40	27	..	..	..	no target	on track

MDGs Indicator		2000	2005	2006	2007	2008	Target 2015 (National)	Progress (National)
<b>Goal 6: Combat HIV/AIDS, malaria, and other diseases</b>								
6.1	Children with fever receiving antimalarial drugs (% of children under age 5 with fever)	9	8.2*	..	..	..	no target	lack of data
6.2	Condom use, population ages 15-24, female (% of females ages 15-24)	..	..	..	..	..	no target	lack of data
6.3	Condom use, population ages 15-24, male (% of males ages 15-24)	..	..	..	..	..	no target	lack of data
6.4	Prevalence and death rates associated with tuberculosis	357	306	..	..	..	240	on track
6.5	Prevalence of HIV, female (% ages 15-24)	..	0	..	0	..	<5	on track
6.6	Prevalence of HIV, male (% ages 15-24)	..	..	..	0	..	<5	on track
6.7	Prevalence of HIV, total (% of population ages 15-49)	0	0	..	0	..	<1	on track
6.8	Tuberculosis cases detected under DOTS (%)	40 42'	72	..	78	..	70	on track
6.9	Death rate associated with malaria (per 100,000 population)	7	..	0.4	..	..	0.2	on track
6.10	Proportion of children under 5 sleeping under bed nets	82	..	87	..	..	95	achieved
6.11	Proportion of tuberculosis cases cured under DOTS	80	..	90	..	..	85	achieved
<b>Goal 7: Ensure environmental sustainability</b>								
7.1	CO2 emissions (kg per PPP \$ of GDP)	0.13"	0	0.12"	..	..	no target	
7.2	CO2 emissions (metric tons per capita)	0	0.2 0.3'	0.24"	..	..	no target	
7.3	Forest area (% of land area)	42'	..	..	..	..	under consideration	off track
7.4	Improved sanitation facilities (% of rural population with access)	14"	..	38	49	..	60	off track
7.5	Improved sanitation facilities (% of urban population with access)	57"	..	..	..	..	87 83.5*	on track
7.6	Improved water source (% of rural population with access)	39"	..	53	74	..	80	off track
7.7	Improved water source (% of urban population with access)	76"	..	..	..	..	86 70.4*	on track
7.8	Marine protected areas, (% of surface area)	..	..	..	..	..	not relevant	
7.9	Nationally protected areas (% of total land area)	..	16	..	..	16	no target	
<b>Goal 8: Develop a global partnership for development</b>								
8.1	Aid per capita (current USD)	54	50 81'	..	68	..	no target	
8.2	Debt service (PPG and IMF only, % of exports, excluding workers' remittances)	8	23	19	19	..	no target	
8.3	Internet users (per 100 people)	0	1	1	2	..	no target	
8.4	Mobile cellular subscriptions (per 100 people)	0	11 9.8'	17	24	..	no target	
8.5	Telephone lines (per 100 people)	1 0.7'	2 1.5'	..	..	2	no target	

(出所) World Bank, "Country Table", (<http://ddp-ext.worldbank.org/ext/ddpreports/> as of June 2010), and "World Development Indicators data base", (<http://databank.worldbank.org/ddp/> as of June 2010)

(注)' の出所: the Government of the Lao PDR and the United Nations, "Millennium Development Goals: Progress Report Lao PDR 2008, (2008)

" の出所: United Nations Statistic Division, "MDG Info 2009", (<http://www.devinfo.info/mdginfo2009/>, <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>, as of June 2010)

\* の出所: Department of Statistics and UNICEF, "Lao PDR Multiple Indicator Cluster Survey 2006" (2008)

\*\* の出所: the Government of the Lao PDR and the United Nations, "Millennium Development Goals: Progress Report Lao PDR 2004" (2004)

## 5.2 貧困モニタリング等のモニタリング方法

### 5.2.1 MDG モニタリング

MDG の進捗状況は、MDG に関する国家監督委員会の指導のもと、国家技術ワーキンググループと国連テーマグループの共同でモニタリングが行われている。MDG 進捗報告書 2008 年版は、LECS3 および 2005 年国勢調査、複数指標クラスター調査 (Multiple Indicator Cluster Survey) (2006 年)、ラオス・リプロダクティブヘルス調査 (2005 年)、および経済センサス 2007 年を含む、既存のデータベースに基づいて作成されている。

2007 年には、技術ワーキンググループにより、新たな目標およびそれに対応する指標を含む、MDG のモニタリング枠組みの見直しが行われた。国際機関とともに、ラオス政府は、提案された新たな目標および指標を精査し、同国の状況に合致しているかについての判断を行った。

国勢調査は 10 年ごとに実施されており、これまでに 1985 年、1995 年、2005 年に行われた。過去 3 回の国勢調査は、質問票も含め、同じ設計および内容で行われてきたことから、それぞれの国勢調査のデータは比較可能である。国勢調査は、DOS の調整ユニットと各政府機関との共同事業として行われている。これまで、スウェーデン国際開発庁 (SIDA : Swedish International Development Agency) が DOS を通じて、国勢調査の実施に対する技術支援を行ってきた。

LECS は、5 年ごとに実施される大規模サンプル調査であり、これまでに 1992/93 年、1997/98 年、2002/03 年および 2007/08 年の 4 回実施された。LECS1 を除いて、サンプル村落数は 450 ~540 であり、サンプル世帯数は 8,000~8,900 である。LECS は、国、県、地域などのレベルで貧困アセスメントを行うための主要な情報源として、世帯の生活状況に関する重要なデータを提供している。しかしながら、WB のレポート<sup>49</sup>によれば、LECS は郡レベルを代表するサンプルフレームではないことが指摘されている。そのため、県レベルより小さい行政単位における推定方法を用いない限り、郡レベルでの貧困状況を分析することは困難である。LECS の実施も、SIDA により支援が行われてきたが、すでに SIDA は今後 DOS への支援を行わないことを表明している。

DOS としては、資金および人材面で十分なキャパシティを持たないことから、ドナーの支援なしに、データ収集、データ処理および分析を行うことは難しい状況である。

### 5.2.2 貧困モニタリング

NSEDP の実施および運営を支援するために、ドナーおよびラオス政府間で、保健、ジェンダーと HIV/AIDS、教育とジェンダー、インフラ、マクロ経済、民間セクター開発、農業、農村開発と自然資源管理、ガバナンス、麻薬防止、および地雷処理に関する分野別ワーキンググループが設置された。

---

<sup>49</sup> Committee for National Planning and Investment, National Statistics Center and World Bank, “Lao PDR Poverty Trends 1992/93 – 2002/03”, (2006)

貧困削減を含む NSEDP の進捗状況のモニタリングとしては、政府の異なる 2 つの組織にもとに、2 つの制度が存在している。

一つは、MPI/DOS により管理されている、村落統計書 (VSB : Village Statistic Book) に基づくものである。VSB では、村落レベルでデータを集計するために、250 指標が設定されている。250 指標に関連するデータは、村ごとに毎年集計され、Kumban、郡計画事務所 (District Planning Office)、県計画局 (Provincial Planning Department) を通じて、MPI に提出される。VSB に基づくモニタリングシステムは、UNDP による支援が行われている。

もう一つの貧困モニタリングシステムは、首相府の下に置かれている、NLC-RDPR により行われているものである。NLC-RDPR もまた、「貧困モニタリングフォーム」に基づいてデータを収集しているが、NLC-RDPR により収集されているデータの多くは VSB によるものと重複している。他方、「貧困世帯」を含む貧困モニタリングフォームの主要データに関する定義は、VSB の定義と異なるものもある。

これら 2 つの主要なモニタリングシステムのほか、教育省、保健省、農業・森林省など他省や党も、村落や Kumban から類似データの収集を行っている。こうしたデータ収集活動は、キャパシティが不十分である村落や Kumban の行政にとって重い負担となっている。また、一方では、村落や Kumban に対するこれらの調査結果のフィードバックが行われておらず、村落および Kumban においてモニタリング結果の有効活用を阻害している。

### 5.2.3 Lao Info

Lao Info は、MDG のモニタリングのための主要な統計ツールおよび NGPES、NSEDP やその他のラオスの国家開発の枠組みのモニタリングのための情報源を提供する、共通指標データベースシステムである。Lao Info には、国勢調査、サンプル調査および政府の報告システムによるデータが含まれており、セクター、目標、テーマ、データソース、組織あるいは会議ごとに整理された指標へのアクセスを容易にするものである。

UNDP、UNICEF および UNFPA の支援により、開発パートナー間での対話を促進するために、データベースシステムの開発が行われた。データベースシステムの活用により、利用者は、国レベルや県レベルでの計画、モニタリングおよび評価のための表、グラフ、地図を作成することが可能である。

2005 年に第 1 次データベースが Lao Info バージョン 4.1 として発表された。その後、アップデートして、現在は Lao Info バージョン 5.1 が利用可能である。



別 添

## 別添 1：貧困・不平等指標の解説

### (1) 貧困指標

用語	解説
貧困ライン (Poverty Line)	<p>■ 相対的貧困ライン (Relative poverty lines)            当該国の所得あるいは消費の分配との関係で定義される「相対的貧困」を測定するための基準。「相対的貧困」は大多数の人々よりも貧しい状態にあることを意味する。相対的貧困ラインは、例えば、「当該国の所得あるいは消費の平均値の50%」を相対的貧困ラインとして設定し、それ以下の所得あるいは消費水準にある人が貧困層と定義される。</p> <p>■ 絶対的貧困ライン (Absolute poverty lines)            必要最小限の生活水準 (basic needs) を満たすための絶対的水準。貨幣価値による測定 (最小費用法: Cost of Basic Needs Methods) では、最低食料費用と食料以外に最低限必要な所得あるいは消費額を推定し、これに基づいて絶対的貧困ラインを設定する。最低食料費用は、栄養学上、人間が通常の生活を営み、健康を維持するのに最低限必要なエネルギー (kcal) を摂取するための費用である。必要エネルギー摂取量は、年齢、性別、体重、外気によって調整される。</p>
貧困者比率 / 貧困率 (P0: Poverty Headcount Index/ Poverty Incidence)	<p>貧困ライン未満の人数の対象人口全体の人数に対する比率。貧困の規模を最もわかりやすく表示する指標。この指標は、その計測方法の単純さから、直感的に貧困の度合いの大小を把握する上では簡便な指標ではあるが、貧困ライン未満所得 (又は消費) 階層 (間) における所得 (又は消費) 水準や、所得 (消費) 分布を把握することができない。</p> $HCI = \frac{q}{N}$ <p>q: 貧困層の人数            N: 集団全体の人数</p>
貧困ギャップ比率 (貧困の深度) (P1: Poverty Gap Index/ Poverty Depth)	<p>貧困ラインと貧困ライン未満人口の平均所得の差分の貧困ラインに対する比率の平均値。すなわち、貧困ライン未満に位置する人口の所得 (又は消費) 水準との距離 (乖離度) を示す指標。貧困ラインを一定とした場合、貧困ライン未満に位置する人口の所得 (又は消費) 水準が低下する程、貧困の深度は上昇する。貧困ラインまでの不足額を必要移転額として、貧困削減に必要な最小コストとみなすことができる。</p> $PGI = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^q \left( \frac{z - y_i}{z} \right)$ <p>N: 集団全体の人数            z: 貧困ライン            y: 各人の所得</p>
2乗貧困ギャップ比率 (P2: Squared Poverty Gap Index/ Poverty Severity)	<p>貧困ライン未満人口の平均所得と貧困ラインとの格差の貧困ラインに対する比率の2乗の平均値。貧困の重度 (severity)、すなわち、貧困ライン所得 (消費水準) 未満に位置する所得 (又は消費) 階層間の所得 (又は消費) 不平等度を示す。貧困ラインを一定とした場合、貧困ライン未満に位置する所得 (又は消費) 階層間の所得 (又は消費) 分配が悪化 (不平等化) する程、貧困の重度は上昇する。</p> $SPI = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^q \left( \frac{z - y_i}{z} \right)^2$ <p>N: 集団全体の人数            z: 貧困ライン            y: 各人の所得</p>

(2) 不平等指標

用語	解説
ジニ係数 (Gini coefficient) とローレンツ曲線 (Lorenz Curve)	<p>ジニ係数は、完全に公平な分布から、経済の中で所得(あるいは消費支出)の分布範囲がどこまで乖離しているかを示すものである。ローレンツ曲線は、最も所得(または消費)水準の低い個人から最も高い個人に向かって人口の累積分布を横軸に、所得の累積分布を縦軸に測ることで表される曲線を示す。ジニ係数は、完全平等を示す 45 度の対角線とローレンツ曲線との面積が、45 度対角線の下側の三角形の面積に占める割合である。ジニ係数の 0 は完全な平等を表現し、1 は完全な不平等 (1 人あるいは 1 つの世帯が全ての所得または消費を独占している) を表わす。</p>
タイル指数 (Theil index)	<p>所得(支出)の総計に占める個人の所得(支出)の割合と平均所得(支出)に対する個人の所得(支出)の比率に基づいて算出される不平等の度合いを示す指数。対象人口全体 (N) の所得分配が全人口間で完全に平等である場合には 0 に、1 人によってすべての所得が得られている完全不平等の場合は <math>\ln(N)</math> となる。</p> $Z(1) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{y_i}{\bar{y}} \log \frac{y_i}{\bar{y}}$ <p>n: 集団全体の人数  <math>y_i</math>: 各人の所得  <math>\bar{y}</math>: 各人の所得の算術平均値</p> <p>タイル指数は、サブグループごとに重み付けをおこなった不平等の合計であることから、それぞれのサブグループが全体の不平等にどのように貢献しているのかを分解して、分析することができる。</p> $I(\text{全体の不平等度}) = I_w(\text{サブグループ内の不平等度}) + I_b(\text{サブグループ間の不平等度})$

(参考文献)

World Bank, “Poverty Reduction Strategy Paper (PRSP) Sourcebook”, (2004)

World Bank, “Handbook on Poverty + Inequality”, (2009)

## 別添 2：貧困ラインの水準（1997/1998）

地域	都市部	農村部	全国
<b>食料貧困ライン（一人一ヶ月当り）</b>			
ラオス	19,270	14,407	15,218
ビエンチャン首都	20,504	17,589	19,422
北部	18,016	13,783	14,197
中部	19,042	14,677	15,214
南部	17,316	14,170	15,214
<b>絶対貧困ライン（一人一ヶ月当り）</b>			
ラオス	23,902	18,239	19,184
ビエンチャン首都	24,802	21,768	23,676
北部	23,749	18,070	18,626
中部	23,637	18,264	18,925
南部	21,493	17,644	19,184

（出所）Kakwani, N., et al., “Poverty in Lao PDR” (2001), p.26, Annex Table 4 and p.28, Annex Table 5.

（注）1998 年時点の期中平均為替レートは 1 USD = 3,298.33 キップである。

別添 3 : 貧困 72 郡リスト

Table 1.3: List of 72 poor districts by provinces and poverty criteria ( household poverty), 2001/2002.

Poor districts	Province	Total population	Of which women	Total number of households	Number of poor households	Percentage of poor households	Number of household poor by criteria					Percentage of household poor by criteria					
							Lack of rice	lack of clothes	Lack of shelter	Insufficient to cover the cost of medical treatment	Insufficient to cover the cost of children schooling cost	Lack of rice	lack of clothes	Lack of shelter	Insufficient to cover the cost of medical treatment	Insufficient to cover the cost of children schooling cost	
1	Saoukay district	Attapeu	15,293	7,899	2,589	2,558	98.8	420	480	580	590	550	16.4	18.8	22.7	23.1	21.5
2	Kaloun district	Xekong	10,736	5,650	1,673	1,613	96.4	1,468	290	565	1,129	323	91.0	18.0	35.0	70.0	20.0
3	Phouvong district	Attapeu	10,030	4,997	1,833	1,688	92.1	260	330	390	376	350	15.4	19.5	23.1	23.3	20.7
4	Viengthong district	Borikhamxay	18,968	9,538	2,908	2,589	89.0	806	2,033	1,839	1,635	622	31.1	78.5	71.8	63.2	24.0
5	Nam nlu Special Region	Bokeo	3,923	1,718	553	480	86.8	297	158	474	192	253	61.9	32.9	98.8	40.0	52.7
6	Huameuang district	Houa Phane	26,405	13,045	3,792	3,287	86.7	1,144	591	582	663	1,858	34.8	18.0	17.7	20.2	36.5
7	Pakbeng district	Oudomxay	24,690	12,450	3,864	3,335	86.3	2,850	532	2,762	531	1,119	85.5	16.0	82.8	15.9	33.6
8	Nong district	Savannakhet	19,266	9,633	3,066	2,637	86.0	2,307	0	2,637	2,637	2,637	87.5	0.0	100.0	100.0	100.0
9	Ta oi district	Saravanh	20,662	10,607	3,663	3,042	83.0	3,042	3,042	3,042	3,042	3,042	100	100	100	100	100
10	Long district	Louang Nountha	24,204	12,196	4,412	3,557	80.6	1,692	1,566	2,997	1,795	2,453	47.6	44.0	84.3	50.5	69.0
11	Samphanh district	Phongsaly	26,531	13,123	4,134	3,306	80.0	1,953	813	2,133	1,539	1,461	59.1	24.6	64.5	46.6	44.2
12	Phonxay district	Luang Phrabang	24,396	10,180	3,876	3,097	79.9	689	764	756	564	324	22.2	24.7	24.4	18.2	10.5
13	Viengkham district	Luang Phrabang	40,723	20,636	6,650	5,253	79.0	1,759	588	1,691	777	438	33.5	11.2	32.2	14.8	8.3
14	Viengthong district	Houa Phane	24,351	11,896	3,684	2,823	76.6	1,723	1,197	2,428	1,293	916	61.0	42.4	86.0	45.8	32.4
15	Sepone district	Savannakhet	38,896	19,527	6,824	5,214	76.4	4,955	0	5,214	2,726	3,966	95.0	0.0	100.0	52.3	76.1
16	Bolikhanh district	Borikhamxay	29,453	14,188	4,685	3,570	76.3	1,848	1,970	2,981	2,366	815	51.8	55.2	83.5	66.3	22.8
17	Dakcheung district	Xekong	18,127	9,203	3,143	2,353	74.9	2,118	471	471	1,412	518	90.0	20.0	60.0	60.0	22.0
18	Nelae district	Louang Nountha	23,584	12,898	3,832	2,655	69.3	1,078	860	289	162	286	40.6	32.4	10.1	6.1	10.8
19	Xamtay district	Houa Phane	53,279	26,316	7,992	5,325	66.6	976	835	942	1,673	899	18.3	15.7	17.7	31.4	16.9
20	Meung district	Bokeo	5,941	2,904	1,152	748	64.9	594	51	700	93	303	79.4	6.8	93.6	12.4	40.5
21	Samnoui district	Saravanh	10,225	5,368	1,975	1,266	64.1	1,266	1,266	1,266	1,266	1,266	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
22	Phoukhoue district	Luang Phrabang	20,768	10,280	3,075	1,964	63.9	403	254	378	462	467	20.5	12.9	19.2	23.5	23.8
23	Xhoue district	Xiang Khoang	30,943	15,464	3,075	1,964	63.9	403	254	378	462	467	20.5	12.9	19.2	23.5	23.8
24	Saysomboun district	Xaysomboun	14,476	7,162	2,197	1,379	62.8	976	88	1,034	226	101	70.8	6.4	75.0	16.4	7.3
25	Viengxay district	Houa Phane	34,920	17,318	5,502	3,398	61.8	1,352	698	492	741	796	39.8	20.5	14.5	21.8	23.4
26	Khamkeuth district	Borikhamxay	51,151	25,096	7,699	4,726	61.4	1,921	4,760	4,539	3,528	1,944	40.6	100.7	96.0	74.7	41.1
27	Pak xeng district	Luang Phrabang	25,886	12,968	4,353	2,650	60.9	945	603	487	491	124	35.7	22.8	18.4	18.5	4.7
28	Beng district	Oudomxay	30,807	15,407	6,102	3,697	60.6	1,509	291	2,366	288	347	40.8	7.9	64.0	7.8	9.4
29	Xiangkhor district	Houa Phane	25,646	12,672	3,861	2,337	60.5	1,153	360	287	269	270	49.3	15.4	12.3	11.5	11.6
30	Nga district	Oudomxay	25,079	11,784	3,912	2,356	60.2	1,854	771	2,135	815	967	78.7	32.7	90.6	34.6	41.0
31	Houa district	Oudomxay	55,539	27,748	8,850	5,227	59.1	3,230	1,114	4,000	1,298	1,915	61.8	21.3	76.5	24.8	36.6

32	Hom district	Vientiane	7,618	3,852	958	544	568	542	0	414	152	38	99.6	0.0	76.1	27.9	7.0
33	Pha oudom district	Bokeo	31,498	16,149	5,356	2,994	55.9	2,424	660	2,368	682	885	81.0	22.0	79.1	22.8	29.6
34	Viengphoukha district	Louang Nountha	15,813	8,217	3,062	1,706	55.7	1,584	1,326	1,204	1,366	1,219	92.8	77.7	70.6	80.1	71.5
35	Phine district	Savannakhet	45,798	23,086	6,647	3,701	55.7	3,085	0	3,166	2,412	3,539	83.4	0.0	85.5	65.2	95.6
36	Vilabuly district	Savannakhet	27,937	13,514	4,373	2,425	55.5	2,425	0	2,425	2,425	2,425	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0
37	Thathom district	Xaysomboun	8,316	4,092	1,369	756	55.2	281	76	698	64	61	37.2	10.1	92.3	8.5	8.1
38	Namnor district	Oudomxay	29,673	14,837	4,511	2,480	55.0	1,645	506	1,622	751	727	66.3	20.4	65.4	30.3	29.3
39	Nhotou district	Phongsaly	26,419	12,972	4,152	2,280	54.9	1,490	682	1,368	620	715	65.4	29.9	60.0	27.2	31.4
40	Nonghed district	Xieng Khoang	36,165	17,940	5,153	2,823	54.8	564	1,155	2,823	869	905	20.0	40.9	100.0	30.8	32.1
41	Phoon district	Xaysomboun	8,517	4,302	1,470	784	53.3	499	76	672	49	48	63.6	9.7	85.7	6.3	6.1
42	Thapangthong district	Savannakhet	27,937	14,233	3,985	2,099	52.7	1,261	0	1,478	1,070	1,382	60.1	0.0	70.4	51.0	65.8
43	Add district	Houa Phane	26,467	13,041	4,007	2,106	52.6	1,561	215	650	594	439	74.1	10.2	30.9	28.2	20.8
44	Sopbao district	Houa Phane	25,533	12,882	3,894	2,023	52.0	1,180	1,195	1,057	1,451	1,349	58.3	59.1	52.2	71.7	66.7
45	Meungngeun district	Xayaboury	14,495	7,451	2,532	1,258	49.7	736	344	1,258	349	280	58.5	27.3	100.0	27.7	22.3
46	Nakai district	Khammouane	18,264	9,261	3,309	1,632	49.3	1,376	255	1,505	525	508	84.3	15.6	92.2	32.2	31.1
47	Thaphalaxay district	Savannakhet	28,573	14,645	5,312	2,476	46.6	2,476	0	1,572	57	1,395	100.0	0.0	63.5	2.3	56.3
48	Mooulapamok district	Champasak	36,437	18,947	5,873	2,704	46.0	na	na	na	na	na	na	na	na	na	na
49	Longxan district	Vientiane	18,024	8,909	2,433	1,110	45.6	812	132	1,110	445	251	73.2	11.9	100.0	40.1	22.6
50	Xaysetha district	Attapeu	26,119	13,938	4,612	2,015	43.7	450	375	385	438	367	22.3	18.6	19.1	21.7	18.2
51	Khua district	Phongsaly	27,607	14,081	4,952	2,010	40.6	1,657	850	1,760	990	1,347	82.4	42.3	87.6	49.3	67.0
52	Mai district	Phongsaly	23,035	11,663	4,112	1,645	40.0	975	591	1,008	643	675	59.3	35.9	61.3	39.1	41.0
53	Xonbully district	Savannakhet	44,911	23,197	6,470	2,534	39.2	2,048	0	2,027	1,285	1,428	80.8	0.0	80.0	50.7	56.4
54	Xaybuathong district	Khammouane	18,839	9,523	3,336	1,302	39.0	802	112	1,302	129	262	61.6	8.6	100.0	9.9	20.1
55	Mad district	Vientiane	14,608	7,169	2,432	943	38.8	361	39	352	144	105	38.3	4.1	37.3	15.3	11.1
56	Xienghoh district	Xayaboury	25,991	13,033	4,703	1,800	38.3	1,800	1,798	1,797	1,051	873	100.0	99.9	99.8	58.4	48.5
57	La district	Oudomxay	16,071	8,131	3,181	1,193	37.5	781	276	798	430	417	65.5	23.1	66.9	36.0	35.0
58	Nhomemalath	Khammouane	25,612	13,216	4,889	1,786	36.5	1,256	85	1,615	71	208	70.3	4.8	90.4	4.0	11.6
59	Toomiam district	Saravanh	19,340	9,972	3,326	1,175	35.3	na	na	na	na	na	na	na	na	na	na
60	Paktha district	Bokeo	15,679	7,910	2,598	860	33.1	717	203	639	194	204	83.4	23.6	74.3	22.6	23.7
61	Bualapha district	Khammouane	23,022	11,187	4,049	1,294	32.0	772	60	1,294	125	203	59.7	4.6	100.0	9.7	15.7
62	Mahaxay district	Khammouane	28,261	14,451	5,246	1,644	31.3	1,644	113	1,644	79	140	100.0	6.9	100.0	4.8	8.5
63	Pek district	Xieng Khoang	66,284	33,480	11,127	3,467	31.2	1,154	558	478	907	592	33.3	16.1	13.8	26.2	17.1
64	Hongsai district	Xayaboury	26,118	13,065	4,288	1,216	28.4	1,216	1,198	1,216	1,198	1,157	100.0	98.5	100.0	98.5	95.1
65	Khop districts	Xayaboury	17,968	8,961	3,183	891	28.0	891	0	891	0	0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
66	Xayabury district	Xayaboury	68,206	34,129	11,347	2,875	25.3	1,048	534	2,875	709	988	36.5	18.6	100.0	24.7	34.4
67	Feuang district	Vientiane	42,700	20,924	6,600	1,593	24.1	1,071	115	522	247	149	67.2	7.2	32.8	15.5	9.4
68	Sukhama district	Champasak	49,893	26,598	8,016	1,575	19.6	1,575	0	415	0	155	100.0	0.0	26.3	0.0	9.8
69	Kham district	Xieng Khoang	46,979	23,471	6,885	974	14.6	974	0	0	194	0	100.0	0.0	0.0	19.9	0.0
70	Bachiangchaleumsouk district	Champasak	39,308	19,738	7,393	924	12.5	924	774	924	0	866	100.0	83.8	100.0	0.0	93.7
71	Pathoomphone district	Champasak	49,241	25,228	8,693	690	7.9	690	na	382	690	690	100.0	na	55.4	100.0	100.0
72	Sangthong district	Vientiane Mun.	22,507	11,166	4,317	191	4.4	179	0	55	0	15	93.7	0.0	28.8	0.0	7.9
Total			1,956,681	972,432	318,877	160,592	50.4	93,917	41,333	98,603	58,446	58,803	58.5	25.7	61.4	36.4	36.6

Source: National Statistical Center, Poverty Statistical Reports, Provincial Committees/Authorities as of March 2003

別添 4：マイクロファイナンスの事業状況（2006 年）

1. 県別マイクロファイナンスの事業状況（2006 年）(1)

県	NGPES による 貧困世帯数	サービス・ プロバイダー	顧客数(人)**			借入者数(人)**			預金者数(人)**		
			計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性
ラオス	160,592	190	206,456	58,458	67,368	99,743	28,963	28,229	162,773	36,824	57,438
北部		79	-	27,314	20,498	40,158	14,159	11,442	57,890	18,704	16,781
Phongsaly	9,241	10	4,586	3,060	1,526	3,022	2,094	928	2,533	1,490	1,043
Louang Namtha	7,918	9	7,212	1,851	799	2,542	480	368	6,827	1,543	722
Oudomxay	18,288	12	11,850	4,346	4,335	7,994	3,904	3,799	9,737	2,258	4,310
Bokeo	5,082	9	16,753	3,701	3,099	5,925	32	402	11,922	485	1,484
Louang Prabang	12,964	13	14,080	5,014	2,064	7,150	2,054	751	8,466	4,858	1,846
Houa Phanh	21,299	7	7,932	2,621	2,334	4,803	1,966	1,493	7,652	2,621	2,054
Xaygnaboury	8,040	14	9,524	5,012	4,512	5,479	2,921	2,558	7,855	3,740	4,115
中部		79	-	16,694	38,685	41,993	8,130	14,889	75,489	15,598	36,013
Vientiane Capital	191	15	26,641	3,094	18,061	10,396	612	5,705	26,582	3,328	17,768
Xieng Khoang	9,228	5	4,390	1,709	1,829	3,243	708	1,143	2,898	1,709	1,189
Vientiane	4,190	17	14,064	2,784	7,728	3,633	815	2,501	13,484	2,601	7,272
Borikhamxay	10,885	8	8,704	4,685	4,019	6,268	4,032	2,236	6,068	3,861	2,207
Khammuane	7,658	14	18,430	3,517	6,103	13,506	1,666	3,084	15,975	3,256	6,042
Savannakhet	21,086	25	15,097	2,560	2,774	8,190	1,105	1,363	13,380	2,552	2,724
南部		32	-	14,450	8,185	17,592	6,574	1,968	29,394	2,540	4,644
Saravanh	5,483	12	6,751	3,477	1,150	5,586	2,917	840	2,857	1,069	584
Xékong	3,966	5	1,375	-	0	1,197	-	-	1,375	-	-
Champasak	5,893	10	33,713	8,736	5,391	9,739	3,407	959	24,021	1,125	3,507
Attapeu	6,261	5	4,814	2,237	1,644	1,070	250	169	1,832	346	553

(出所) Committee for Planning and Investment, National Economic Research Institute, "Rural & Microfinance Statistics in the Lao PDR 2006", (2006).

(注) 質問票において郡によっては性別比率を記入していないため、「男性」および「女性」の合算が「合計額」と必ずしも一致しない。

2. 県別マイクロファイナンスの事業状況（2006年）（2）

県	貸付額(キップ)			預金額(キップ)		
	計	男性	女性	計	男性	女性
ラオス	<b>169,553,500,479</b>	<b>41,997,905,011</b>	<b>32,290,832,611</b>	<b>66,556,978,554</b>	<b>3,912,766,855</b>	<b>11,728,405,774</b>
北部	<b>63,531,466,390</b>	<b>23,385,855,416</b>	<b>12,039,573,813</b>	<b>12,847,754,973</b>	<b>2,673,133,666</b>	<b>2,739,613,710</b>
Phongsaly	3,594,942,500	2,341,712,500	934,030,000	336,720,500	249,753,000	59,047,500
Louang Namtha	3,118,733,900	1,517,661,500	924,564,500	691,224,900	248,708,000	101,824,000
Oudomxay	10,574,410,500	6,241,214,000	2,066,935,000	853,913,500	23,399,000	269,043,000
Bokeo	5,339,552,000	117,500,000	528,649,000	656,688,000	123,123,000	322,344,000
Louang Prabang	20,018,092,991	5,987,599,000	752,453,000	1,863,857,329	845,490,932	453,408,449
Houa Phan	8,031,681,270	2,860,908,000	1,636,997,000	5,607,381,659	17,192,000	52,402,000
Xaygnaboury	7,549,364,729	3,178,604,416	4,370,760,313	2,602,346,885	1,036,803,034	1,374,587,261
中部	<b>79,713,716,059</b>	<b>7,942,831,000</b>	<b>17,735,568,000</b>	<b>44,030,098,900</b>	<b>1,110,322,189</b>	<b>8,295,500,064</b>
Vientiane Capital	24,313,740,000	1,761,254,000	8,739,937,000	18,537,610,753	623,116,189	5,640,105,564
Xieng Khoang	5,304,688,500	1,140,656,000	765,185,000	235,622,200	128,664,700	106,957,500
Vientiane	19,694,097,059	326,830,000	906,479,000	7,733,473,647	70,972,000	2,501,000,000
Borikhamxay	3,844,075,000	2,525,306,000	1,167,110,000	535,795,500	217,124,000	214,620,500
Khammuane	16,156,653,500	3,197,989,000	6,611,096,000	8,792,451,000	46,574,000	1,089,350,000
Savannakhet	15,705,145,500	131,452,000	310,946,000	8,430,768,000	152,536,000	364,981,000
南部	<b>26,308,318,030</b>	<b>10,669,218,595</b>	<b>2,515,690,798</b>	<b>9,679,124,681</b>	<b>129,311,000</b>	<b>693,292,000</b>
Saravanh	7,600,230,464	4,561,270,785	854,768,600	171,721,739	71,679,000	16,472,000
Xékong	3,895,780,000	-	-	2,633,267,000	-	-
Champasak	13,470,354,566	5,748,802,810	1,321,789,198	6,701,029,942	1,340,000	572,522,000
Attapeu	1,341,953,000	359,145,000	339,133,000	173,106,000	56,292,000	104,298,000

（出所） Committee for Planning and Investment, National Economic Research Institute (2006). Rural & Microfinance Statistics in the Lao PDR 2006.

（注） 質問票において郡によっては性別比率を記入していないため、「男性」および「女性」の合算が「合計額」と必ずしも一致しない。



3. セクター別・目的別マイクロファイナンスの事業状況（2006年）

県	農業、畜産、 漁業 (キップ)	商業、商店 (キップ)	手工芸品、 織物 (キップ)	サービス (キップ)	食品加工 (キップ)	医療 (キップ)	教育 (キップ)	事故 (キップ)	冠婚葬祭・ 社交 (キップ)	その他 (キップ)
<b>ラオス全体</b>	<b>86,668,931,781</b>	<b>22,608,639,692</b>	<b>8,409,077,823</b>	<b>1,794,504,719</b>	<b>130,625,000</b>	<b>964,957,438</b>	<b>124,841,195</b>	<b>537,424,500</b>	<b>471,164,000</b>	<b>2,662,155,542</b>
<b>北部</b>	<b>29,186,232,795</b>	<b>8,263,389,070</b>	<b>4,948,297,525</b>	<b>1,412,940,527</b>	<b>33,240,000</b>	<b>208,130,238</b>	<b>19,322,195</b>	<b>241,028,500</b>	<b>139,535,000</b>	<b>2,497,679,550</b>
Phongsaly	1,453,337,000	12,600,000	43,000,000	0	0	0	0	0	0	0
Louang Namtha	2,012,288,500	162,817,000	48,750,000	306,300,000	0	0	0	32,170,500	64,976,000	0
Oudomxay	7,721,561,500	556,820,500	3,000,000	0	0	0	0	0	0	0
Bokeo	4,537,842,000	494,759,000	5,471,000	0	0	29,695,000	2,571,000	184,090,000	51,114,000	32,833,000
Louang Prabang	5,287,044,600	3,980,148,175	4,272,947,725	714,535,000	33,240,000	43,040,000	14,120,000	0	0	90,917,910
Houa Phanh	4,359,594,570	662,517,240	523,049,800	12,500,000	0	113,149,960	0	4,800,000	23,445,000	2,287,894,700
Xaynaboury	3,814,564,625	2,393,727,155	52,079,000	379,605,527	0	22,245,278	2,631,195	19,968,000	0	86,033,940
<b>中部</b>	<b>40,443,164,586</b>	<b>11,927,533,331</b>	<b>2,840,448,000</b>	<b>76,484,000</b>	<b>35,000,000</b>	<b>329,123,000</b>	<b>47,250,000</b>	<b>260,614,000</b>	<b>9,529,000</b>	<b>158,696,142</b>
Vientiane Capital	6,268,865,000	7,243,092,000	1,896,683,000	50,000,000	21,000,000	198,517,000	22,500,000	173,100,000	2,000,000	44,162,000
Xieng Khoang	4,989,875,000	36,860,000	192,947,000	6,100,000	0	13,389,000	2,446,000	3,000,000	0	15,071,500
Vientiane	10,729,820,586	792,206,331	425,677,000	0	0	0	0	18,237,000	0	64,915,642
Borikhamxay	3,969,204,000	311,222,000	211,100,000	0	0	5,400,000	0	20,317,000	2,800,000	2,000,000
Khammuane	7,719,349,500	1,288,073,000	30,500,000	0	0	77,290,000	0	0	0	0
Savannakhet	6,766,050,500	2,256,080,000	83,541,000	20,384,000	14,000,000	34,527,000	22,304,000	45,960,000	4,729,000	32,547,000
<b>南部</b>	<b>17,039,434,400</b>	<b>2,417,717,291</b>	<b>620,332,298</b>	<b>305,080,192</b>	<b>62,385,000</b>	<b>427,704,200</b>	<b>58,269,000</b>	<b>35,782,000</b>	<b>322,100,000</b>	<b>5,779,850</b>
Saravanh	6,548,500,000	242,800,193	39,950,000	164,230,192	62,385,000	33,842,000	8,269,000	16,405,000	0	0
Xékong	659,559,500	183,050,000	1,000,000	0	0	78,260,000	50,000,000	0	0	0
Champasak	8,796,341,900	1,959,112,098	501,724,298	0	0	315,602,200	0	3,000,000	322,100,000	5,779,850
Attapeu	1,035,033,000	32,755,000	77,658,000	140,850,000	0	0	0	16,377,000	0	0

(出所) Committee for Planning and Investment, National Economic Research Institute (2006). Rural & Microfinance Statistics in the Lao PDR 2006.

# **Annex**

(1) List of Major Policy Documents

File No.	Name of Document	Publisher	Year	Source
1	National Nutrition Policy (Strategy and Action Plan)	The Ministry of Health with online ministries and with the support from UN agencies.	2008/12	<a href="http://www.moh.gov.la/index.php?option...id...30122008...">www.moh.gov.la/index.php?option...id...30122008...</a>
2	The Sixth National Socio Economic Development Plan (NSEDPP) 2006-2010	Committee for Planning and Investment (CPI), Government of Lao PDR	2006/10	<a href="http://www.undplao.org/official%20docs/NSEDP%20partI.pdf">http://www.undplao.org/official%20docs/NSEDP%20partI.pdf</a>
3	National Programme Strategy for the Post Opium Scenario: "The Balanced Approach to Sustaining Opium Elimination in the Lao PDR (2006-2009)" Policy paper final draft	Lao National Commission for Drug Control and Supervision, UNODC	2006/01	<a href="http://www.unodc.org/unodc/en/crop-monitoring/index.html?tag=Lao%20PDR">http://www.unodc.org/unodc/en/crop-monitoring/index.html?tag=Lao%20PDR</a>
4	National Growth and Poverty Eradication Strategy (NGPES)	Government of Lao PDR (GOL)	2004/06	<a href="http://www.undplao.org/newsroom/ngpes.php">http://www.undplao.org/newsroom/ngpes.php</a>
5	Socio-Economic Development Plan From present to the Year 2020, 2010 and the fifth 5-year plan for socio-economic development (2001-2005)	Committee for Planning and Cooperation, Government of Lao PDR	2001/07	Obtained from Lao PDR.
6	Official Gazette Special Issue: State Budget Plan FY 2001-2002	Ministry of Finance	2002/03	Obtained from Lao PDR.
7	Social Security Schemes, Pension and Elderly policy in Lao P.D.R	ILO Subregional Office for East Asia	-	<a href="http://www.jicwels.or.jp/about_jicwels/ASEAN&amp;JapanHighLevelOfficialsMeeting/5th%20Mtg.%20Country%20Report%202007%20-Community%20Services%20for%20the%20Elderly-/Laos%20Welfare.pdf">http://www.jicwels.or.jp/about_jicwels/ASEAN&amp;JapanHighLevelOfficialsMeeting/5th%20Mtg.%20Country%20Report%202007%20-Community%20Services%20for%20the%20Elderly-/Laos%20Welfare.pdf</a>
	Lao PDR Social Security (series of social security extension initiatives in East Asia)		2006	<a href="http://www.ilo.org/public/english/region/asro/bangkok/events/sis/download/paper30.pdf">http://www.ilo.org/public/english/region/asro/bangkok/events/sis/download/paper30.pdf</a>
8	UXO Lao 2008 Work Plan	the Lao National Unexploded Ordnance Programme (UXO Lao)	2008	<a href="http://www.uxolao.org/Download%20files/UXO%20Lao%202008%20Work%20Plan.pdf">http://www.uxolao.org/Download%20files/UXO%20Lao%202008%20Work%20Plan.pdf</a>
	UXO Lao 2009 Work Plan		2009	<a href="http://www.uxolao.org/Download%20files/2009%20Work%20Plan.pdf">http://www.uxolao.org/Download%20files/2009%20Work%20Plan.pdf</a>

(2) List of Major Statistical Surveys

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
1	Opium Poppy Cultivation in South East Asia: Lao PDR, Myanmar	United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC)	2009/12	Each year since 1992.	<a href="http://www.unodc.org/documents/crop-monitoring/SEA_Opium_survey_2009.pdf">http://www.unodc.org/documents/crop-monitoring/SEA_Opium_survey_2009.pdf</a>
2	Statistical Yearbook of 2008	Department of Statistics (DOS), Ministry of Planning and Investment	2009/06	Each year.	<a href="http://www.nsc.gov.la/Products.htm">http://www.nsc.gov.la/Products.htm</a>
3	Monitoring the situation of children and woman Multiple Indicator Cluster Survey (MICS) 2006	Ministry of Planning and Investment Department of Statistics	2006	MICS 2006 is the third MICS.	Obtained from Lao PDR.
4	Socio-Economic Atlas of Lao PDR. An Analysis based on the 2005 Population and Housing Census	DOS, Ministry of Planning and Investment, Swiss National Centre of Competence in Research (NCCR) North-South Switzerland, Centre for Development and Environment, University of Bern and Lao National Mekong Committee Secretariat, Water Resources and Environmental Administration, Prime Minister's Office, Government of Lao PDR	2008	Census data mapped for the first time.	<a href="http://www.laoatlans.net/Welcome.html">http://www.laoatlans.net/Welcome.html</a>
5	The Geography of Poverty and Inequality in the Lao PDR	Swiss NCCR North-South and International Food Policy Research Institute (IFPRI)	2008	First time.	<a href="http://www.laoatlans.net/links/PDF/The%20Geography%20of%20Poverty%20and%20Inequality%20in%20the%20Lao%20PDR.pdf">http://www.laoatlans.net/links/PDF/The%20Geography%20of%20Poverty%20and%20Inequality%20in%20the%20Lao%20PDR.pdf</a>
6	<Publication> Population and Housing Census 2005	Lao Department of Statistic (DOS). (former National Statistics Centre).	2007	This is the third census undertaken by the Lao PDR Government. It was carried out in March 2005, ten years after the second census 1995 and twenty years after the first survey in 1985.	<a href="http://www.nsc.gov.la/PopulationCensus2005.htm">http://www.nsc.gov.la/PopulationCensus2005.htm</a>
7	Economic Census, 2006 Volume 1	Steering Committee on Economic Census	2007	The first large enterprise survey in Lao	Obtained from National Statistics Centre, March 2010
8	Lao Reproductive Health Survey 2005 (LRHS)	Committee for Planning and Cooperation, National Statistics Centre, supported by UNFPA	2007	Third survey.	Obtained from National Statistics Centre, March 2010
9	Poverty Trend 1992/03-2002/03	Committee for Planning and Investments, National Statistics of Center, and WB	2006/09	This paper draws on the series of three LECS from 1992/3 to 2002/3, to measure trends in poverty over 10 years.	Obtained from National Statistics Centre, March 2010

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
10	Laos Opium Survey 2005	United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC)	2005/06	Each year since 1992.	<a href="http://www.unodc.org/pdf/laopdr/lao_opium_survey_2005.pdf">http://www.unodc.org/pdf/laopdr/lao_opium_survey_2005.pdf</a>
11	Lao Expenditure and Consumption Survey 2002/03 LECS III	Committee for Planning and Cooperation, National Statistics Centre	2004/03	This is the third survey of this type; the first was conducted in 1992/93 and the second one in 1997/98. LECS III was conducted for 12 months from March 2002 to February 2003.	<a href="http://www.nsc.gov.la/LECS3.htm">http://www.nsc.gov.la/LECS3.htm</a>
12	Preliminary Assessment of Illegal Labour Migration and Trafficking in Children and Women for Labour Exploitation	ILO, Mekong Sub-regional project to combat trafficking in Children and Women	2003/01	Part of the project launched in 1997 August to assist children in difficult circumstances with support from UNICEF, Save the Children UK and Church World Service.	Obtained from National Statistics Centre, March 2010
13	Opium Poppy Cultivation in South East Asia: Lao PDR, Myanmar	United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC)	2008/12	Each year since 1992.	<a href="http://www.unodc.org/documents/easiaandpacific/2009/02/opium-poppy-cultivation-in-south-east-asia-opium-report-2008.pdf">http://www.unodc.org/documents/easiaandpacific/2009/02/opium-poppy-cultivation-in-south-east-asia-opium-report-2008.pdf</a>
14	<Publication> The household of Lao PDR Social and economic indicators 2007/08 LECS 4	Ministry of Planning and Investment, Department of Statistics	2009/05	This is the fourth survey of this type; the first was conducted in 1992/93, the second in 1997/98 and the third in 2002/03.	Obtained from Lao PDR.
15	Public Expenditure Tracking Survey (PETS) in Primary Education and Primary Health Making services reach poor people	The World Bank	2008/03	PETS projects begin in June 2004. After designing and field-testing the questionnaires in October 2005, field survey was conducted in 2006 (Jan-Mar).	<a href="http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSCContentServer/WDSP/IB/2008/10/24/000334955_20081024063917/Rendored/PDF/452890WP00BOX0334059B01PUBLIC1.pdf">http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSCContentServer/WDSP/IB/2008/10/24/000334955_20081024063917/Rendored/PDF/452890WP00BOX0334059B01PUBLIC1.pdf</a>
16	Digital Map Data of Lao PDR, ArcGIS ver9.1	Geographic Dept of Ministry of	2009	-	Obtained from GeographicaDept
17	Lao PDR LECS IV (SPSS)	Ministry of Planning and Investment, Department of Statistics	2010	-	Purchased at DOS
18	LaoInfo 5.0	NSC	2009	-	CD-ROM (obtained from NSC)
19	Administrative Atlas and Village Location in Lao PDR (Population and Housing Census, 2005)	Nationa Geographic Department, Department of Statistic	-	-	Obtained from DOS

(3) List of Major Microfinance Institutions

No.	Name of MFI	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activitiy summary	Remarks
1	ACLEDA Bank Lao Ltd	372 21 DongpainaSt PhonsavanNeua, Vientiane 1555, Laos	Tel: 856-21 2649 94 . Fax: +856-21 2649 95	Yin Virak Vice President & Head of International Department	<a href="mailto:yin_virak@acledabank.com.kh">yin_virak@acledabank.com.kh</a>	<a href="http://www.acledabank.com.kh/kh/eng/index.asp">http://www.acledabank.com.kh/kh/eng/index.asp</a>	Offers loan	Main fund sources are savings and shareholder capital
2	Institution Financier de Développement de Phongsaly (IFDP)	Bounnea road, Homsavang village Phongsaly, Laos	Tel: 856 (0) 88-210234	Souvanhtha DEOVANH Director	<a href="mailto:deovanhtha@yahoo.com">deovanhtha@yahoo.com</a>	<a href="http://www.ccl-laos.org/spip.php?article47">http://www.ccl-laos.org/spip.php?article47</a>	Offers loan	-
3	Saynhai Samphanh DTMFI	Savannakhet, Laos	Tel: 041-214596	Samphanhxok Rasphone President	<a href="mailto:saysamone@yahoo.com">saysamone@yahoo.com</a>	-	Offer and provides loans and voluntary savings.	Main fund sources are grants, loans and savings.

(4) List of Major NGOs (international and national) and CSOs

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Website	Activity sectors	Remarks
1	Lao Red Cross	Setthatirath Avenue, Impasse, Xienghune, P.O. Box 650, Vientiane Capital.	Tel: (856-21) 216610; 253014; 215762 Fax: (856-21) 212128; 253014	Dr. Snivourast Sramany, President	<a href="mailto:info@laoredcross.org">info@laoredcross.org</a>	<a href="http://www.laoredcross.org/index_en.php">http://www.laoredcross.org/index_en.php</a>	Currently implementing Primary Health Care Project supported by Danish RC, HIV/AIDS prevention Project supported by Australian and Italian RC, Elderly Care Project supported by Help Age International, Health Education and Wat San Project supported by French, EU, Swiss, Netherlands, New Zealand RC, Safe Blood Recruitment Project supported by Global Fund and German RC, Organizational Development & Capacity Building Project supported by ICRC and Spanish RC and Community Based Disaster Preparedness Project supported by Japanese RC.	Local NGO
2	Action with Lao Children (ALC)	079/2 Samsenthai Road, Ban Sihom, P.O.Box: 1518, Vientiane Municipality Lao PDR	Tel: (856)-(021) 213449 Fax: (856)-(021) 213449	Dara Kanlaya Country representative	<a href="mailto:alclao@laopdr.com">alclao@laopdr.com</a>	-	Education, social development	International NGO
3	Adventist Development and Relief Agency (ADRA)	Unit 5, House 99, Ban Sapanthong Neua, P.O.Box: 5000, Vientiane Municipality Lao PDR	Tel: (856)-(021) 264612 Fax: (856)-(021) 414086	Grant Hillier Country Director, Karmen Till Program Director	<a href="mailto:info@adralos.org">info@adralos.org</a>	<a href="http://www.adralaos.org">www.adralaos.org</a>	Agriculture, Forestry & Fisheries, Data Collection & Analysis, Education, Health Care, Human Resources Development, Natural Resources & Ecology, Social Development	International NGO
4	Agir pour les Femmes en Situation Precaire   Acting for Women in Distressing Circumstances (AFESIP)	Phonesay road, P.O. Box 3128, Vientiane Municipality Lao PDR	Tel: (856)-(021) 413581 Fax: (856)-(021) 413488	Didier BERTRAND Project Director	<a href="mailto:director@afesiplaos.org">director@afesiplaos.org</a>	<a href="http://www.afesiplaos.org">www.afesiplaos.org</a>	Community Development, Education, Emergency and, Humanitarian Relief, Human Resources Development, Income Generation & Economic Development, Social Development	International NGO
5	Aide et Action (AEA)	171/18, Ban Hongkaikao P.O. Box 11019 Vientiane	(856)-(021) 452834 (856)-(021) 453605	Ounheuane Saphakdy Country Program Coordinator	<a href="mailto:ounheuane@aea-sea.org">ounheuane@aea-sea.org</a>	<a href="http://www.aea-sea.org">www.aea-sea.org</a>	Education and Health Care	International NGO
6	BasicNeeds (BN)	House No. 349, Unit 19, Ban Thaphalansay, P.O. Box 3905 Sisattanak, Vientiane Municipality, Lao PDR	Tel: (856)-(021) 480938-9 Fax: (856)-(021) 312981	Chantharavady Choulamany Programme Manager	<a href="mailto:info.laos@basicneeds.org">info.laos@basicneeds.org</a>	<a href="http://www.basicneeds.org">www.basicneeds.org</a>	Community Development, Data Collection & Analysis, Education Health Care, Human Resources Development, Social Development	International NGO

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Website	Activity sectors	Remarks
7	CARE International in Lao PDR (CARE Laos)	329/25 Sibounheuang Road P.O. Box 4328 Ban Sibounheuang, Chanthabouly district, Vientiane	Tel: (856)-(021) 217727, 212991 Fax: (856)-(021) 214 415	Henry Braun Country Director	<a href="mailto:info@carelaos.org">info@carelaos.org</a>	-	Agriculture, Forestry & Fisheries, Community Development Data Collection & Analysis, Education, Emergency and Humanitarian Relief, Health Care, Human Resources Development, Income Generation & Economic Development Natural Resources & Ecology, Social Development	International NGO
8	Christian Reformed World Relief Committee (CRWRC)	Km 3, Thadeau, Siamphon Road 175/15 P.O. Box 4224 Ban Vatnak, Vientiane	Tel: (856)-(021) 313071 Fax: (856)-(021) 313945	Mike Fennema Country Representative	<a href="mailto:crwrclao@gmail.com">crwrclao@gmail.com</a>	<a href="http://www.crwrc.org/development/asia/laos.html">www.crwrc.org/development/asia/laos.html</a>	Community livelihood project in Xiengkhouang supports improvements in basic health and clean water supply for the poor in selected districts.	International NGO
9	Cooperation Internationale pour le Developpement et la Solidarite (CIDSE)	Kamphengmeuang Road P.O. Box 2795 Vientiane Capital	Tel: (856)-(021) 453 995 Fax: (856)-(021) 453 995	Mrs. Khankham Douangvila Country Representative	<a href="mailto:cidseint@cidse.la">cidseint@cidse.la</a>	<a href="http://www.cidse.la">www.cidse.la</a>	Village education, primary health care at village level, household food security, water supply and community forestry with special emphasis on women and youth.	International NGO
10	CONCERN Worldwide	Luang Prabang Road P.O. Box 4374, Vientiane Vientiane	(856)-(021) 213578 (856)-(021) 213577	Luke Stephens Country Director	<a href="mailto:laos.info@concern.net">laos.info@concern.net</a>	<a href="http://www.concernlaopdr.org">www.concernlaopdr.org</a>	Rural development projects in basic health care and education.	International NGO
11	Church World Service (CWS)	047 Saphanthong Rd. P.O. Box 820, Vientiane	Tel: (856)-(021) 313 837 Fax: (856)-(021) 261 841	William H. DANGERS Representative	<a href="mailto:cwslao@laotiel.com">cwslao@laotiel.com</a>	<a href="http://www.cwslao.org">www.cwslao.org</a>	Training of primary school teachers in Oudamxay and Phongsaly; four nonformal training centers for ethnic minority teens in remote northern areas; community center for at risk in Vientiane; and Women and Children in Difficulty Program providing counseling and small scale support for poor women and children in Vientiane.	International NGO
12	Danish Red Cross (DRC)	Setthathirath Rd, Impasse, Xiengnhune, P.O. Box 11845	Tel: (856)-(021) 219559 Fax: (856)-(021) 219420	Dr. Mark Shepherd Delegate	<a href="mailto:masd@drk.dk">masd@drk.dk</a>	-	Supports basic health care service at village level, and awareness-raising	International NGO
13	Family Health International (FHI)	Room 1A/02, Sihom Commerce Center, Souphanouvong Rd., Vientiane	Tel: (856)-(021) 241113, 241131 Fax: (856)-(021) 241140	Phayvieng Philakone Program Manager	<a href="mailto:viengsavanh@fhilaos.org">viengsavanh@fhilaos.org</a>	<a href="http://www.fhi.org">www.fhi.org</a>	Recent projects include HIV/AIDS sentinel surveillance.	International NGO
14	International Cooperation NGO IV-Japan (IV-Japan)	KM2 Ban Nongdouang P.O. Box 7920 Vientiane	Tel: (856)-(021) 261240, (020) 5515122 Fax: (856)-(021) 261240	Sachiko Tominaga Representative	<a href="mailto:ivjapan@laopdr.com">ivjapan@laopdr.com</a>	<a href="http://www.6.ocn.ne.jp/~iv-japan">www.6.ocn.ne.jp/~iv-japan</a>	Recent projects support agriculture and community forestry.	International NGO



No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Website	Activity sectors	Remarks
15	Macfarlane Burnet Institute for Medical Research and Public Health	Souphanouvong Road, Building 06, 4B, Vientiane	Tel: (856)-(021) 250853 Fax: (856)-(021) 250854	Dr. Niramong Chanlivong Country Program Manager	<a href="mailto:burnet@laoteil.com">burnet@laoteil.com</a>	-	HIV/AIDS/STI prevention and treatment projects.	International NGO
16	Mennonite Central Committee (MCC)	House 177, Saladaeng Road P.O. Box 1118 Vientiane	Tel: (856)-(021) 312625 Fax: (856)-(021) 312901	Hien Phimmachanh, Wendy Martin Program Co-Administrators	<a href="mailto:mcclaoinfo@gmail.com">mcclaoinfo@gmail.com</a>	<a href="http://www.mcc.org">www.mcc.org</a>	Primary health care project supports training of village health workers and traditional birth attendants, health awareness and health education. Community development project supports enhancement of women`s skills in silkworm raising and silk weaving.	International NGO
17	Norwegian Church Aid (NCA)	338 Donpamai Road, Ban Thaphalanxay Unit 19, Sisat P.O. Box 4804 Vientiane	Tel: (856)-(021) 315812 Fax: (856)-(021) 354017-20	Margrethe Volden Area Representative	<a href="mailto:ncalaos@lao.pdr.com">ncalaos@lao.pdr.com</a>	<a href="http://www.nca.no">www.nca.no</a>	Prevent human trafficking, and spread of HIV/AIDS, and promote alternatives to opium production.	International NGO
18	Save the Children (Australia)	Unit 16, Phonsavanh Road P.O. Box 2783 213 Ban Phonsavanh Neua, Vientiane, Lao PDR	Tel: (856)-(021) 263744, 415432 Fax: (856)-(021) 314471	Mr. Matthew Pickard Country Director	<a href="mailto:office@savethechildrenlaos.org">office@savethechildrenlaos.org</a>	<a href="http://www.savethechildren.org.au">www.savethechildren.org.au</a>	Primary health project in Xayabury; rural water and sanitation improvements; community development, and support for prevention of HIV/AIDS, drug abuse and trafficking.	International NGO
19	World Vision (WV)	333 Nong Bone Road, Phonxay Village, P.O. Box 312, Vientiane	Tel: (856)-(021) 452100 Fax: (856)-(021) 452101	Mr. Stephen Rozario National Director	<a href="mailto:Laos@wvi.org">Laos@wvi.org</a>	<a href="http://www.wvasiapacific.org/laos">www.wvasiapacific.org/laos</a>	Health services and education to mothers and women of child bearing age.	International NGO

(5) List of Major Socio-economic Research Institutions

No.	Name of Research Institutions	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
1	Gender Resource Information and Development Centre (GRID)	-	Tel: (856-21) 413 228 Fax: (856-21) 416 343	-	<a href="mailto:gridvte@etlao.com">gridvte@etlao.com</a>	<a href="http://www.grid-lwu.org.la/index.html">http://www.grid-lwu.org.la/index.html</a>	Development of guidelines and training materials, gender-awareness and skill training for government staff and mass media etc.	Promotes gender mainstreaming
2	Participatory Development Education Training Centre (PADETC)	P O Box 2147 Vientiane Lao PDR 180 Ban Nakham of Luang Prabang Road, Sikhottabong District, Vientiane	Tel & Fax: (856 21) 219130	-	<a href="mailto:padetc@padetc.org">padetc@padetc.org</a>	<a href="http://www.padetc.org/">http://www.padetc.org/</a>	Training of youth in leadership skills	-
3	Rural Resource and Development Training Centre (RRDTC)	House 292, Unit 22, Ban Saphangmor, Saphangmor Road Hohm 5, Saysettha District, P.O. Box 11633, Vientiane, Lao PDR	Tel: (856) 21 453 091 Fax: (856) 21 453 092	-	<a href="mailto:info@rrdtc.org">info@rrdtc.org</a>	<a href="http://www.rrdtc.org/">http://www.rrdtc.org/</a>	Provide training, research and resources for community development.	An independent, non political Lao Not for Profit Association which is locally managed.
4	National Agriculture and Forestry Research Institute (NAFRI)	-	-	Manoluck Bounsilalath Head, ICT	<a href="mailto:manoluck@nafri.org.la">manoluck@nafri.org.la</a>	<a href="http://www.nafri.org.la/">http://www.nafri.org.la/</a>	Improving efficiency in agriculture production, improving land use and land management processes and feeding back the impacts of rapid agrarian change to policy makers at different levels.	Established in 1999 in order to consolidate agriculture and forestry research activities within the country and develop a coordinated National Agriculture and Forestry Research System.
5	Urban Research Institute (URI)	Box Building, Thanon Dongpalanh, Ban Phonsinoun, Muang Chanthaburi, Vientiane, Laos P O Box 5067	Tel: 856 (0) 21 412285 Fax: 856 (0) 21 416527	Keophilavanh Aphaylath Director General Mobile: 856 (0) 20 552 0422	<a href="mailto:saykhamt@yahoo.com">mailto:saykhamt@yahoo.com</a>	<a href="http://www.culturalprofiles.net/Laos/Units/365.html">http://www.culturalprofiles.net/Laos/Units/365.html</a>	Its duties include: (i) translating Ministry strategy in terms of research, elaborating city planning for both urban and rural areas; (ii) elaborating drafts of norms and technical standards concerning the planning of urban and rural areas; (iii) attracting funds from domestic and international sources in order to develop the technique, technology and research capacity of the communications, transport, post and construction sector, etc.	Established in 1999, a legal technical organisation which functions to assist the Minister of Communications, Transport, Post and Construction in the areas of research, technique and technology of urban planning and other fields.

(6) List of Other References

File No.	Name of Document	Publisher	Year
1	Joint Assessment of Impact and Needs arising from the September 2009 Ketsana Typhoon	Government of Lao PDR, UN Country Team	2009/10
2	Lao PDR Economic Monitor 2009, End year update	WB Vientiane Office	2009/12
3	Hazardous Ground. Cluster Munitions and UXO in the Lao PDR.	UNDP	2009
4	MDG Progress Report for the Lao PDR 2008	Jointly prepared by the Government of the Lao PDR and the United Nations	2009
5	Reducing Poverty of Ethnic Minorities through Natural Resource Management	Asian Development Bank (ADB)	2008
6	SIREN Human trafficking data sheet	United Nations Inter-Agency Project on Human Trafficking (UNIAP): Phase III	2008/03
7	World Food Programme Lao PDR Annual report 2008	WFP	2008
8	Comprehensive Food Security and Vulnerability Analysis (CFSVA)	World Food Programme (WFP)	2007/12
9	Participatory Poverty Assessment II (PPA) 2006. Executive summary	NSC and ADB	2007/10
10	Lao Poverty Assessment Report (LAOPA). From Valleys to Hilltops - 15 Years of Poverty Reduction. Volume II: Main Report	The World Bank (WB), Asian Development Bank (ADB) and Swedish International Development Agency (SIDA). Report No. 38083-LA	2006/09
11	National Third Human Development Report (HDR). International Trade and Human Development Lao PDR 2006	Committee for Planning and Investment (CPI), National Statistics Centre (NSC) and United Nations Development Programme (UNDP)	2006
12	United Nations Common Country Assessment CCA Lao PDR	Government of Lao PDR, UN Country Team	2006/06
13	Country Gender Strategy: Lao PDR. Gender, Poverty and the MDGs.	Asian Development Bank (ADB)	2004
14	MDG Progress Report 2008	Government of Lao PDR (GOL) and UN Agencies	2008
15	Country Economic Memorandum: Realizing the Development Potential of Lao PDR. Report No. 30188-LA	Government of Lao PDR (GOL), World Bank	2004/12
16	Child Trafficking. Broken Promises Shattered Dreams. Profile of Child trafficking in the Lao	Ministry of Labour and Social Welfare, UNICEF	2008/3
17	<Publication> Participatory Poverty Assessment (PPA) 2000	ADB	2001/12
18	Road Improvement and Poverty Reduction. A General Equilibrium Analysis for Lao PDR.	Jayant Menon, ADB and Peter Warr, ANU	2006/10
19	Road Development and Poverty Reduction. The Case of Lao PDR	ADB Institute Discussion paper No. 25. Peter Warr	2005/02
20	Trade Liberalization and Poverty Reduction in Lao PDR	George Fane, ANU	2003/08
22	Broken Lives. Trafficking in Human Beings in the Lao PDR	ADB	2009
23	National Human Development Report, Lao PDR 2001, Advancing Rural Development	UNDP	2001
24	Introduction to PRF: Background, results and prospect	PRF National Office at Committee for Planning and Investment	2007/02

File No.	Name of Document	Publisher	Year
25	Poverty Reduction Fund Annual Report 2006	PRF National Office at Committee for Planning and Investment	2007/03
26	Poverty Reducation Fund Semi-Annual Progress Report Jan-Jun 2008	PRF National Office at Committee for Planning and Investment	2008/08
27	UXO LAO, Annual Report 2007	UXO Lao	2007
28	UXO LAO, Annual Report 2008	UXO Lao	2008
29	Lao PDR: Institutional Strengthening for Poverty Monitoring and Evaluation	ADB Technical Assistance Consultant's Report	2008
30	National Workshop on Aquatic Biodiversity and Nutrition From Rice-based Ecosystems: Enhancing Biodiversity and Agricultural Productivity	FAO	2008
31	Lao People's Democratic Republic : Joing Staff Advisory Note on the Second Poverty Reduction Strategy Paper and Annual Progress Report	IMF	2008/10
32	Lao PDR: 72 Districts identified as Poor	Map produced by NSC/ Data Sources: Poverty Statistics Report, Provincial committees	2004
33	Notes on the First Round on Rapid Assessment of the Impacts of the Economic Crisis on Household and Vulnerable Workers in Lao PDR	World Bank	2009/11
34	Poverty in Lao PDR	N.Kakwani, Bounthavy, Sisouphanhthong, Phonesaly Souksavath, Brent	2001
35	Labor Migration in the Greater Mekong Sub-region, Synthesis Report; Phase 1	Ana Revenga, Pierre Yves-Fallavier, Jennica Larrison, Carmen de Paz Nieves	2006/11
36	Food Price Crisis Response Trust Fund Emergency Project Paper on a proposed Grant in the amount of US \$2 million to the Lao PDR for a Community nutrition Project	The World Bank	2009/08
37	Lao PDR Gender Profile	The World Bank	2005/11
38	Lao PDR: Rural and Agriculture Sector Issues Paper	The World Bank	2006/05
39	Lao PDR Economic Monitor End-Year Update 2009 Recent Economic Development	The World Bank Office, Vientiane	2009
40	Beneficiary Assessment of the Poverty Reduction Fund Project Lao PDR , Final Report	Mr. Oudet Souvannavong, Mixai Techno Engineering and Consulting Ltd	2007/01
41	Mid-Term Report 2003-2005	Committee for Planning and Investment, Poverty Reduction Fund	2006/05
42	PRF: Annual Report 2007	PRF National Office at Committee for Planning and Investment	2008/03
43	Trends and Patterns of Foreign Direct Investment in Lao PDR	Pemasiri J. Gunawardana. School of Applied Economics and Centre for Strategic Economic Studies, Victoria University	2008/01
44	Foreign Direct Investment (FDI) in Land in the Lao PDR	gtz	2009
45	Project Appraisal Document on a Proposed Grant in the Amount of SDR 17.9 million including SDR 5.7 million in Pilot Crisis Response window resources to the Lao PDR for a Road Sector Project	The Wolrd Bank	2010/02

File No.	Name of Document	Publisher	Year
46	<i>Pro-Poor Growth: Concepts and Measurement with country case studies</i>	UNDP Nanak Kakwani (UNDP)/ Shahid Khandker (World Bank)/ Hyun H.Son (Macquarie University)	2004/08
47	Global Hunger Index 2009, the challenge of hunger: focus on financial crisis and gender inequality	Welthungerhilfe/ Internaional Food Policy Research Institute/ Concern Worldwide	2009/10
48	Rural Development in Mountainous Areas of Northern Lao PDR	GTZ	-
49	BWTP Asia Resource Centre for Microfinance: LAOS Country Profile	The Banking With the Poor Network	-
50	LAO PDR: SOCIAL SECURITY	ILO	-
51	Doing Business 2010 Lao PDR	IFC	2010
52	Lao PDR Environmental Monitor	WB, Science, Technology and Environmental Agency	-
53	Lao PDR: Rural and Agriculture Sector Issues Paper	WB	2006
54	Assessment of Development Results, Evaluation of UNDP's Contribution, Lao PDR	UNDP	2007
55	RURAL & MICROFINANCE STATISTICS IN THE LAO PDR 2006	COMMITTEE FOR PLANNING AND INVESTMENT NATIONAL ECONOMIC RESEARCH INSTITUTE	2006
56	Policy Statement for the Development of Sustainable Rural and Micro Finance Sector	Rural and Micro Finance Committee (RMFC), Bank of the Lao PDR	2003
57	Action Plan of Rural Finance Sector Development Program	Rural and Micro Finance Committee (RMFC), Bank of the Lao PDR	2007
58	Paving the Road for Better Capacity	Professor Ken Gwilliams, Institute for Transport Studies, University of Leeds	2007
59	The Poverty Reduction Fund SOCIAL AND ENVIRONMENTAL GUIDELINES	Government of Lao PDR (GOL)	2008
60	Public Administration, Country Profile	Division for Public Administration and Development Management (DPADM) Department of Economic and Social Affairs (DESA), United Nations	2005
61	Fact Sheet –March 2010, Aid Coordination and Aid Effectiveness	UNDP	2010
62	Review of Ongoing Health Financing Reform in Lao PDR and Challenges in Expanding the Current Social Protection Schemes	Reviewed by the Health Financing Technical Working Group in Lao PDR Coordinated by Dr Soulivanh Pholsena and Mr Jean-Marc Thomé	2008
63	UNGASS Country Report	National Committee for the Control of AIDS	2007
64	VIENTIANE DECLARATION ON AID EFFECTIVENESS	Government of Lao PDR (GOL)	-
65	Community-driven Approaches in Lao PDR	WB	2008
66	ADB Progress Report on Tranche Release, Environment and Social Program	ADB	2006
67	Road Development and Poverty Reduction: The Case of Lao PDR	ADB Institute	2005
68	Microfinance Industry Report, Lao PDR	The Foundation for Development Cooperation and The Banking With the Poor Network	2010